

改訂

# 新・房総の夜明け

「伏谷如水と清水次郎長の生きた時代」とその後



「鶴舞藩を知る会」の足跡

二代会長 塚原 茂



# 歴史がとりもつ二人の縁



伏谷如水、次郎長を清水港警固役に抜擢の図 次郎長生家蔵



清水次郎長の墓 静岡市清水区 梅蔭寺



伏谷如水の墓 市原市池和田字岩井戸



# 鶴舞藩家老 伏谷又左衛門(如水)墓所

伏谷又左衛門(如水)は、文政元年(一八一八)生まれで、遠州浜松藩の家老と勤めていました。

慶応四年(一八六八)、新政府軍と幕府軍が争った戊辰戦争では、藩主井上正直が江戸勤め不在であったため、城代の上織部と伏谷如水の決断で新政府軍に属しています。

如水は新政府軍先鋒を浜松に迎え入れ、藩兵を率い、その警護を勤めています。その後、如水は駿府差配裁判所判事を勤め、駿府の司法行政を統括しました。また、この時期、山本長五郎(清水次郎長)と親交があったことも知られています。しかし藩主の上総転封にともない、市原郡石川村の地内(後の鶴舞)に移住し、明治二十二年(一八九)六月二十九日歿しました。七十二歳でした。

## 市原市教育委員会



# 伏谷如水と清水次郎長、碑

伏谷如水(文政元年(一八一八)十一月二十二日藩主井上氏ノ重職トシテ代々仕エタ伏谷家ニ生マレト代ス左衛門ヲ襲名、浜松藩家老ヲ務メタ。諱ハ昭良、如水ハ号デアル。浜松藩ノ上総ヘノ転封ニヨリ明治二年藩主井上正直ニ随行シテ鶴舞ニ移住、明治二十二年六月二十九日七十二歳テ歿シ池和田岩井戸ノ墓所ニ眠ル。明治元年(一八六八)浜松藩ハイチ早ク勤皇ノ意ヲ表明、同年三月二十二日、大総督有栖川宮熾仁親王ニヨリ、如水ハ駿府町差配役ニ任命サレタ。町奉行解体後ノ駿府市政ヲ司ツタ如水ハ次郎長コト山本長五郎ヲ大抜擢シ、清水港周辺ノ警固ニ當ラセタ。次郎長ガ博徒生活ヲ捨テ、世ノタメノタメニ尽クス生キ方ニ転ジタノハ、実ニコノ時カラデアル。如水ノ抜擢登用ニ応工、次郎長ハ維新動乱期ノ清水港周辺ノ治安ヲ全ウシタバカリデナク、ソノ後半生ヲ社会事業家トシテ費イタ。次郎長ニトツテ正ニ生涯ノ恩人トモ言ウベキ如水ノ史実ヲ後世ニ伝エルタメ、清水市ノ「次郎長翁を知る会」会員オヨビ市原市在住ノ如水子孫高石鶴子ヲ力相謀リ、ココニソノ由来ヲ刻シ碑ヲ建立スルモノデアル。

平成十三年二月二十三日

題字 竹内 宏  
撰文 田口英爾



# 新房総の夜明け

伏谷如水と清水次郎長の生きた時代」

## 目次

|                     |    |
|---------------------|----|
| 一、維新の背景             | 5  |
| 二、如水と次郎長生まれる        | 6  |
| 三、将軍、大政奉還           | 7  |
| 四、義軍を追つて官軍が房総へ      | 13 |
| 五、浜松藩は上総へ国替え        | 21 |
| 六、井上正直、長南へ到着        | 24 |
| 七、城下町鶴舞の誕生          | 27 |
| 八、廃藩置県              | 30 |
| 九、次郎長翁を知る会」清水に発足    | 48 |
| 十、鶴舞藩を知る会」市原に発足     | 55 |
| 十一、その後の鶴舞藩を知る会」の諸活動 |    |



## 一、維新の背景

アメリカ東印度艦隊司令長官ペリーは安政元年再度来航し、幕府は日米和親条約に調印した。開港に消極的であった幕府ではあったが安政五年（一八五八）日米修好通商条約及び貿易章程に調印を余儀なくされた。このように外国に対し徐々に国を開きつつある情勢の中で、天皇の意向を無視し開国を進める幕府など倒してしまえという動きが出始め、条約を推し進めた井伊大老が桜田門外で暗殺された。「この調印問題を機に佐幕派と尊皇攘夷派の対立が激化し、幕末の政局は維新への課程を歩むことになった」ともいわれている。



ペリー提督



ペリーの横浜上陸（ハイネ原画 横浜開港資料館蔵）



文政元年 四月十三日  
（八一八）

十一月二十二日



伏谷如水

文政三年 一月 一日

々 十年 一月 一日

々 十一年

九月 二十六日

（八二八）



平田鉄胤

（八四〇）

天保十一年 三月 十六日

嘉永六年 六月 三日

（八五三）



川路聖謨

七月十八日

嘉永七年 一月 十六日  
安政元 一八五四



小柳常吉

◎この日、日本地図の完成を目前にして伊能忠敬が没した。忠敬は享和元年（八〇一）には房総地方の沿岸を測定し、享和元辛酉「沿海日記」の中で四人の門弟と一人の従者を入れ計六名の編成で、検見川から八幡、五井を経て木更津へと歩測しながら向かっているが、市原郡沿岸測量の時には、五井に一泊した旨記録。

◎伏谷家十代目として昭良（又左衛門如水）生まれる。福島県棚倉にて父は伏谷昭羅（棚倉藩家老次席）である。



山本長五郎

◎長五郎（通称次郎長）生まれる。清水港美濃輪で船持ち船頭の父高木三右衛門、母とよの次男。叔父の山本次郎八の養子となる。

◎ジヨソ万次郎が高知県土佐に生まれる。

◎同年七月二十九日、平田鉄胤は門弟有田右衛門一人を連れて房総へ旅発つた。下総北総を廻つて九月二十五日の夕刻には本納へ到着一泊。翌二十六日市原郡へ入る。鉄胤日記によると昨夜からの雨が未だ上がらないけれども午前九時頃本納を出発して、茂原・長南を経て夕暮方に加茂へ着いた。長南と加茂の間は山路峻険で大分困つた。加茂では加茂大神宮神主平田正常任方へ泊まった。主人は留守であつたが小幡因幡が来て居た」とみえる。

鉄胤（平田篤胤の門人）は幕末・明治の国学者・神道家で選ばれて篤胤の養子となつた。後、明治二年正月、明治天皇最初の侍講となる人物である。

◎渋澤栄一、現在の埼玉県深谷市血洗島に生まれる。

◎ペリー艦隊、浦賀へ来航。黒船四隻を率い、開国と通商を迫る。二百五十年の泰平の眠りを醒された江戸の町は騒然となる。

開国か、攘夷か、激動の時代の幕が開いた。

ペリー提督はアメリカ大統領フィリップ・モアからの国書を幕府に手渡し、来春受け取りに来る旨宣言。江戸湾から去つた。

◎今度はロシア使節極東艦隊司令官プチャーチンが、これも軍艦四隻を従えて長崎に寄港。国境問題や通商で迫る。幕府は、日本側交渉全権に勘定奉行川路聖謨（詩人川路柳虹の曾祖父）を任命し、長崎へ派遣。樺太北緯五十度以南や千島列島、千島島の我が国領有を主張した。又、外国船の来航により国防の急務を痛感し、川路は江戸湾品川沖に台場を築く。

◎ペリー提督は今度は七隻の艦隊を率いて予告どおり条約締結のため、江戸湾に来航。その露骨な軍事的圧力に屈した幕府は、三月三日には日米和親条約を締結。下田と函館二港の開港、薪木、食料石炭等の供給の設定がされた。黒船襲来による日本の危機に「相撲会所」が協力。幕府から米三百俵、鶏三百羽の贈り物をしたときの船積み作業で発揮し、又、応接所で行われた相撲の技披露の席上では、飛び入り参加したボクシング経験者一人、レスリング経験者二人の計三人のアメリカ水兵と相撲をとって投げ飛ばし、ヤンヤの喝采を浴び江戸市民の溜飲を下げた力士は現市原市上高根出身の大関小柳常吉である。



嘉永七年七月二十日

◎天田愚庵が奥州磐城平藩 安藤信正の臣、甘田平太夫の五男として平城下に生まれる。初めの名は甘田久五郎、後に甘田五郎と改めた。明治十七年「東海遊俠伝」を出版す。

7

安政 五年六月十九日

◎神奈川沖のポーダン号上でアメリカ総領事ハリスと幕府側全権の下田奉行井上清直 海防掛目付岩瀬忠震との間で日米修好通商条約と貿易章程が調印された。

安政六年一月二十六日

(八五九)



◎遠州浜松城の北西、武家屋敷名残町に石川倉次が生まれる。明治元年浜松藩主井上河内守、上総国鶴舞への国替えに随行。後に明治二十三年、日本点字を翻案「多くの人の闇に光を与えた」。

十月二十日



◎成川揆生まれる。長じて明治三十八年五月の日本海海戦において仮装巡洋艦信濃丸艦長として暗夜を哨戒中、五島列島付近でバルチック艦隊を発見。敵艦隊見ゆ」と歴史的な打電をした。石川倉次と同じく鶴舞藩士族出身である成川揆も日本国に大きな貢献をした。現市原市鶴舞の歴史的な人物の一人でもある。

万延元年 一月十九日  
(八六〇)

◎艦長勝海舟が指揮する幕府軍艦咸臨丸が浦賀を出航、アメリカの首都ワシントンに向かった。通訳は中浜 ヅヨウ万次郎で福沢諭吉も乗り込み、日本人の手で初めての太平洋横断へ出航したのである。これは日米修好通商条約の批准書交換の為に派遣された遣米使節団の随行船であった。

一月二十二日



遣米使節団 村垣範正 新見正興 小栗忠順

◎新見正興、村垣範正、小栗忠順ら遣米使節団一行七十七名がアメリカ軍艦ポーダン号に乗船、横浜を出航。この中に副使村垣淡路守範正の従者として現市原市馬立牧野家出身で江戸に住む松山吉次郎好徳が乗船していた。



加藤実之吉氏

後日、松山自筆の航海日誌が発見され、苦闘の末、解読に成功した日本弘道会 会員加藤実之吉翁は、夫の弘道歌壇遺歌集「冬翠」の出版に努力された、とく夫人と市原市牛久に眠る。

三月二十四日

◎桜田門外で大老・井伊直弼が水戸脱藩浪士らに殺害される

慶応三年十月 十三日  
(八六七)

◎第十五代將軍、徳川慶喜は、二条城に参集した幕臣に対して大政奉還の決意を公表した。開国か鎖国か、佐幕か、勤皇か揺らぐ幕藩体制、遂にその決断をする日が来た。…長州藩、薩摩藩に倒幕の密勅が出る。

十月 十四日

◎慶喜は、大政奉還の建白書を朝廷に提出、翌日受理される。(この年、伏谷如水は家督を長男惇に譲る)

十一月十五日

◎維新への夢目前にして、京都四条河原町の醤油商近江屋に居た坂本龍馬(三十三歳)と中岡慎太郎が幕府見廻り組の七人に斬りつけられ暗殺される。



慶応 三年十二月九日

◎大政奉還受理後も慶喜が就いていた征夷大將軍職や摂政関白制度を廃止しようと薩摩・土佐・広島藩兵が御所の全ての門を固めるといふ嚴重な警戒下で討幕派は、天皇の名のもとに「王政復古」の号令を下し、將軍慶喜に「辞官納地」が命じられた。<sup>8</sup>

このクーデターを中心人物は岩倉具視、大久保利通、西郷隆盛でさらに御三家ながら尊皇派の尾張藩がこれに加わっていた。

慶応 四年 一月 二日

◎旧幕府軍と会津、桑名藩など佐幕派の連合軍は一日朝、大坂を出発、淀城に入った。



松平豊前守

大多喜藩主松平豊前守が、勝海舟に洋式教練の指導者を大多喜藩へ派遣要請したのが文久三年（一八六三）、教官山県栄次郎が幕府の士官学校ともいふべき講武所から赴任し、その時に訓練された姿の黒ラシヤの洋服を武士に着せ、ズボンははかせ、肩に大刀を背負わせ、腰に小刀を帯び、外国の銃を持たせ、腰に彈藥箱をつけ、帽子は陣笠を用いて、更に足にはなんと草鞋履きという服装の上総大多喜藩士四十九名が幕軍として参陣していた。

一月 三日

◎鳥羽・伏見で薩長と旧幕府軍が衝突。戊辰戦争始まる。

新政府側、旧幕府側のどちらに従軍すべきか。日本を二分する戦いに各藩は大きく揺れた。旧幕府軍一万五千の作戦、陣頭指揮は老中格の大多喜藩主松平豊前守で、戦いは白兵戦が主で、用いた銃は古風なゲベル銃であった。これに対し倒幕軍五千の薩長軍はアメリカ製スヘンサー元込め銃などの新式銃で対抗、優秀な火が一斉に火を吹き、旧幕府軍を圧倒した。

翌四日には鳥羽・伏見方面での戦いで幕府側が大敗した事は江戸の市中にも知れ渡った。

◎薩摩・長州藩ら倒幕軍が錦の御旗を押し立てたことにより、幕府側の諸藩が朝敵とされることを恐れて兵を退き、そのため総崩れとなった。



一月 六日

◎鳥羽・伏見の戦いに敗れた將軍慶喜は、退却していた大坂城を僅かの側近を連れて脱出。大坂湾のアメリカ軍艦イロクオイ号に助けられてから、幕府旗艦開陽丸に移り、渋る海軍総裁榎本武揚に命じて江戸に敗走。大多喜藩主松平豊前守も後を追って逃げ帰って来た。



開陽丸

一月 七日

◎新政府は徳川慶喜追討令を発した。つづいて十日には慶喜や大多喜藩主松平豊前守等二十七名の官位が没収された。



（一八六八）

慶応四年二月一日

○浜松藩では佐幕勤皇両派の対立が続いていたが、城代家老井上織部と伏谷如水の決断で勤皇に藩論を統一し、城代井上以下、家老伏谷又左衛門如水、神部杵奥山三右衛門、高瀬麻右衛門、年寄多川善右衛門、浅村勝司、津川矢柄の連署で勤皇請書を名古屋尾張藩へ提出した。

二月二日

○親征につき浜松藩に東海道への出兵が命じられた。

二月九日

○新政府軍は旧幕府追討軍として官軍を結成し、東海道東山道北陸道の三隊に分け、有栖川宮熾仁親王を東征大総督に任命し京都を出発、江戸へ向かった。

二月十二日

○將軍慶喜は上野東叡山大慈院に蟄居、恭順謝罪書を提出。鳥羽伏見の戦いで敗れた松平豊前守は大多喜城に還つて来た。

二月二十二日

○浜松藩伏谷又左衛門・惇が先鋒総督橋本実梁少将、副総督柳原前光侍従を国境まで出迎え、先導して浜松に到着した。

二月二十五日

○浜松藩伏谷又左衛門・惇は、銃隊士三百名を含む四百十七名率い、浜松を発ち総督軍に随従。

三月五日

○新政府軍は三月三日には箱根を越え小田原城を接收。既に先発軍は多摩川を越えて戦陣を敷き、刻々と時は迫る。

一方、有栖川宮熾仁親王率いる東征軍は、旧幕強硬派の桑名藩をはじめ東国の諸藩主に王政復古への忠誠を誓わせながら、三月五日家康ゆかりの駿府城に到着した。いよいよ箱根の山を前にして東征軍は江戸城総攻撃の期限を三月十五日と発表した。これを受けて、江戸城内の動きも慌ただしくなった。

江戸城総攻撃が迫ると、江戸町民をはじめ、旗本やその家臣などの家族の多くは戦火を避けるため、江戸を脱出した。

「政道のこととはわかんねーが、世の中で一番えれー筈の將軍様が謹慎なんて聞いたことがねー」と



三月六日

○旗本の山岡鉄舟は、薩摩藩士益満休之助と東征大総督府の置かれた駿府に向けて江戸を旅立ち、早馬を走らせ東海道を疾走した。

山岡は江戸城総攻撃を前に徳川家を代表する使者として抜擢され、懐には旧幕軍、陸軍総裁勝海舟から新政府軍参謀、西郷隆盛への書状が託されていた。

慶喜、恭順の意志あり」と



○翌七日、清水の手前薩埵峠で官軍に出会った鉄舟は倉沢の望嶽亭に逃げ込み助けを求めた。望嶽亭の主人は訳を聞き、急ぎ蔵座敷に入れ、鉄舟を漁師に変装させ、秘密の階段を降り浜へ出る。主人七郎平は鉄舟の身柄を頼む手紙を次郎長宛に持たせ、船頭を付けて海路清水へと逃がす。



慶応四年三月九日

◎山岡は官軍の見張りの手薄な久能街道を通つて駿府に入り、官軍総司令官本部、松崎源兵衛宅に居る西郷隆盛の元に無事到着。単身駿府に乗り込んだ鉄舟は、即日西郷と会談。山岡の熱弁とねばり、更に堂々たる内容の勝の手紙に、さしもの西郷も心を動かして、ついに慶喜延命に応じ、江戸城総攻撃が中止の方向へと舵がとられたのはこの日である。



益満休之助

◎益満休之助は慶応三年末、西郷隆盛の密命を帯びて伊牟田尚平らとともに江戸へ赴き、江戸薩摩藩邸を本拠として中村勇吉、相楽総三ら約五百名の浪人を集め江戸市内を意図的に混乱させる工作をした。江戸薩摩藩邸の焼討事件（その狙いは、幕府の施政を妨害し、挙兵させ、それによつて江戸を中心とした関東地区を攪乱すること、民衆の不安を煽り、尊皇攘夷の大義名分を得て、新政府実現へのきかけとすること）であった。

果たして狙い通りに江戸取締役を務めていた庄内藩軍を主力とする幕府軍が江戸薩摩藩邸を襲撃、この知らせが大坂城に至り、会津藩及び桑名藩を刺激し、鳥羽伏見の戦いが勃発した。のち、益満は幕府方により逮捕され処刑される直前に勝海舟によつて身請け幽閉されていた。

時至れり、慶応四年三月、新政府軍の江戸城総攻撃に際し、勝海舟の命を受け、幕府の使者 山岡鉄舟と早馬で駿府総督府へ。鉄舟と大役を務め、西郷隆盛との会見を成功させた功労者である。益満は二ヶ月後の彰義隊との上野戦争で、流れ弾にあたり横濱の野戦病院で最期を遂げたと伝わる。享年二十八歳。



山岡鉄舟と東海道を疾走する益満

益満休之助を手当てし、その最期を看取った関寛斎の奥羽出張病院日記」 参照 関寛斎を探索し著した川崎巳三郎 文芸もばら二十九号 乾浩文章）によると

益満休之助右脚下貫通創膝骨挫傷、テタニヲ破傷風（二テ二十六日死ス

関寛斎は、文政十三年二月十八日に、上総国山辺郡中村 東金市東中）の農家、吉井佐兵衛、幸子の長男として生まれる。八歳の時に伯父関俊輔の元に引き取られる。十八歳で佐倉順天堂に入り、佐藤泰然に蘭医学を学び二十六歳で銚子で開業。豪商濱口梧陵と出会いその支援で長崎に留学。その後、徳島藩主 蜂須賀斉裕の御典医となり、戊辰戦争に際しては奥羽出張病院頭取として、敵味方の別なく負傷兵の治療に当たる。ところが、思うところがつて、士分を捨てて民に下り、徳島に帰つて市井の医師として爾来三十有余年庶民の治療に当たり「関大明神」と慕われていた。貧困な患者と関わるなかで、栄養失調で亡くなる者たちに十分な食物を与えることを決意し、北海道を開拓し農業生産を高めるべきだと一念発起し明治三十五年、七十三歳にして北海道に渡り斗満の開墾をしながらアイヌや開拓農民の治療も行う。大正元年（一九一二）服毒により自死、八十二歳



関 寛斎

慶応四年三月十二日

◎上総国市原郡奉免村を知行所としていた旗本酒井公や家臣の家族は、十二日に江戸から海路五井へ渡り、奉免満蔵寺に一行が到着し、身を寄せたのは三月二十一日のことであった。（この時の置き土産、酒井公の馬の鞍が満蔵寺に保存されているという）

三月十三日

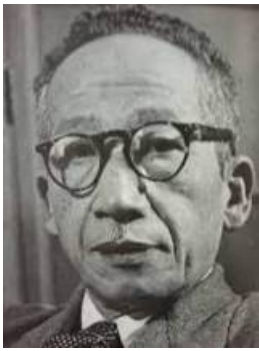
◎官軍は既に東海道、中山道、甲州街道の三方から江戸包囲態勢を完了、総攻撃を待つばかりのなか、西郷は高輪の薩摩藩邸に入り、勝も即日藩邸に赴き、両者会見。

十四日

◎「慶喜切腹」を叫び続けていた西郷も徳川との妥協をみ、慶喜と江戸の町が間一髪、危機から回避された。



三月十五日



川路柳虹

◎江戸城が倒幕軍の手に落ちるのを悲しんで自らの命を絶った幕吏がいた。幕末にひとときわ鋭い光彩を放った俊傑、川路聖謨である。一步道を誤れば諸外国の植民地になりかねない激動期に、欧米列国との至難な外交交渉、国内のめまぐるしい混乱を経て日本を明治維新にすべりこませた一人である。

後に、明治二十一年、聖謨の曾孫、誠が誕生するが、太平洋戦時下、市原郡鶴舞に移り住み、詩作や著述、絵画に耽り、又市内に多くの校歌（小中高で十一校）を遺された詩人の川路柳虹である。

慶応四年三月二三日



伏谷如水、次郎長を抜擢

◎格式高い譜代浜松藩も既に勤皇を表明し、藩の一隊を率いて先鋒総督軍に加わり東下していた家老伏谷又左衛門如水、駿府町差配役となり、駿府治安に当たる。

官軍が東に向かうこの頃、伏谷如水は長五郎（清水の次郎長）を召し出し、街道警固を命ず。渡世人の次郎長にとつては如水によって一大転機が訪れたのである。

◎勝沼で大敗した新撰組近藤勇と土方歳三は三月二十日頃、葛飾五兵衛新田の金子邸に屯営して再起を図ろうとしたが、官軍は既に流山を包囲す。少数の幹部が留守しているだけでは到底戦えず、近藤は敢えて官軍に身を投じた。





近藤 勇

慶応 四年 四月十一日



戊辰における房総戦争



請西藩主・林忠崇



大鳥圭介

近藤勇が板橋で斬首されたのは四月二十五日であった。  
この日、黒紋付に亀綾の着物を着た近藤は山駕籠で刑場に運ばれたという。斬首したのは、東山道総督府付きの岡田の家臣横倉喜三次であった。

◎江戸城が無血開城。

しかし、誇り高き江戸武士にしてみれば、憎むべき薩長軍と一戦も交えずに、屈辱的な降伏をしたことは堪えられない不満だつたに違いない。何とかして自分たちの聖地である江戸を取り戻したいと考えるのは自然なことだつた。反乱の起るべきことは多くの人々が予想していたことだつた。

そこで、血の氣の多い武士達の中には、江戸の地で反旗を翻し、薩長軍を追ひ払おうと考える者達と、江戸を脱出して周辺の要地に根拠を構え、そこから反撃に出ようという、いわば、ゲリラ戦法を取ろうとする者達もいたのである。

前者の立場を取ろうとする者達は、後に彰義隊を結成して上野戦争をおこすことになり、後者の立場を選んだ者達は江戸に近い房総等で反乱を企てるようになったのである。

房総戦争は、だいたい、北総（下総）を戦場としたものと、南総（上総）を戦場としたものの二つに分けて考えられる。

北総は概ね市川 船橋 流山 地域が舞台となり、南総は木更津 久留里 真里谷 地域が舞台となつていく。そして、北総軍は幕府の歩兵奉行大鳥圭介を王将とした舞台であり、南総軍は幕府の撤兵頭福田八郎右衛門を王将とする部隊であつた。

ところが、もう一つ別の反乱部隊があつたのである。

それは、上総請西藩主林忠崇を王将とするものであるが、この部隊は福田部隊から協力を望まれたのであるが、これを受けず、一匹狼式の別派行動をとり、当初は飯野（富津市）勝山（鋸南町）から館山辺りで行動していたが、後に海を渡つて小田原 箱根 方面に進路を変えてしまうのである。

◎徳川慶喜は寛永寺の大慈院から駕籠で水戸街道を進み、謹慎地先水戸弘道館へと旅発つた。

しかし、幕臣のなかには江戸開城に不満を持つ者も多く、歩兵奉行大鳥圭介は幕兵約千六百名を率いて下総の中山に、撤兵隊徳川義軍（隊長福田八郎右衛門道直以下千五百名は十日江戸を脱出、船で寒川に上陸し、上総八幡で泊、翌日姉ヶ崎に進み更に木更津南町証誠寺橋の近くの「島屋」という大きな染物屋に本陣を構えた。





慶応四年四月二五日



真如寺

◎しかし、平地の木更津は大軍を維持するのに不適であったので、撤兵隊は本営を山間部の真里谷真如寺に移動することとし、福田義軍は第一大隊を市川、第二大隊は船橋に、第三大隊は上総姉ヶ崎に進駐させ、第四、第五の二大隊は木更津及び真里谷に置くこととした。

この撤兵隊の軍略は、上総地方を佐幕軍で占拠することにあつた。その対象とされた大きな目標は、木更津の隣村にあつた請西林氏と、富津台場の守備に任じていた川越藩松平氏の守備隊、佐貫藩阿部氏と久留里藩黒田氏であつた。

これらに対して強力に働きかけたため、各藩内は、佐幕と恭順の二派に分裂し激しく対立し抗争することとなる。

先ず第四、第五大隊は横田村から真里谷真如寺に向かい、横田の総名主葛田藤右衛門邸を本陣として使者を出し久留里城への開城勧告状を送った。この時、城中で撤兵隊との渉外に当たった田丸建蔵は、三番家老であつたが、中立論をとつて形勢の推移を観望するため、できるだけ交渉を長引かせて撤兵隊の動向を見つめていた。

このような動きに対し官軍側は副総督の柳原前光を房総鎮撫使に任命し、副参謀は伏谷又左衛門(惇)とし他に三人の参謀をおき、薩長等六藩の兵を佐倉城下に差し向け房総に薩摩や長州などの官軍が進軍してくる事になった。



幕府軍



柳原前光

慶応四年閏四月三日



養老川とその周辺の墓地

◎一方、市川、船橋方面に集結した撤兵隊は江戸脱走兵及び各藩佐幕派有志の混成軍として、官軍と激烈な市街戦を行ったが敗れ、検見川から蘇我に退き、浜野と八幡宿の間にある村田川で防戦しようとしたが、川があまりに狭く陣地になるような所もなく、五井に向かつて退却する一方であつた。

官軍の薩摩、佐土原、備前、大村、津、長州の各藩兵が追尾し、五井の五所に大砲を据え、ぶっぱなすと五井町の役場付近の田圃へ落ちたりしているなか、義軍はまず養老川を背水として官軍を阻止する作戦であつた。

房総西線五井駅の南方の養老川鉄橋の西側近くの竹藪や、吹上橋とその上流養老橋の中間にある川岸の竹藪や松林一帯、現在の南総病院付近での閏四月七日の養老川の戦いを「五井戦争」といい、その跡地に点在する墓石は、義軍兵のものと言われている。

慶応四年 閏四月三日



高谷の延命寺



君津市大鷲 妙性寺



講武所教授陣

さて、戦闘は数刻続いたが、官軍が養老川の渡河作戦に成功するや、義軍は姉ヶ崎へ向かつて退却。かくて義軍は各所に敗走、姉ヶ崎から山谷、更に天羽田、上泉、高谷そして真里谷を経て真如寺方面に向かった。

○(この寺は寺僧五十人、寺域二千二百坪、末寺百余、御朱印寺領三十石天寧山真如寺といい、宗派は曹洞宗で寛正五年(一四六四)真里谷城主武田信興の開創したもので、一時は十万石の格式を持つて、峯が三十六、諸国の雲水がいつでも五十人や百人は宿泊していたといふ)

新政府軍の薩長、大村、佐土原の藩兵の一支隊で藤堂監物に率いられた岡山及び津の藩兵達は残敵掃滅のため真里谷に到着した。真如寺の広い浄域は足の踏み場もない程荒れ抜いていて義軍兵の姿は一人も見えなかつたが、再び義軍の巢窟にならぬようにと官軍の指揮官藤堂は寺僧の諒解の元に座敷に障子を積み重ねて火を放ったのは、閏四月八日のことで、折柄晩春の永い日も漸く没しかけて四囲はそろそろ夜の帳に包まれようという頃、さしもの七堂伽藍を誇った名利も数刻の後には全くの廢墟と化してしまつた。

近くの妙泉寺は幸い兵火を逃れ、高谷の延命寺は市原の栢橋、寺谷方面より進撃して来た前橋、生実、鶴牧、飯野の四藩の兵士達によつて真如寺の焼かれた三ヶ月後の八月五日に、又中村大鷲(現君津市)の妙性寺は八月八日に火炎に包まれ、猛火は境内の椎の大木の反面から湯気を噴き出す程であつたといふ。

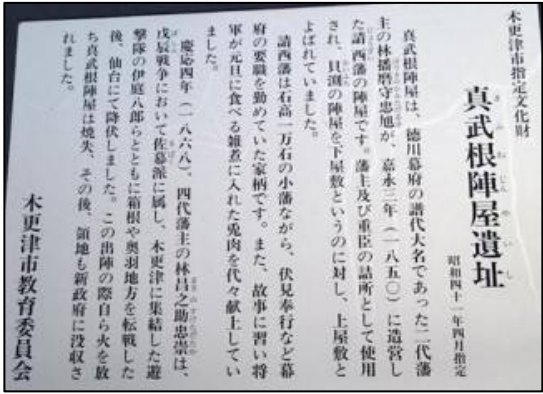
今、山裾から坂道を登り詰めて妙性寺をみると、椎の森が、再建された本堂を守るかの如く今も覆っているが、嘗ての猛火に堪えた幹は痛々しく、梢を吹く風にはその悲鳴も聞こえぬ。

一方、慶応四年四月十七日から四月下旬にかけて撤兵隊と遊撃隊は各々全力を挙げて請西藩の決起を促し迫つたが、藩主林忠崇は遊撃隊の伊庭八郎、人見勝太郎と行動を共にすることになった。遊撃隊の作戦は海を渡り、箱根に出て小田原藩と結んで関所を占領し、江戸にある官軍と京都の連絡を切断して徳川氏の回復を計ることにあつた。

遊撃隊というのは幕府講武所職員とその直系の背年達による佐幕一筋のグループであり、隊長が伊庭で副長が人見」

講武所というのは安政三年(一八五六)四月二十五日に開かれた幕府直轄の武術教授所で生徒は概ね旗本の青年達」であつた。





慶応四年 閏四月四日  
（八六八）



閏四月五日



佐貫城址



富津市佐貫の安楽寺と相場助右衛門の墓所



房総十七藩は大方勤皇方に流されていくなか、ただ一つ木更津の請西藩林忠崇だけは最後まで抵抗し続けた。忠崇は林家十四代の藩主にあたり、大政奉還の年に家督を継いだばかりの青年であった。

徳川家が賊名を受け滅びようとするのを見過ぐすことはできぬ」とし、藩兵七十五名、遊撃隊三十六名は林忠崇が軍令を読み終わった後、大砲を一発放つ真武根陣屋を出陣した。

◎更に義軍は五日、佐貫へ宿陣し、大野 静を使者として佐貫城主阿部駿河守正恒に応援を求めたが、藩主は金子三百両と武器を贈つて佐幕の志を示した。

この佐貫藩佐幕に当たつては勤皇派の藩老相場助右衛門が四月二十八日太鼓櫓石垣横の清水坂を城代家老池上織部と年寄木村又右衛門とが同坂を下城の途中、佐幕派の青年達に狙撃され、惨殺されるという一幕があった。現在どこかしら江戸時代の雰囲気漂わせる商家の並ぶ佐貫街並みを、ゆつたりと流れる染川と名がつく小川の畔の安楽寺に悲運の最後を遂げた相場助右衛門の慰霊碑がある。

このように、少数ながら兵を加えつつ進軍し、閏四月十日には館山湾を出航し相模湾に向かい、でもりなき心や見せん明日の夜は、屍も露に照らす月影」と詠んでいる。

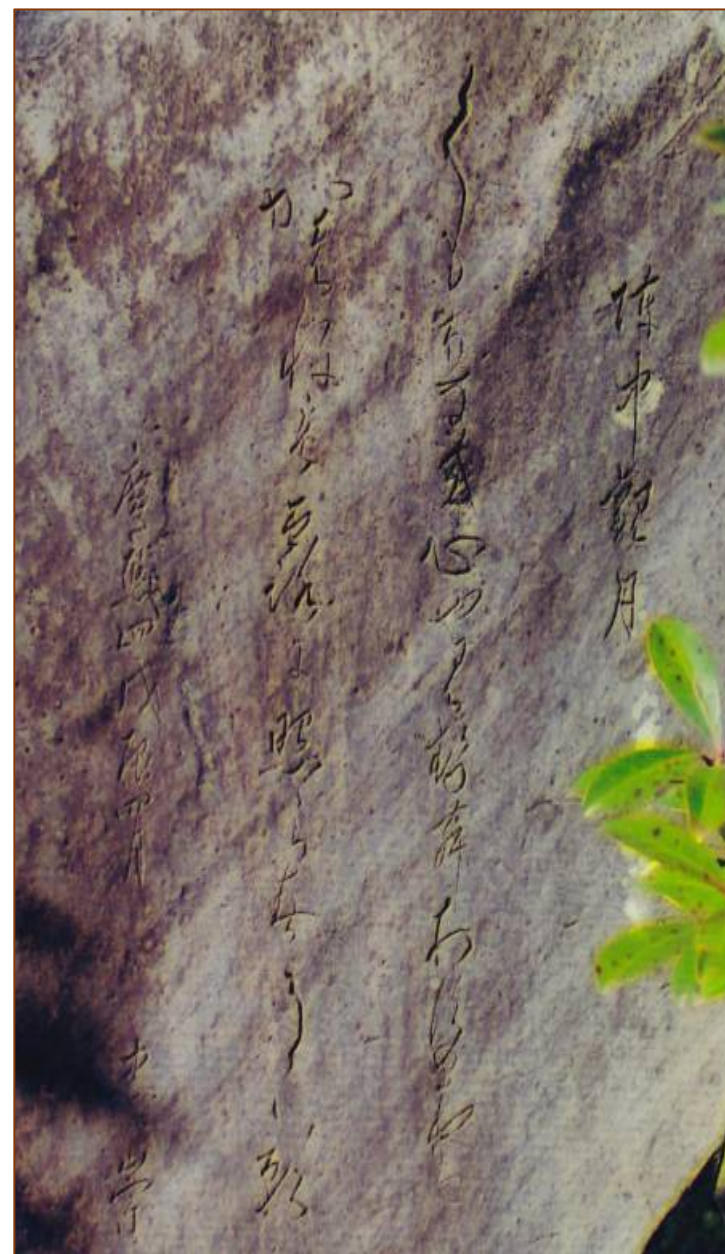
その後を追ってみると、小田原藩内の佐幕派と結んで五月二十日箱根の関所を占領するが、江戸の大総督府の差し向けた新政府軍に敗れ、二十八日に海路安房館山に帰った。館山では陸奥仙台藩士による奥羽越列藩同盟救援の求めに応じ六月一日、旧幕府の軍艦に乗り館山港を出港。陸奥小名浜に着いて以後、忠崇の軍は磐城平湯長谷泉の三藩を転戦するが、いずれも敗北に終わり、列藩同盟も次第に新政府軍によつて切り崩され、ついに九月十五日、同盟の仙台藩が降伏。そのため忠崇は榎本武揚大鳥圭介土方歳三らに従い九月下旬降伏し、十月初旬に東京へ護送され、肥前唐津藩 小笠原長国（六万石）の江戸邸内に禁錮された。領地は没収となり、請西藩は廃藩となった。抗敵の罪を問われて切腹を命じられることを覚悟の上で降伏を決意し、辞世の句を真心のあるかなきかはほり出す腹の血潮の色にぞ知れ」と詠み、その心情をあらわした。





木更津市上根岸 八坂神社

くもりなき心や見せん  
明日の夜は  
屍も露に照らす月影



陣中観月 慶応四戊辰四月 忠崇  
木更津市請西 真武根陣屋跡



慶応四年 閏四月七日  
（一八六八）

◎東海道先鋒副総督の柳原前光は、官軍を率いて下総佐倉城に入り、近藩の重臣各一名を佐倉城外の成徳書院に集めて向背を問うた。房総最大の佐倉藩は、城代平野重久らの決断により、「勤皇軍」に加担することになった。

閏四月八日

◎東海道副総督府の隊長伏谷又左衛門（惇）は、大多喜藩の重臣を佐倉本営に出頭するよう通達した。降伏勧告をする理由は、鳥羽伏見の戦いで大多喜藩主松平豊前守は幕府老中格として重要な役目を果たしていたからである。

閏四月九日

◎大多喜城を目指した官軍一行は、佐倉城下を出発し、岩富町、垣立村を経て東金村で宿陣す。この間八里。隊長の伏谷又左衛門（惇）は浜松藩井上河内守軍兵百人と共に八鶴湖畔の広大な西福寺（現最福寺）に宿営した。当時の食事に供した多数の膳碗が保存されている。



最福寺

閏四月十日

◎更に官軍副総督柳原前光は福俵村、大網村、本納村を経て、同夜は長柄郡茂原村高師の釜屋永瀬邸を本陣とし宿営。一行は藻原寺他にも分宿、茂原地方を宣撫すると共に情勢を探る。大多喜藩主松平豊前守は、すでに大多喜城を出て菩提所（田丁の円照寺）に謹慎、一方鳥羽伏見の戦いに従軍した家臣達も寺院（田丁の東長寺）に謹慎した。内訳は家臣が二十九名、農民兵が二十名であった。



茂原市永瀬邸

閏四月十一日

◎既に先月二十五日に官軍に米百俵を献上していた茂原村の板倉胤臣は副総督の先導となり道案内を申し出、茂原を出発した官軍は上茂原、須田、米満、千田を経て長南村に入り「せや星野家」に宿陣。昔からこの道は大多喜城と江戸を結ぶ重要な街道であったため、星野家は殿様が泊まるほどの屋敷構えであり、初代は伊勢桑名藩の医者をしていた家系である。



板倉胤臣

閏四月十二日

◎長南を出発した官軍一行は佐坪村、小土呂村市部を経て大多喜に到着。



大多喜城

隊長伏谷又左衛門（惇）は官軍を率いて大多喜城に向かつて進んだ。城下を見下ろせる小土呂坂を越えると、総勢二千名ともいわれる官軍勢は一斉に抜刀した。一方、官軍を迎える大多喜城下及びその周辺地域は騒然たる空気に包まれ、各家は戸を閉め、荻谷宿（現いすみ市）方面へ避難する人々も多く、大多喜城下の道路はこたがえす。同日正午頃、烏帽子直垂姿の柳原前光副総督に率いられた官軍部隊が大多喜城追手門より入城した。大玄関から御殿の奥座敷に入った柳原前光から大多喜城明け渡し文書の文書が大多喜藩に手渡された。この時柳原前光は弱冠十八歳であった。



閏四月二十一日



閏四月二十日

慶応四年閏四月十八日



大多喜町・渡邊家

大多喜藩の武装解除が城内二の丸広場で行われ、丸腰の重臣、家臣達から「大多喜武器員数帳」を提出させ、全ての武器を接收し終えて、副総督柳原前光、及び重臣等六名の宿泊場所は大多喜城下の久保町渡邊家と決まった。同家の奥座敷に閏四月十二日から同十九日まで宿泊。聞き慣れない薩摩弁に渡邊家は応対におおわらわであつたという。藩主松平豊前守は佐倉藩へ「お預かり」となり官軍兵士の警固のなかを道中二泊し、同十四日の夕刻佐倉表に着き、竹矢来で囲まれた城中の侍屋敷に拘禁された。

勅使 東海道 柳原前光公御着陣之所  
副総督

慶応四年戊辰四月十二日  
官軍大滝城下に進軍



渡邊家奥座敷柱

◎大多喜藩主松平豊前守は、大河内正質に改名  
松平氏ヲ称スル者ハ速ヤカニ奉氏ニ復スヘシ」の「沙汰」による。

◎大多喜城下に進駐した官軍一行は城を受け取り全房総の鎮圧を完了。この日朝、引き揚げを開始。長南を経て二十一日は潤井戸宿に一泊し、翌日登戸から海路江戸へと向かう。

◎この時、潤井戸の近隣三十六ヶ村の総代名主であり自宅が旅籠でもあつた飛鋪誠一郎家は柳原前光の本陣となつた。本陣以外にも付近一帯の民家に夥しい官軍兵士がどうつと分宿。柳原の身のまわり一切は兵士達がお世話をして、家の者は品物の調達をさせられるだけであつたが、薩摩弁のため言葉が殆ど通せず、怒鳴り散らす有様であつた。又、分宿先の兵士達も宿先で余り歓待されなかつたのであろうか、民家の放し飼いの鶏を鉄砲でポンポン撃ち殺して持ち去るが誰もが怖くて何も言えなかつた。官軍にしても各地で幕府諸軍を撃破して来たとはいえ、敵地深く侵入している事ゆえ、何時ゲリラが攻撃してくるか判らず臨戦態勢で来ているので兵士達も緊張していたことであらう。

翌朝、本陣の前は柳原以下官軍がだんごろろズボン姿で勢揃いし、威風堂々と隊士が太鼓を叩きながら宮さん宮さんお馬の前にひらひらするのは何じやいな」と歌うと、兵士たちは作詩品川弥二郎、作曲大村益次郎の「下コソヤレトソヤレナ」とはやしたてる新式の楽隊に村民は驚いたが、この年の正月頃より街道は急に騒がしくなり、平素ソビリ通行していた侍たちが顔面をこわばらせて早足にて行き来し、早馬が走るなど只事でないとは思感じていたが、このようにして西に向かつて進発して行つた官軍を見送つた村人たちも、ようやくこれからは天朝様の世になつたことを思い知らされることになつたのである。



慶応四年五月 一日

◎東海道先鋒副総督 柳原前光は、大総督府より甲斐地方の鎮撫を命じられた。この時先鋒総督府参謀加勢であつた伏谷又左衛門(惇)は参謀となり、代わりに長州藩士 村田宇一郎が参謀加勢となつた。この日、同副総督軍は江戸を発し、浜松藩兵もこれに従軍、府中に着陣した。五月五日、下花吹駅を出発、勝沼に宿陣し、六日、甲府に着、宿陣する。

五月十五日

◎この日、江戸で官軍勢力に最も強く抵抗していた彰義隊二千弱の隊士が籠もる上野の山の寛永寺を官軍が総攻撃。

戦闘はその日中に決着がつき、官軍の圧倒的な火器の威力の前に彰義隊は壊滅した。官軍の総指揮者は大村益次郎。寛永寺正門の黒門に主力西郷指揮の薩摩藩兵を、長州藩兵を他に配し、攻撃を開始した。なかでも短期に勝敗を決するのに貢献したのが、本郷加賀藩邸に陣取つた江藤新平配下の肥前佐賀藩自慢のアームストロング砲。かつて薩英戦争の際に鹿児島市内まで砲弾の雨を降らせた長距離砲だ。対する彰義隊は打ち込まれる砲弾に身動きできず、結局、上野の山で玉砕を強いられることとなつた。



上野 彰義隊

五月 十七日

◎甲府鎮撫中の浜松藩宛に総督府より上野の彰義隊を撃破したことが同副総督軍に伝えられ、その残党がそちらに逃げ込み再挙を計るかも知れないので、念のため警備を強化しておくよう命じられた。三日後不審者十八名を捕縛。甲府町奉行兼代官の中山誠一郎に預けられた。



遊撃隊戦死者之碑(箱根)

隊長の伏谷又左衛門(惇)は箱根に向かうように達せられたので五月二十五日出陣し、二十九日には沼津に到着、合流した松代・沼津・高遠の四藩と箱根に進軍。この戦いにおいて、旧幕府軍の遊撃隊は敗走した。(前述した木更津請西藩林忠崇率いる遊撃隊はこの戦いで、二十八日、安房館山に帰つたのである)

五月二十四日

◎関東大監察の三条実美は江戸城内において、「徳川家の新本拠は駿府城、禄高は七十萬石」と発表した。

六月 十五日

◎徳川宗家が駿府に封じられるため、三河鎮撫府は、伏谷昭良(又左衛門如水で惇の父)を裁判所判事に任命した。

六月二十五日

◎甲府鎮撫府は、甲府地方の治安が安定してきたと判断し、甲府に出張していた浜松藩兵の半数を浜松に帰藩させるように命じた。

A photograph of a traditional Chinese gate structure, likely the entrance to the Confucius Temple in Qufu, surrounded by lush green trees and foliage. The gate has a dark, tiled roof and is framed by tall, slender trees. The scene is captured in a slightly blurred, artistic style.

◎新政府から安房、上総知県事に任ぜられて八幡宿に進駐した久留米藩士柴山文平は、早速新政の具体的事項を布達した。その項目の一つに「当秋よりの物成等 諸税」是迄の地頭へは一粒たりとも相与え申す間敷く候。もし押し借り等いたし候輩これあり候はば早々訴え出さべく候事」とあつて年貢については、特に強い態度を示している。

その後、諸般の情勢から八月中旬長南宿に移り、同所浄徳寺を知県事役所を選び、長南陣営又は長南役所と称した。

◎その頃伏谷如水は、徳川家達への駿府城引渡御用掛を勤めていた。七月二日引渡しを滞りなく済ませて浜松に帰城する家老伏谷如水を長五郎(清水の次郎長)は大政、小政、田中の啓次郎、増川の仙右衛門ら子分を連れて駕籠を警固しながら浜松まで見送った。

八月十五日

◎徳川家を相続した六歳の徳川家達（田安亀之助）が江戸城の大奥を引き連れて駿府城に入った。



八月十九日

◎大総督府は佐倉城中に拘禁していた大河内正質の処分を解き、大多喜帰城を赦す通達をした。これによつて、大多喜藩主大河内正質は八月二十五日佐倉を出立して、大多喜への帰路についた。

徳川家の駿府入城により、駿・遠七藩は房総へ転封  
各藩は、明治2年正月頃、相前後して移住を開始

Map of the Bōshū region showing the locations of seven藩 (feudal domains) that were transferred from Suruga and Tōtō provinces to Bōshū during the Edo period. The map includes labels for each藩 and their respective domains:

- 菊間藩 5万石 (沼津藩・永野忠雄)
- 榎井藩 (永井藩) 1万石 (沼水 小田原・松平保敏)
- 小久保藩 1万石 (牧之原 榎森藩・田沼忠尋)
- 長尾藩 4万石 (藤枝 田中藩・本多正武)
- 芝山藩 5万石 (奥七藩・本田直英)
- 鶴舞藩 6万石 (沼津藩・井上正重)
- 花房藩 3万5千石 (横須賀藩・西尾忠貞)

◎浜松藩主井上河内守正直は上総国への転封を命ぜられた。実石高は六万九千三十三石八升五合五勺六才であつた。徳川家達の駿府入城に伴い、駿河、遠江二国の七大名は他に国替えを命ぜられたのである。

遠江国浜松藩↓上総国鶴舞藩六万石藩主井上正直(市原)  
遠江国掛川藩↓芝山藩五万石藩主太田資美(芝山)  
遠江国相良藩↓小久保藩一万石藩主由沼意尊(富津)  
遠江国横須賀藩↓安房国花房藩三万五千石藩主西尾忠篤(鴨川)  
駿河国沼津藩↓上総国菊間藩五万石藩主水野忠敬(市原)  
小島藩↓櫻井藩一万石藩主松平(木更津)  
田中藩↓安房国長尾藩四万石藩主本多正訥(白浜)

房総地方には旧幕領が凡そ四十万石以上もあつたから、これら諸侯全て房総地方へ移封。



慶応四年 九月八日  
(一八六八)

九月十八日

## ◎新元号が「明治」と改元された。

◎咸臨丸事件がおきた。明治天皇が京都から江戸 既に二ヶ月前に東京と改められている。へ向かう直前のことであった。

22

一ヶ月ほと前の八月十九日、榎本武揚率いる数百人の旧幕軍が旗艦開陽丸以下八隻の艦隊に乗り込み品川沖を出帆し函館を目指したが、房総沖で猛烈な台風に襲われた。咸臨丸は老朽化し機関が撤去され、帆船となつて回天丸に曳航されていたが引き綱が切れ漂流の末、修理のため清水港に入港。そこを新政府軍艦三隻に砲撃され、副艦長春山弁蔵以下七名は白兵戦で戦死。遺体を海中に投棄された。

新政府軍の軍艦富士山丸以下三艦の去った湾内に投棄された戦死者の浮遊する遺体を片付けようとする者は誰もいなかった。

賊軍に加担する者は厳罪に処す」との厳しい触れが出ていたからである。困った漁師達は清水港の警固役を伏谷如水から任せられている長五郎 清水の次郎長」に泣きつた。親方、何とかならねえだか。このままじゃあ漁にでられねえ」と。やがて咸臨丸乗組みの戦死者七名の遺体が引揚げられ向島の砂原に埋葬され梅蔭寺住職宏田和尚の読経で手厚く供養された。

賊兵の死者の埋葬という次郎長の義拳を、駿府藩庁は黙視する訳にはいかなかった。次郎長の行動は、神経をとがらせている駿府藩当局には公然と体制に刃向かう者として映った。出頭を命ぜられた次郎長は 賊兵を葬うとはお上を恐れぬ行動」と詰め寄る札問官に向かい眉の毛一つ動かさずに死ねば仏だ。仏に官軍も賊軍もあるものか」と言つたと田口英爾氏はその著 清水次郎長と明治維新」に述べている。

山岡鉄舟は、次郎長のこの言葉を聞き、衝撃と言つてよい程の強い感銘を受けた。

草なる博徒ではない」と周囲の者にもらした鉄舟は後に次郎長がこの時の戦死者の墓石を建てようとした時、鉄舟は自ら筆をとつて「壮士墓」と雄渾な筆致で墓碑銘を揮毫した。



山岡鉄舟



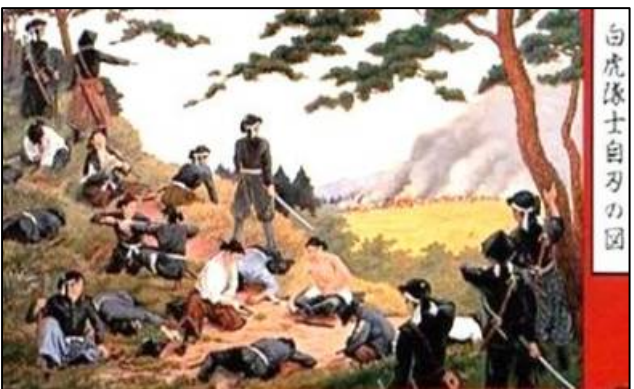
壮士墓



明治元年九月二十日

◎戊辰戦争の激動の最中、十七歳の少年明治天皇は午前八時、京都御所建礼門から鳳輦に乗り旧江戸に向け「東幸」の旅に発し、十月十三日東京入りした。随行したのは岩倉具視 四四、中山忠能 六〇、木戸孝允 三六、等で供の行列に加わつたものは総勢三、三〇〇人余にもものぼり、沿道には新君主を見ようと民衆が殺到した。

明治元年 九月二二日



○新政府軍に包囲され籠城を一ヶ月続けていた会津若松城が遂に落城。砲弾の嵐の中で耐えた会津側は死者三千名余といわれ、奥州各地での攻防を含めて戊辰戦争は最大の戦死者を出すに至った。会津藩の防衛は総力戦であり、参戦した十六才から十七才の少年藩士達もまた、白虎隊に組織された。隊員の多くは藩校日新館で学んでいた。白虎隊最大の悲劇は、新政府側が会津若松城下へ突入して間もない八月二十三日に起きた。城外で防戦に努めていた白虎隊員は敗走途中、雨中煙る飯盛山から遠望して籠城戦に入った城が、もう陥落したと思ひ込み、刺違えるなどして二十名が自決してしまったのだ。しかし、一人だけ助けられ、自刃の全容が明らかになった。白虎隊は年長の藩士達と同等以上に奮闘したという。従って戦死者もまた多かつた。後世に語り継ぐべき悲劇であつた。東北戦争は此処において終結した。



西郷頼母邸

この一ヶ月程前、会津藩家老西郷頼母の若松追手屋敷では悲惨な事件がおきていた。  
いっけどうり敵に辱めを受ける前にと、母律子妻の千重子をはじめ一族二十一名が自決した。  
官軍の一人中島信行 後の第一回衆議院議長が西郷邸内に入り込んだところ、一人の少女が死にきれないで、寢音を聞き、かすかな声で、敵か味方か」といった。信行は胸がつかえて「味方だ」といったら、少女は自分の懐剣を差し出し、「これで命を止めてほしい」と頼んだ。信行はみかねて涙をふるって介錯の手を下した。西軍が滝沢峠を越えて城下に近づく物音が聞こえてきた八月二十三日のことであつた。

十二月十五日 ○上総国へ転封命令の出た浜松藩 後の鶴舞藩は、領地替えの費用として、玄米千二百石、金一万八千両宛三ヶ年間で賜するとの行政官通達を受く。

十二月十六日 ○柴山典 文平が井上河内守へ領地を引渡し、大網在宮谷村の本国寺へ移った。井上正直公は支配地その他の事務引継ぎのため先発させていた家臣の兵隊組隊長 吉野三右衛門、鈴木与治右衛門、上田幸蔵らにその業務を当たらせた。

十二月十八日 ○三保神社神官、太田健太郎が殺害され、妻子は三島に避難。矢田部盛治はこの頃の動静を日記に克明に記している。

明治二年一月二十六日  
(八六九) ○普請奉行手附大工頭伊藤亀三郎が茂原村大工三人を連れて仮本営の見積もりのため長南今関勘四郎宅へ来る。

一月二十七日 ○井上河内守浜松城を出発、上総国へ向かう。  
奥様、お姫様は二月三日御出駕の由。

一月二十八日 ○長南町今関勘四郎邸を井上藩仮本営普請として茂原村大工三十人で始める。(この時の濱姫の新居に葺いたと言われる井上家紋付きの瓦を塚原は所蔵している)



明治 二年 二月 一日

二月 二日  
二月 九日  
二月 十日

○普請奉行塩谷官兵衛、家老奥山三右衛門 諱は脩（以下今関家の検分があった。）

○井上河内守正直、東京へ到着。

○井上河内守正直、東京を出発。

○井上河内守正直、潤井戸泊まり。出迎えの高滝村小幡禰宜はじめ隣村の神主、僧など約三十名は途中の犬成村で泊まる。



### 廻状

御領主様が今十日潤井戸に泊まり、明十一日同所出発、長柄山で昼食、それから古沢村飯お住居へ入られるのでお出迎えのため、犬成村の高山舎人方まで今夕刻までに印形持参で集まること。

明治二年二月十日

明治 二年 二月 十一日



長南町

○早朝出立、長柄山で井上侯の駕籠を迎え、社寺方役人高林弥兵衛が「領分の社寺一同お出迎え」と申し上げ、駕籠付き衆あとの高林氏に続いてお供申し上げ、長南元宿まで来た時に高林氏が「ここまで結構、解散するように」と言われたので長南で中食して帰宅した。

この時に出迎えた神職は二十四、五人、僧は四、五人で連名した名簿を高林氏へ差出した。悴の山城は夕方帰宅した。その話によると殿様は長柄山で中食、元宿から馬で古沢村の飯住居へ無事着かれた由である。

市内宿村方百姓総代 常澄彌惣次の墓誌。

井上侯移住ノ際公立會人」



妙法

是則院勇猛日精居士  
是真院妙勇日聴大師

靈

常澄彌右衛門氏ハ天保五年三月三日宿區常澄小左衛門方ニ生レ幼年富五郎ト稱ス安政二年當家ニ入り彌惣次ト改名ス配ハ天保十一年七月十五日生レニシテたかト稱ス當時家産僅少ナリシモ勤儉ヲ治メ前後購求セル所田七町歩畑壹町九反五畝歩山五町四反歩ノ多キニ至ル氏又公共ニ心ヲ盡シ村方百姓総代井上侯移住ノ際公立會人地租改正事務掛組合組長村會議員區長等ニ歴任セリ土藏物置小 等ハ氏ガ経営セル所ナリ



大正11年撮影の今関家



今関家の今昔



明治二年

二月十三日



市内石川長峰家

二月十七日

古沢の今関勘四郎家は屋号を「棒仁」と呼び近郷に素封家でいられていた。  
その頃の本屋は間口十八間、奥行き七間余り、中二階をつけた広大な建物で酒造を営んでいた。銘酒屋（星之井）の醸造も弘化二年九月には酒造高は二千石に達していたと伝えられる。なお、現存している今関家の門は古来より「公家門」と呼ばれている。井上公仮本営当時のままの今関邸全景写真（大正十一年撮影）が遺されているが、当時の母屋や公家門は現西隣の場所であり、母屋は撤去、門は現在地へ移築されているのがわかる。河内守は藩庁を初めは三途台長福寿寺に置いたが間もなく知県事仮役所のあった同村浄徳寺へ移した。

### 長南町指定史跡

## 公家門・井上藩仮本営跡

昭和五十五年四月一日指定

### 一公家門 一棟

今関家の門は、古来から「公家門」と呼びならわしている。その様式は、この地方に多くある長屋門とは異なり、棟門の両側に守衛の詰所を置き、さらに、その外側に潜戸を取りつけた型式である。樺材の主柱に切妻の屋根をのせ、軸部は竪六・三メートル、これに潜戸の両部分（現在は左側だけ残る）を合せると、九・三メートルあまりの大きさになる。

現在、この門の建造年月日は不明であり、風化され棟札の判読は出来ないが、文化二年（一八〇五）の護摩札が見られる。

屋号を棒仁（上）と呼び、近郷に素封家として知られていた。この門も、奈良一乗院宮家から許されて建造したものと言われ、諸民生活に残された数少ない文化遺産である。

### 一井上藩仮本営跡

遠州（静岡県）浜松の城主であった井上河内守正直が、市原・山辺・埴生・長柄地方二百六ヶ村、六万二千石で転封（国替）となり、明治二年（一八六九）二月十一日より、鶴舞に移る翌三年四月二十一日までの一年二ヶ月間、今関家が井上藩の仮本営とされた。

当時の事は、「井上御殿様仮御本営中井鶴舞表御引違後御用留」に詳細に記されている。その間、主家と新築した離れれ家とが使用され、離れ家には、井上家の井桁文の巴瓦を焼かせ、その瓦は今も一部残っている。

昭和五十五年十月

長南町教育委員会

◎井上河内守は城地探しのため、鶴舞表検分、石川村七郎兵衛宅（名主長峰家）へ泊まる。



◎井上河内守の家族、長南宿に到着。殿様の奥方や姫達が城もない草深い長南に辿り着いた。



## 原野だった台上に城下町 建設工事着手(鶴舞)

桐木原(切木)三軒の本家・分家  
吉野・長谷川・鶴岡の屋敷と伝う内田郷の古地図  
享保11年(1726) 千葉県文書館蔵



茂原市藻原寺

四月二十七日

○藩士山口喜平司は藩庁の設立を新政府に願ひ出た。間もなく桐木原に建設着手。工事完了まで藩士、及びその家族は近隣、村々の寺院、民家に分宿していた。



○四月廿七日三歳になった濱姫が病死され、五月十七日出棺、茂原村寺へ納めるので千田村境までお見送りした。

参考 今関勘四郎の日記

同日の午後、濱姫が病死され、五月十七日出棺、茂原村寺へ納めるので千田村境までお見送りした。

五月十八日 ○函館五稜郭に立て籠もっていた榎本武揚(三四歳)率いる旧幕府軍が遂に降伏し戊辰戦争が終わる。

六月 二日 ○井上河内守参内し、戊辰の役の出兵特に患召される旨の勅語を賜る。

六月 十九日 ○井上公、版籍奉還を三月に上奏していたが、この日鶴舞藩知事「に任命され従来の主地と人民」は朝廷に返上する事となった。

明治 二年六月二四日

○大多喜藩主、大河内正質は、明治新政府より大多喜藩知事に任命されたが、この間、不穏な城地周辺で賊徒討伐の任につき、又、東京城（旧江戸城）の御門警固を命ぜられた。

○井上河内守正直は参内、天杯を頂戴す。

○井上河内守正直は任地に帰着。以後、本格的な施政が始まる。

○松飾りを浜松表の慣例に従って今関勘四郎が作る。

○井上河内守、御蔵米五俵と御紋付麻袴を今関勘四郎に下賜。

27

七月 三日  
七月十六日  
十二月二八日  
十二月三十日

明治 三年 一月 三日  
（一八七〇）

○今関勘四郎は、暮れの頂戴物に対する御礼参りに用人の佐野・春日寺田、奥用人の大橋等の邸に伺い、酒その他を贈る。

一月 五日

○今関勘四郎は、支配地内村役人一同と共に年頭の祝儀を河内守に言上した。

一月 六日

○今関勘四郎は、伏谷、近藤、寺田、佐藤等二十三、四軒の邸へ年始廻りをした。

四月

○この頃、桐木原に藩庁、知事邸宅、藩士の家屋等が落成した。

四月十七日

○知事殿 井上河内守（鶴舞へ引き移ることを各村々へ通達。

四月十八日

○「鶴舞」の町名が正式に決定され、藩名も地形から「鶴舞」と称したといわれ、桐木原の原野が一変して城下町として誕生した。

四月十九日

○「市」の日が決定した。一日は元町筋南北本町通 亀井橋を境とし、六の日は北本町二丁目より三丁目 同横町というように「一」と六」の日に市が開かれることとなった。



四月二十日

○河内守へ今関勘四郎は御目見仰せつかり、御納戸役岩淵同席にて御言葉を賜り、河内守は大判一枚と次の短冊を与えた。

旅枕 むすびそめにし ふるさわの

やどのながれは 千代もたえせじ 正直



明治 三年 四月 二十一日



大手天朝門（鶴舞カルタ）

○河内守は一年余住み慣れた仮本営今関宅を已の中刻午前十時二十分（馬で出立、午の中刻十二時二十分）鶴舞町大手天朝門へ御入着。子息は十九日先発しており、夫人は河内守より少し遅れて已の下刻十一時（に駕籠で出立している。

移転に当たつて大量の人足と馬が各村々に割り当てられた。例えば刑部村へは人足二五八人、馬は二〇三疋で馬一疋につき人足二人宛とし、人足四〇六人を十五日から毎日四〇人宛差し出すようにとの触状である。刑部村一ヶ村ではなく十七ヶ村で組合を作っているので組合の話し合いで前記の人足が毎日出された。



A photograph of a traditional Japanese gate (torii) with a tiled roof, leading to a path and a building in the background. The gate is constructed with dark wood and white panels. The path leads through the gate towards a building with a tiled roof, surrounded by lush greenery and trees. The scene is set in a rural area with a clear sky.



明治三年七月四日



高滝神社

◎井上公、高滝神社に豊熟の祈禱を依頼、名代として仰せつかつた伏谷惇大参事が鳥居より下馬、お供十三人を従え参拝後、  
「今般快晴に御祈禱の使命を果たされ大儀であつた」と神主平田丹領並びに小幡連に伝う。

明治四年 正月  
（八七一）

◎井上正直公が藩主知事として常に領民と苦楽を分かち合うことを旨とし、産業をすすめ、道路を整備し、儉約を令し、風紀を正し、貧民の救済、忠孝節婦、篤農家の表彰、文学をたしなむ者を賞し、全戸への扇子の配布等施政のみるべきものが多くあり

よろづ代のたのみかくべき家ぐにの  
はしらのよつは民にざりける

の和歌を正直が領民を柱として頼みにしていたことの窺える一首である。藩知事井上正直は自作の和歌

一年をいざやのどかに送らまし  
今日立つ春の心なからん

を領内の各名主に送られた時に月崎村坂本文也（柳窓）は即座に

仰がばや今日立つ春の心から  
千代も変わらぬ君の恵みを

と詠んだので知事を驚嘆させ特別の恩賞を頂いたと伝えられる。

彼は田淵村寺の台の名主田村平右衛門の末子として文政六年（八二三）一月二十日に生まれ、長じて、江戸で渡辺崋山の門弟の鈴木貞行、岡崎直信に師事し漢学、洋学並びに医学を修め、更に加茂真淵門弟の夷隅郡の加茂心蒼のもとで国学を研究をした人で頭脳明晰は幼少の頃からであつたと伝えられている。後に月崎村の坂本文也の養子となつている。梅ヶ瀬の日高誠実と深交があり、古希を祝して贈られた夫婦の肖像画の長文の題書の筆跡も日高氏であり、墓碑の夜の延びを覚えて蚊帳の別れかなも同様である。四男二女に恵まれ、そのうち二人は村長を勤め、長男は文哉、二男文内はそろつて文窓、竹窓、梅窓と号し俳名をあげた。

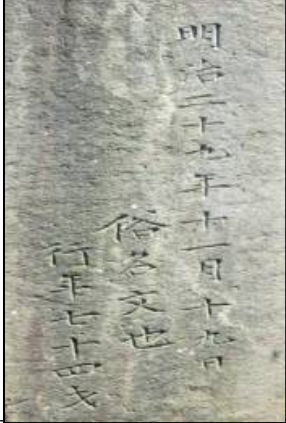
墓所は月崎靈窟山永昌寺靈園の東屋側にある。



坂本文也夫妻像



日高誠実書





明治 四年 一月 八日

◎井上正直公母堂大壽院が死去、二十二日遺体は駕籠にて三十二人が供をして出立、二十四日東京着、白山淨心寺に葬る。  
現在廃寺でマンシヨが建ち、井上家墓所は染井靈園へ移転）  
今関勘四郎も、このお供の一人に加わること許された。

30

四月 四日

◎廃藩置県に先立ち太政官布告によつて戸籍法が制定された。

七月十四日

◎廃藩置県となり 鶴舞藩」は 鶴舞県」となる。

◎鶴舞藩家老伏谷又左衛門如水は、この頃、旧城下の市原郡池和田村字岩井戸に隠居した。

◎鶴舞藩庁での執務は、長南からの移転と同時に始まり、鶴舞県となるまで約一年三ヶ月続いた。



池和田・岩井戸の  
伏谷如水隠居所跡

八月十三日

◎井上正直公、東京へ移住のため出発。  
午前八時、小雨が降つていたという。上総へ転封になった時から数えて約二年十ヶ月という短期間であつた。

十一月十四日

◎宮谷など十六の県が合併して木更津県となり、県庁舎が木更津町に置かれ、県権令は柴原和が任命された。

明治五年一月二九日



◎初めて全国戸籍調査が実施され、男性一、六七九万六、一五八人、女性一、六三一万四、六六七人で合計人口は三千三百十一万八二五人であつた。

県」ができる」と戸籍法が發布されて、行政区画として大小区を設け、永年続いた名主組頭百姓代の村方三役の制度が廃せられ、代わつて戸長 副戸長を任命して、戸籍土地 人民に関する事務をとらせるようになった。木更津県においては三月から）

壬申戸籍」の原本は宗門人別帳を用いたので、神社や寺まで記入され、この戸籍から名字がつけられるようになった。

八月 三日



市内皆吉 天下の学校跡  
(元白石家屋敷跡)

◎国民皆学をめざして学制が公布された。千葉県においては明治六年から小学校が県内各地に建てられた。鶴舞藩藩校 克明館はこの頃まで存続していたと思われる）





牛久教場・正倫小学校跡の圓明院



正倫小学校記念写真・大正4年頃

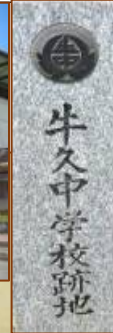


昭和5年3月当時の牛久尋常高等小学校・



皆吉第二教場跡(吉祥寺)

## 牛久地区の学び舎の変遷



牛久中学校 昭和25年新築  
(現南総公民館体育館辺り)



西国吉教場跡(西国吉244)



龍福寺跡

藪教場跡



明治六年六月十五日

◎木更津県、印旛の両県を廃して千葉県となる。県令は柴原和、県庁舎を千葉町に置く旨の布告が出された。

十三年十月吉日

◎元鶴舞藩士倉垣愛が、七二〇名の士族を列記した南総市原郡鶴舞領主君臣神名録」を秋葉神社(現鶴舞神社)に奉納した。



明治一四年

十一月二十三日



星野 懿吉

◎この日、南総町の父と呼ばれた星野懿吉が市原郡皆吉山田久保村(現市原市)の足助久太郎同くへの三男として生まれた。明治三十五年(1902)に県立千葉中学校を卒業した後、中央大学法科に入学し、同大を卒業した。この間、三十六年一月に南総明治銀行頭取星野龍太郎の婿養子となり入籍した。

大正六年(1917)市原郡明治村(現市原市)長に選ばれ、町制施行(十三年)後、牛久町長となった。町長としておよそ二十年間地域行政に取り組み、特に小学校統合と関東大震災の復興に努めた。

大正十五年四月 県会議員初当選し昭和十五年一月まで四期十四年間に在職。この間、昭和五年二月から翌六年三月まで二十五代県会議長を務め、十三年十二月から十五年一月まで再び同議長(三十二代)の要職に就いた。

県会において、昭和三年四月、牛久ほか八カ町村組合立市原中学校の県立移管を実現。現市原高等学校)



竹林開発や道路誘致等によつて南総町発展の礎を築いたことで「南総の父」と戦後呼ばれ、昭和四十二年五月に胸像の寿像除幕式が南総町牛久公民館広場で盛大に行われた。

昭和四十三年十二月二十六日死去、八十七歳であった。

勲五等双光旭日章追贈 千葉県議会史 議員名鑑参照



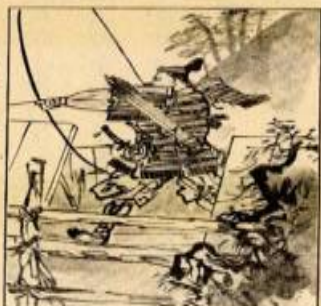
●あすけきうたらう (足助久太郎) 其祖は後醍醐天皇の御代三河ノ國足助の郷士足助冠者次郎重範に出て、笠置落城の際現住地市原郡明治村皆吉に來



住せしより以來十八代を経て今日に至れり云ふ、久太郎は嘉永六

生れ長じて長生郡藏持全庵寺住職芝温堂に師事して漢學及書道、算術を修業す、後年農に歸し傍ら養蚕を營む、明治十年地租條例改正の際事務係兼地主總代となり、十八年戸長役場筆生を勤め、廿七年區長となり、廿八年助役に擧げられ、卅二年村長に當選して今日に至る、古書古蹟に深き趣味を有す、將來農政改良及び養蚕の奨励を期す、地租税金百三十圓を納む

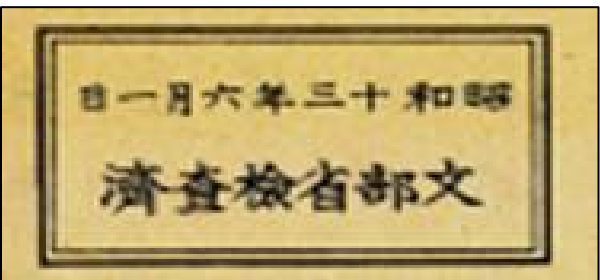
第四 足助次郎重範  
元弘の昔賊の大軍笠置山の行在所をおそひ奉りし時足助次郎重範は一族を引連れて一の木戸を守りゐたり。



賊は其の勢七萬餘岩角を傳ひ、がづらに取りつき、未明に乗じて一の木戸にせまり来る。時に重範木戸の上なる櫓に上りて、名乗りけるは、「三河國の住人足助次郎重範かたじけなくも一天の君に命を捧げまゐらせ、此の木戸を固めて、萬衆の君のおはします城なれば大將軍の御出であらんと心得て、大和鍛冶のきたへたるよ

第四 足助次郎重範

十五



星野懿吉の父足助久太郎の祖先は元弘の忠臣足助次郎重範で後醍醐天皇笠置落城の後、その子等市原郡皆吉に來住せるものと伝う

参照 足助久佳 歌集 簞 たかむら



明治～大正時代の明治村行政

明治村役場

明治二十二年四月より同二十五年十月まで明治村牛久一二三九番地民家を假用せり、次て明治三十五年十月より同二十六年九月まで明治村牛久一二七番地に移轉し猶ほ民家を假用せり、明治二十六年三月二十六日村會の決議により建築に着手し、明治二十六年九月十五日新築成りて明治村牛久一四一番の二に移轉す、此建坪十八坪五合、敷地反別二百十五歩たりき、大正二年更に三坪を増築せり。

明治村役場吏員 (大正三年十二月現在)

|     |         |                |
|-----|---------|----------------|
| 村長  | 福井 豐三郎  | 大正二年四月十六日再選    |
| 助役  | 桐谷 傳作   | 大正二年五月二十八日就職   |
| 同   | 福田 定吉   | 明治四十三年五月九日就職   |
| 収入役 | 奈良輪 彦太郎 | 大正二年五月三日就職     |
| 書記  | 堀 卷吉    | 明治三十八年六月二十九日就職 |
| 同   | 鶴岡 雄一   | 明治四十一年四月八日就職   |
| 同   | 安藤 仁三郎  | 明治四十二年三月三十一日就職 |
| 同   | 鈴木 市郎   | 明治四十五年四月一日就職   |



八代 鶴岡氏氏  
牛久町長

明治村歴代村長

|        |                   |              |
|--------|-------------------|--------------|
| 白鳥 與一  | 自明治二十二年五月七日       | 至同二十四年三月三十一日 |
| 渡邊 周作  | 自同二十四年四月三日        | 至同二十五年一月二十日  |
| 中山 安之  | 自同二十五年一月二十日       | 至同二十七年九月七日   |
| 飯塚 仁吉  | 自同二十七年十一月十一日      | 至同三十年三月三十一日  |
| 松山 庄三郎 | 自同三十年三月三十一日       | 至同三十一年八月二十六日 |
| 中山 安之  | 自同三十一年九月三十日       | 至同三十二年三月二十六日 |
| 藤代 作司  | 自同三十二年三月二十七日      | 至同三十三年六月二十七日 |
| 足助 久太郎 | 自同三十三年六月二十七日      | 至同三十四年九月二十三日 |
| 露崎 英太郎 | 自同三十四年九月二十三日      | 至同三十五年八月二十日  |
| 土屋 長太郎 | 自同三十五年八月三十日       | 至同三十六年四月     |
| 桐谷 傳作  | 自同三十六年四月          | 至同三十八年三月三十一日 |
| 福井 豐三郎 | 自同三十八年四月一日より引續至現今 |              |

明治村巡查駐在所

明治二十二年四月一日設置にして、牛久一一五六番地平民高坂埼太郎所有家屋を借り受け之に充つ、明治三十二年二月同所一二七番地に村有の巡查駐在所を建築す(木造平家萱葺屋根間口三間奥行四間)、明治四十三年中村民相圖つて地を同所一九〇番地に卜し、平家木造瓦葺一棟間口三間奥行五間、附屬浴場一棟、此の間口戸奥行十尺を建築、同年十二月移轉せり受持區域は明治全村なり。受持巡查の更迭

明治二十二年四月着任巡查 越川 常吉

巡查 山口



明治十七年 四月  
（八八四）



◎次郎長、全国博徒の大検挙にあい逮捕される。この年の四月、山本五郎後の甘田愚庵が「東海遊俠伝」を輿論社より出版す。  
一名次郎長物語」とも言われて、伏谷判事が長五郎を召し出し街道警固役を命じた件も書き記されている。五郎はこの秋、有栖川宮家に奉職が決まり、山本家の養子を辞し旧姓天田に復している。

十一月

乃木さんが加茂村に



乃木希典



兄玉源太郎

◎鹿野山行軍演習の途次、東京鎮台参謀長乃木希典大佐と連隊長兄玉源太郎大佐の部隊が市原郡加茂村一帯に二日間宿泊。指揮官であつた二人は小幡禰宜家に二泊。村では花火大会を催し、芝居興行もあつて乃木さん等是小幡家南側の土堤の上で芝居を見ていたという。又、柏野原で軽い演習をやつたということであるが、後に高滝神社拜殿右方上方に「柏野開墾記」が完成までの十数年の経緯を日高誠実によつて詳細に記されている。この頃既に親郷の畑は宮原村の旧領主大岡子爵家からの援助と宮原村の旧名主の宮原庄治氏の尽力で田に変換されて稲作の主要産地となつていたが、幕末嘉永年間に武蔵国埼玉郡の古嶋丈助によつてもたらされたという「藍」づくりが明治三十年頃まで親郷の畑作として栄えた。又、藍草を事業化し加茂の名産として成功させた渡邊伍郎平宅は「伊勢屋」と呼ばれ榮え、明治三年七月、井上河内守の代参等があつた時の宿泊先として毎度使われたという程広く設備の整つた屋敷であつたのである。この家の長屋門は小幡禰宜家から譲られたもので、表門は鶴舞陣屋の門を払い下げたものであつたという。伍郎平は親郷の水田化にも力を貸したが、完成目前の明治十四年に五十六歳でこの世を去つた。三男二女があり、長男の兵吾は嘉永五年生まれで後に県会議員も勤めている。なお藍の技法指導にあつた古嶋丈助は後に賀茂村太和田の高橋氏（下道）の養子となつて明治五年二月に没している。



「加茂菜」

嘗てこの地は養老川の度重なる氾濫で土地がよく肥えていた。そこえ菜の種を播くと成長がよく、この特徴のある菜は「加茂菜」と呼ばれ、平成の現在も往時を懐かしむ人たちが栽培しているが、ふるさとの味として残して欲しいものだが、「加茂菜」の始まりは高滝神社鳥居脇の坂本旅館の主人が泊まり客から菜種を貰い、親郷の養老川の川床に播いたところ、よく育ち漬物にしたところ極上の味だつたので三人ほどで共同して自家用に生産を始めたのだが、その話が親類知人に宣伝されて「加茂菜」として近郷にもその名が伝えられ、大正から昭和三十年頃までは盛んに栽培されたという。

明治十八年

十一月十六日

十九年十一月

◎長五郎 清水の次郎長（博徒の一斉検挙で静岡井之宮監獄に収監されていたが特赦放免となる）。  
◎次郎長、向島波止場近くに旅宿「末廣」を開業。  
開業披露に鉄舟揮毫の扇子千本を配る。



# 加茂菜の漬物

高滝神社の石段の上り口で、向かって右側にあつた坂本屋旅館の三女になる方の話によると、当時の坂本屋の主人で平野保太郎氏と、近所の高橋佐一氏、戸谷半三郎氏の三人が、旅の芸人か商人からもらった「菜の種子」を養老川の川岸の畑に播いたのが「加茂菜」の始まりということである。漬物にしたところ今までの菜の漬物より味の良いものができたので、翌年大量収穫を考へて川岸以外の畑に播いたが、味が悪く失敗に終わったので以来この菜は川岸の畑だけで作るようになったということだ。

なぜ川岸でなければいけないのかと、いうと、養老川が上流からこの加茂地区に流れてくるまでには、何回も蛇行して沿岸をえぐった土砂を下流に運び有機物が沈殿して、この菜に最も適した土壌を作りあげた結果であると思われる。当時ただ自家用としてしか生産されないというものであった。

戦後、この漬物物を事業化しようと鵜田氏が「KK菜の花」を起したが、収穫が川岸の畑に

限られていたため結局失敗したということである。小幡重康氏が昭和六十一年に発表された「高滝神社と氏子」には、加茂菜は大正から昭和三十年頃までの短い命であつた、と記されており、惜しいことになったものだと思つていたが、坂本屋旅館の子孫の平野さんから当時の様子を聞いたところ「あの味が忘れられない人達が今でも結構いて、何人かが栽培しているそうですよ」との情報を得た。それから間もなくのこと、高滝の戸澤家や平田家などの他にも伝統を守つておられる家があることが



分かり、一安心した。不入の戸谷さんからは、鯉節をかけるとおいしいと聞き、最近では我が家の食卓の人気者となり、往事の名物「加茂菜」の復活を密かに喜んでいる。

資料提供・藪在住  
塚原 茂氏

ダムが出来る前の高滝神社下の写真  
鳥居の奥にわずかに見える坂本屋旅館



明治十九年三月二十三日  
（八八六）

◎ 日高誠實が東京を出発、房総の養老溪谷へと向かった。二十五日には現在の加茂村大久保に至り、平田六衛宅に宿泊している。四月の三日には君津市福野、怒田に赴き景山治平宅に世話になっている。ようやく梅ヶ瀬近くに到着し、月崎の大工三神保蔵に命じ住宅造りに入る。三十日には柱を建て始め、五月二日上棟、十村の人及び石神、戸面の人々等皆が応援に来てくれ工事を行う事が出来た。

写真提供 石川松五郎氏



日高 誠實





明治二十一年

七月十九日



山岡鉄舟

◎山岡鉄舟没す。享年五十三歳。葬儀には篠突く雨の中、会葬者は五千人にも及び天皇と皇后は、宮城前で十分間葬列を止めさせ高殿より目送されたとのことである。

この時、清水の次郎長は、子分数十人と共にすぶ濡れになりながら旅姿で葬列の先頭を歩き、東京市民の目を奪ったと静岡山岡鉄舟会」の若杉昌敬氏は語る。

西郷隆盛は、鉄舟を評して「命もいらず、名もいらず、官位も金もいらず、ぬ人は、仕末に困る人だ。だがあのような仕末に困る人でなければ天下の大事は誓えない」と語ったという。

37



谷中・鉄舟墓所

慶応四年三月、江戸城総攻撃のため東征軍が江戸へ向かつて押し寄せた。その時、徳川慶喜の名代として、駿府まで進軍してきた大総督府に赴き、総参謀西郷隆盛と談判し、江戸城無血開城の道を開き江戸市民を戦火の災厄から救い、徳川家の存続をも成さしめた。明治二年静岡藩の権大参事として明治政府に出仕。明治五年には、西郷隆盛他等の要請を受け十年間の期限を切つて明治天皇の侍従となり、青年期の明治天皇の人格形成に大きな影響を与え、皇后からも絶大な信頼を得ていた。鉄舟は、剣と共に禅にも傾倒して剣禅一致の極意を会得し無刀流を創始、東京谷中に臨済宗・全生庵を創建、更に清水の久能寺を再興して鉄舟禅寺の建立を発願するなど禅に人生を託した。又、晩年は、剣聖として名を馳せていたが能書家としても有名であり、揮毫の依頼が殺到するほどであった。

清水の次郎長が富士の裾野を開墾、相良油田への支援、英語塾の開設等に尽力したのは、鉄舟の影響を受けたからであり、牧ノ原の大茶園は、鉄舟の骨折りがあったればこそ成ったものであると言われている。



鉄舟の書

明治二十二年

六月二十九日

(一八八九)



如水隠居所跡

◎伏谷又左衛門如水歿。七十二歳。

墓所は市原市池和田岩井戸。小祠ながら「如水神社」が鶴舞藩を知る会」で建立されており、次郎長と親交があった「旨の高札を横に見ながら西に進むと間もなく廃藩後居住したと伝う「如水隠居所跡」がある。

激動の明治維新を経て新生日本国の誕生に一役身を投じた伏谷家十代又左衛門如水は、その確かなる采配とともに、藩主井上家に代々忠実に尽した家老として、「伏谷如水」の名は永遠に、この温暖なる房総の地に眠り続けることであろう。



# 伏谷如水との繋がり

大森鍾一の二女・信子の夫は池田宏であり京都府知事・神奈川県知事等歴任。  
木戸幸一は巢鴨拘置所収容時、昭和27年11月、二代春日井梅鶯の浪曲慰問を受く。

## 伏谷家系図

伏谷家系図(参照)  
塚原茂作図

長  
梅外



長 三州を書の師と  
仰いだとも言われる  
日高誠實は養老溪谷  
梅ヶ瀬に眠る。

長  
三州

齡子



(三州長女・後添)



幸子  
児玉九一夫人

大森直正  
駿府町奉行・与力



豊  
静岡藩出身  
兵庫縣知事  
京都府知事  
皇后宮大夫



雅助



佳一  
群馬・島根県知事  
岡田内閣  
内務政務次官



鶴舞藩家老 伏谷如水旧宅  
(東側に二棟の藩文書蔵 昭和11年5月17日(回火難により焼失)  
市原市鶴舞340番地



女とよ(大森鍾一妻)  
文久元年生  
明治三十三年  
九月九日歿  
三十九歳

如水



(又左衛門昭良)

重信  
(養父 野村主水)

鶴舞藩家老

惇

(又左衛門昭裕)

妻茂子  
(浜松藩士  
寺田豊哉三女)

維新時・官軍隊長

女みほ(早世)

木部貞(次郎)  
官軍同行・遠州報国隊の一員  
(養父 木部叶坊)

奥山三郎



(養父 奥山三右衛門)

九十八銀行四代頭取

遵一

十七歳で死去

女くに  
(八木秀太郎妻)

女千代(早世)

虎之助

雅助

(養子 大森鍾一次男)

妻みす



(伊豆三嶋神社神主  
矢田部盛穂次女)

庸夫



平成十年  
二月二十三日歿  
七十八歳

鶴子(高石)



高石 正男  
市原市上高根

伏谷如水伝

如水子供達、更に孫で大森  
鍾一に嫁いだ豊さんや高石  
鶴子さんも紹介されている  
田口英爾氏の伏谷如水伝



奥山三郎が紹介  
されている遠山  
あきさんの小湊  
鉄道の今昔



高石家は幕末、黒船ペリー  
提督に相撲で親善を果した  
小柳常吉生家

大森鍾一と山景有朋

伏谷如水孫  
とよの嫁いだ  
大森鍾一の生  
涯が記述され  
ている。



木戸孝元  
(曾祖父)  
桂小五郎



木戸幸一  
昭和天皇の側近と  
して東條英機を総  
理に推薦し太平洋  
戦争に関与  
軍事裁判は終身刑



児玉源太郎  
陸軍大将  
満州軍総参謀長



児玉九一  
児玉源太郎七男  
原爆後の広島県  
知事



明治二三年五月二二日



福田與市の墓石

◎市原市牛久の元庭瀬藩士 福田與市定堅歿  
文化十三年九月九日江戸湯嶋天神下の板倉摂津守邸に生まる。  
行年七十五歳。嘉永七年の板倉家臣録によると與市は江戸屋敷  
の留守居役としてその名がみえる。明治の廃藩後、当地に転住し現  
在五代目が書店を経営している。牛久下町現在廃寺の本昌寺跡  
に墓所があり、原田の本傳寺 木村乾行住職が兼務されている。

明治二四年三月二五日  
（八九一）



◎帝国大学文科生で二十五歳の正岡子規は三月二十五日から  
四月二日にかけて八泊九日の房総縦断旅行に出発。行程凡そ二  
五〇km。一蓑一笠の行脚であった。紀行文「かくれ蓑」・隠蓑日  
記」・かくれみの句集」をのこした。途上、長南で求めた菅蓑は生涯  
にわたつて子規庵の柱に下げられた。『この蓑は子規の病床を慰め、  
青春を振り返るよすがともなつて俳句革新への道を後押ししたよ  
うに思われる』と房州保田に生まれた子規研究者 関宏夫氏は語  
り、子規が行脚した武蔵、下総、上総、安房を結ぶ街道を「かくれみ  
の街道」と名付けた。



◎山本長五郎 通称 清水次郎長）歿。

明治二六年六月一二日  
（八九三）



山本長五郎

次郎長に詳しい清水の田口英爾氏によれば「ぶとした力ゼがもと  
で次郎長は病床に臥し、おちよふの看護の甲斐もなく、遂に臨終を  
迎え、七十四年にわたる波乱の生涯を閉じた」という。

葬儀は菩提寺の梅蔭寺で、参列者は全国から駆けつけた親分達  
をはじめ三千人を超え、葬列は、先頭が二km離れた梅蔭寺の山門  
に達した頃、後尾はまだ波止場の末廣を出発していなかったという。  
碩量軒雄山義海居士」が法名である。



生誕200年「次郎長翁を知る会」（2020年6月）





明治三十一年三月二日



徳川慶喜公

◎嘗ては第十五代將軍として江戸城に君臨していた徳川慶喜が、今はその名称 皇居に初めて参内し、明治天皇皇后に拝謁した。旧江戸城に入った慶喜は温かいもてなしを受け、朝敵の将として生きてきた日々を清算し、名誉回復」が実現した。

40

明治三十一年九月五日



長南町 今関家墓所

◎今関勘四郎歿。行年八十九歳。

日本の夜明けでもあった明治維新の世の移りに直面して、長い酒造歴の「裨仁」と呼ばれた広大な屋敷も、浜松からお国替えのお殿様一行が馬や駕籠で賑々しく公家門を潜り、一変した環境にも素早く順応し、一年二ヶ月という期間、忠義の限りを尽し、その間、桐木原に一大城下町を造営させることに貢献したのである。

明治二年二月十一日より井上公の仮本営として提供、この間、徳川時代最後の武士階級の生き様を克明に記した日記を遺した。法名は見性院龜翁銅山居士。

勘四郎曾孫久枝さんは井上河内守着陣記念御手植えと伝う桜樹が百有余年経った今、公家門前に風雪に耐えて、一握りの木株と化し、間もなく土に還るであろうと、朝夕心を痛めているが、梧桐の幹は、この邸が嘗ては貴人の仮宿であったことを忘れることはないであろう。

明治三十四年六月二日



◎大名画家としても名高い号を梅僊と称す元大多喜藩主大河内正質（松平豊前守）は五十八歳で逝去。  
廃藩後、東京に移住し陸軍省、宮内省に出仕。東京府麹町区長、貴族院議員 予爵間における互選議員等を経て歴任した。  
埼玉県新座市平林寺が松平（大河内）家墓所。

明治三十七年一月十七日  
（九〇四）



いわき市平にある愚庵旧居と愚庵像

◎甘田愚庵没す。

死期の迫った十四日には、遺言状を書き、十五日は薬餌一切を断ち、看病や見舞いの人に一々手を握って決別。十六日、法弟に身を拭き清めさせ、白衣と麻の法衣を着る。十七日、午前十一時過ぎ、法弟を促して読経させ、それが終わらんとしたとき、静かに瞑目。時に、午後零時十分示寂。五十一歳をもつ伏見桃山にその数奇な一生を終えた。愚庵の旧居は昭和四十一年十一月、いわき市旧平城内の一角である松ヶ岡公園に移築復元され、後に、邸内には父母の面影を求め続けた歌碑や愚庵像が建立されている。

現今では無名に近い存在でありながら、愚庵と交わりをもった周囲の人間模様は、有名という点で一流の人たちである。縁あつて山岡鉄舟に師事、清水の次郎長と養子縁組みし、由利滴水に禅の法流をうけ、正岡子規と交流等尋常でないことが知れる。

次郎長の一代記を「永許伝」風に書き留めた「東海遊俠伝」一名「次郎長物語」は、彼の生涯を伝える唯一の資料となつて、現今の講談、浪花節に登場する次郎長像は全て当書に拠るものであるといわき市の愚庵研究家・柳内守一氏や清水の「次郎長翁を知る会」会長の竹内宏氏は語る。



明治三十七年 三月 九日



井上正直公

◎元鶴舞藩主井上正直公逝去。六十八歳。  
墓所は後、本郷浄心寺から雑司ヶ谷本納寺に改葬、更にその後、駒込の染井霊園へと移る。

明治維新の激動期に出世城浜松から上総国市原へ転封し、原野桐木ヶ原を城下町鶴舞に一変させ、その間、道路開拓、勸農政策等領民に対する慈愛の施策は平成の今も「ノウエサン」(井上様)と慕われて、平成十八年十一月に胸像が藩庁跡に建立された。この地点は北緯三十五度二十二分、太陽の道レイライン下である。

明治三十八年五月二十七日  
（九〇五）



◎日本海海戦で活躍した仮装巡洋艦「信濃丸」艦長成川揆大佐は大正八年一月二十六日卒(少将)。この日五島列島沖を哨戒中バルチック艦隊を発見。この時の、第一発見者はマスト上の見張所に登って見張員を交替したばかりの一等水兵新海春吉で、双眼鏡を目に当てた途端、左舷前方に接近しつつある灯火を発見し、直ちに艦橋へ報告し、敵艦隊見ユ第一報につながり、日本海連合艦隊の大勝利に導く源になった。

成川 揆は鶴舞藩出身である。  
敵艦発見者新海春吉の孫は現在、岡崎市に居住される新海眞二氏である。…後日のことになるが、平成十七年五月二十八日、東京 渋谷の東郷神社で開催される「日本海々戦大捷百周年記念大祭」の会場で塚原と新海眞二は対面することになる。



成川 揆大佐



新海春吉(51歳時の写真・昭和4年)  
(新海眞二氏提供)



仮装巡洋艦・信濃丸



「敵艦隊見ユ」 5月27日午前四時五十二分



大正四年八月廿四日



◎大正二年冬頃から日高誠實は体調が思わしくなく、翌三年の春、かなり悪化し五男の忠實は梅ヶ瀬から一時間半の道のりを歩き永峯医師に往診を依頼に行く。永峯源藏医師は馬に乗って沢伝いに梅ヶ瀬まで往診に行く。大正四年（一九一五）の春を迎えるとますます悪化し、起伏も不自由になった。その後更に病は進み、八月二十四日午前八時半、永が飲みたいと微かに言うので、早速、平素好んだ横井戸の水を飲ませると、うまそうに口に含んだ。そして篤實の手を硬く握り、五分ほどして眠るが如く泉下の人となった。七十九歳の生涯であった。



日高誠實





大正五年十一月  
（一九一六）



第九十八代長慶天皇



大正15年10月21日、生前の功により、皇室より拝受。



鈴木家



鈴木賀一郎閣下

## ◎ 八代国治 長慶天皇在位説を発表

明治六年一月二日に市原郡上高根 現 千葉県市原市上高根 鈴木家 現当主 良知氏に生まれた。後年、八代家の養子になり八代姓を名乗った。

明治三十年に國學院を卒業後、東京帝国大学文学部史料編纂掛りに入り鎌倉時代史料の研究に当たる。明治四十一年には最初の日本史辞典である「国史大辞典」の編集を行った。

大正四年には吉野朝時代の編集主任となり、一貫して中世史の研究にあたった。大正十一年には國學院大學教授を兼任。大正五年十一月に長慶天皇御在位に就ての研究」を発表して、長慶天皇の在位論を論じ、大正九年（一九二〇）には一連の研究成果を纏めた「長慶天皇御在位の研究」を刊行後の同天皇の歴代天皇追加に決定的な役目を果たす。

本書で大正十三年、帝国学士院恩賜賞を受賞。また、宮内省の依頼を受けて皇室領に関する調査、研究にもあたったが、放射線條菌病のため大正十三年四月一日、五十一歳で死去した。

左の写真によると白鳥庫吉氏は慶応元年（八六五）二月四日、現茂原市長谷に生まれ、母とくは鈴木吉蔵の姉である。氏は学習院大教授、東大教授、東洋史家であり、千葉県偉人の一人であり、国治は鈴木吉蔵の二男で賀一郎は三男、後に閣下と称せられた。

鈴木家先祖 — 吉蔵 — 亨斎 — 朗 — 良知 — 寛郎 — 優吾

国治  
賀一郎



八代国治弟・鈴木賀一郎結婚記念写真（鈴木良知氏提供）



昭和六年十一月十一日



◎ 渋澤栄一死す。九十一歳

昭和十六年一月二二日



請西藩主・林忠崇  
昭和16年92歳で歿

◎ 元木更津請西藩主 林忠崇歿。

法号は松濤院殿忠崇一夢大居士。九十四歳

林家菩提寺 東京芝の青松寺。

慶応四年の挙兵が、徳川家再興のために蹶起した、ただ一人の脱藩大名として佐幕の路に走らせ、敗北後は時代の激流に逆らった不遇の大名として新政府に登用されることもなかったが、絵に巧みで狩野派を学び、彩管に親しんで余生を慰め、まことに「夢」の号にふさわしい一生であった。

昭和二十年二月 末日

鶴舞台上にあった司令部の地下壕跡といわれる



◎ 太平洋戦争末期、敵の房総半島上陸に備え、日本軍は南総地区鶴舞に第一四七師団 護北兵団の司令部を鶴舞女学校内に置き師団長の石川浩三郎中将は昭和二十年の終戦までの起居は鶴舞藩元家老 伏谷宅から馬で司令部に通っていたという。



画像提供 深谷市



第147師団長・石川浩三  
郎中将



昭和二十年三月 六日

◎元鶴舞藩主の井上一家は廃藩置県後、東京に移住して行つたが、正直公の五女孝子と正義夫妻が、戦時中の昭和十八年六月に隠居。先代の嘗ての城地鶴舞伏谷如水家老屋敷内に移り住んで空襲を避けていたが、昭和二十年三月六日、この地で六十三歳の生涯を閉じている。墓所は東京 染井霊園。

孝子夫人も同地で同年五月一日、六十二歳で没したが、日本の太平洋戦争も終末を迎え、既に米軍は沖縄に上陸を決行し、本土決戦が叫ばれた頃であった。孝子夫人の姉に当たる濱姫と昌姫は、明治二年、正直公が浜松より長南に移住後に亡くなり、茂原の藻原寺に埋葬されている。

この時期、伏谷家屋敷の母屋には護北兵団の石川浩三郎師団長が入っており、旧鶴舞藩主井上家の子孫家族は屋敷内に質素な構えであったと・伏谷子孫の高石鶴子さんは語っていた。



大田實海軍中将

昭和二十年六月一三日

◎千葉県長生郡長柄町高山の出身、大田實は太平洋戦争における日本の海軍中将で通信力を失った沖縄県庁の代わりには、沖縄戦での県民の敢闘と実情を報告し、その際の電文の一部に沖縄県民カク戦、後世県民ニ対シ特別ノ御高配賜ランコトヲの仁愛の決別電文は大田中将の条理を弁えた人間性を十二分に物語っている。この日、豊見城の海軍壕内で拳銃自決した。

辞世の歌

身はたとへ 沖縄の辺に朽つとも

守り遂ぐべし 大和島根は



昭和三十三年  
十一月二十九日



御園邸全景



倉垣 傳



釣り竿で結ばれた小島 佐四郎と倉垣 傳



箕輪 宏氏と 塚原 茂 倉垣 宗氏訪問 平成10年

塚原 茂、箕輪 宏と 倉垣 宗氏を訪ねて 平成10年

## 倉垣 傳の釣竿と養老川を愛した鶴舞・小島佐四郎



養老溪谷宝栄橋下流三百米が「佐四郎淵」と命名された



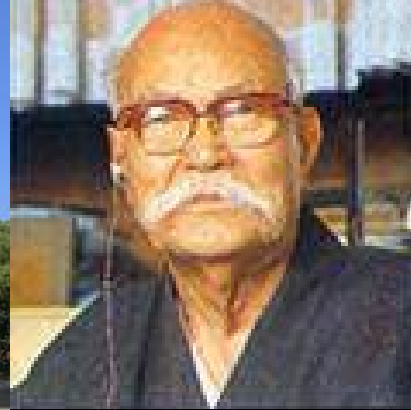
◎元鶴舞藩士倉垣愛鶴舞神社に鶴舞領主君臣名禄」の掛軸を奉納した孫に当たる 釣り竿造り 日本一」とまで言われた  
倉垣 傳 が没した。行年七十三歳。  
晩年の住処は妻とみの実家である現袖ヶ浦市林 御園 豊邸で  
当家には今でも倉垣家先祖伝来の遺品が多数遺されている。



昭和五十四年五月十五日



◎市原市立南総公民館の体育館落成式典が行われた。  
ブロンズ母子像を寄贈し感謝状を受ける北村西望氏



北村西望作品

長崎原爆平和祈念像

慈母観世音菩薩像

市原市皆吉橘山



北村西望 南総公民館ロビー



除幕式の様子



平成四年 五月 六日



清水次郎長像

◎静岡県清水市に「次郎長翁を知る会」が旗揚げした。

会長に竹内宏 経済学者で長銀総合研究所理事長、又、会長補佐として会長と同じ東大出の歴史作家由口英爾氏が選任された。文藝春秋誌平成五年六月号に「次郎長と私」と題し竹内会長が寄稿。明治維新時、次郎長を駿府警固役に抜擢した差配人判事についての記述を読んだ市原市在住の高石鶴子さんから長銀総研秘書室に「如水の子孫」と名乗り出た。俄然清水港が一段と騒がしくなる。

平成四年九月二十日



(医光寺蔵)

◎市原市西国吉 医光寺所蔵の「浅井・三好合同位牌」を追つて塚原夫妻は滋賀湖北へ飛んだ。織田勢の秀吉が攻めたといわれる小谷城、長政の居た本丸跡、その父久政の京極丸等を巡る。天正元年八月二十九日、落城必死とみた長政はお市と三人の娘を信長のもとへ送る。浅井長政公自刃之地碑」や菩提寺の徳勝寺の浅井三代の墓所、琵琶湖畔の長浜城を巡る旅であった。

浅井・三好合同位牌

平成 八年 二月 一日

（九九六）



伏谷如水像

◎市原市の広報いちばら」市長のめがね」に小出善三郎市長が「市原と清水」の表題で、伏谷如水と次郎長、市原市と清水市との関わり」を寄稿し話題となる。



宮城島清水市長



小出善三郎市原市長

五月十八日



伏谷如水墓所

◎市原市との交流実現の快諾を宮城島清水市長から得た次郎長翁を知る会」の田口英爾氏が次郎長の恩人と言われる伏谷如水の眠る市原市へ初めて足を踏み入れ、子孫の高石鶴子さんの案内で市内池和田岩井戸に如水墓参。自著 梅蔭寺 清水次郎長伝」に登場する元浜松藩家老伏谷如水の墓に初対面した。

如水は維新の最中、総督府より駿府町差配役に任命され、更に駿遠三裁判所判事の兼任も命ぜられ、かの地方の司法行政を一手に統括し、格式高い譜代藩であった浜松藩も既に勤皇を表明し、家老の伏谷如水の長男又左衛門惇が藩の一隊を率いて先鋒総督軍に加わり東下していた。錦旗をなびかせ、錦の肩章をつけた官軍が東に向かうこの頃に清水港の長五郎を召し出した……と維新の隠れた傑物との対面に田口氏は墓前に暫し瞑目し、感慨深い様子であった。





# 『市原と清水』

## 市長のめがね

Ⅱ—(8)



浜松藩の家老伏谷如水は、お国替えによつて、明治二年に市原市の鶴舞へ移住してきました。そのため、鶴舞の街から少し離れた岩井戸の山腹に、彼の墓が建っています。鶴舞藩へ移る前の如水は、

駿府町奉行に代わり、警察権を預かる民政長官の役を命ぜられていました。

清水市に、「次郎長翁を知る会」という会があり、私は会報の中から、市原市と清水市とのかわりを知ることが出来ました。清水市といえば、サッカーの清水エスパルスを連想しますが、私には、もう一つ、清水の次郎長が思い浮かぶのです。

記述によりますと、次郎長は、慶応四年四十九歳の時、切った張ったの渡世人から一転して、駿府の治安責任者に登用されています。当時、浜松藩の藩主井上正直（後

の鶴舞藩主）は、老中として江戸に勤めていましたが、国元を預かっていた如水は、いち早く朝廷の命に従い、藩兵を率いて駿府に駐留したのです。王制復古を唱える官軍にとつて、清水は交通の拠点でした。幕府直轄だった駿府藩の市中警固役を、だれに任せたらいいか、悩んだ末に次郎長を選んだのが、浜松藩の如水でした。

駿州赤心隊、遠州報国隊、伊豆伊吹隊など、血気盛んな勤王義勇隊は、神官たちによつて結成されていきました。彼らは、江戸幕府の政策に怨嗟の念を懐いていたと言われています。人を殺めれば、仕返しをされ、という物騒な世の中ですから、治安責任者次郎長の役目は大変であつたと想像できます。次郎長の妻お蝶も、明治二年に何者かに殺害されています。

晩年の次郎長は、社会事業に数々の業績を残していますが、もし、如水と逢わなければ、次郎長は単なる博徒の親分で終わっていたに違いありません。市原市と清水市との友好の絆が強まることを期待します。

いぶき三郎



第876号

9月1日

平成8年(1996)

毎月1,10,20日の3回発行

■発行＝市原市役所

■編集 市長公室広報公聴課

〒290 市原市惣社1040-1

☎0436-22-1111(大代表)



「雀藪庵」 じゃくそうあん 市原市藪



市原市長  
小出善三郎様

市原市藪  
第二町会長  
青原満  
大井大一  
塚本茂

平成8年9月1日

広報 いちはら

市長のめがね

Ⅱ - (15)



『汗の結晶』

わずか二十八世帯の市原市藪第二町会から、このほど、見晴らしのいい南総の高台に、手作りのあずまやが完成したので、私に命名してほしいとの依頼がありました。現場に行く機会がなく、実際に訪

ねたのは、六月十六日の落成式の日でした。人がひとり、やっと歩けるほどの狭い坂道で、丸太で土留めした百二十段の階段を登りつめた所に、件の建物があります。毎年六月十五日の天王祭には、山頂にある椎の木の根もとにひっそりたたずむ祠の前で、村人が料理を持ち寄り、車座になって酒盛りをする習わしが今日まで続いているとのこと。ご祭神は、インドの祇園精舎の守護神、牛頭天王で、我が国では疫よけの神として伝承されています。また、郷土史に詳しい藪町会のTさんによりますと、十六世紀の中ごろ、北条氏に攻められた池和田城主の奥方が、近くの雀が崎城へ落ちのびるとき、切り立つ絶壁で川を渡れず、「玉蜀黍」の畑で、侍女と共に自刃して果たたという悲話、祠の前で語り継がれているとのこと。

このたび、市内米沢在住の信心深い地主Oさんの善意で、雨ざらしになっていたご祭神を新しいお宮に納めて、地続きになっている眺めのよい場所にあずまやを造り、村人の雨宿りと語らいの場をつくろう、ということになったのが始まりだそうです。私が感激したのは、資金づくりから労力にいたるまで、藪第二町会のS町会長はじめ地元の人たちが、汗みどろの奉仕によって成し遂げたということです。杉の伐採から製材の加工、ロープと滑車を使って、生コンをトラクターで引っ張り上げる作業まで、延べ百九十五人を費やしたという、本当に頭の下がる思いでした。「雀藪庵」と命名したので、ほっとしています。

いお善三郎

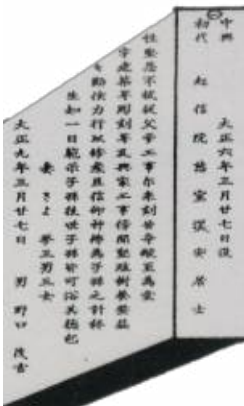




野口竹治郎



野口茂右エ門(分家)と竹治郎の墓碑



◎成田山三代目本堂改築や、鶴舞不動堂建築等その卓越した技の市原市月出の名匠 **野口竹治郎**の寿碑を訪ねた。

滝沢馬琴 四十八歳が江戸において「南総里見八犬伝」を著した翌、文化十二年（八一五）、南総の奥深き月出の大工、秋田治右衛門の第三子として生まれたという。

竹治郎は幼い頃より父について大工の仕事を学び、性格は至つて篤実勤儉に富んでいた様子で、深い志を持ち、並の大工になるよりは、腕の良い大匠になろうと決心して、隣村国本の兼岡與助の弟子になり、一心不乱の竹治郎は数年にして修業を終え、初仕事の月出東漸寺山門（旧）の建立で大工としての技量が見込まれ、野口家長女みさの婿として藤右衛門家に入る。

やがて、竹治郎の名は四方に聞こえるようになり、近くは言うに及ばず、大多喜や市原郡内各地からも弟子入りする者が増え、その門下生の中から、棟梁と言われる程の技量を得た者は三十人余にもなったといわれる。これらの技術集団が造営した神社仏閣は多く、その代表的なものは、郡本寶積寺客殿や山門、同じく市原郡奉免の満蔵寺本堂、松ヶ島の養老神社、夷隅郡上布施の虚空蔵本堂として、真里谷真如寺本堂、戊辰戦争で火難後の再建後、焼失の建築工事は竹治郎やその一門であるという。この内で特筆されるものは、安政年間に六年余を費やし、副棟梁としてその腕を発揮した成田山本堂三代目の工事である。文久三年六月、神祇官より烏帽子、狩衣を着することを許された。

後日、明治二十八年一月に門弟等四十六名の有志により、「野口翁寿碑」が、撰文渡邊月庵、書は渡邊竹屏によつて、月出の屋敷内に建立された。明治三十九年一月七日歿。九十二歳。

竹治郎の第一子うめが同村鈴木藤吉を婿に迎え、跡を継ぎ、第二子の長男儀惣治は平蔵の鎌滝（養子となり、娘のりきに竹治郎の孫亀治郎を婿に迎えている。なを、亀治郎は婚家先の鎌滝家の長屋門、母屋、蔵も作り、その造作は今も堂々とした構えである。竹治郎の第三子で二男茂右衛門は近くの絶家を中興、初代となり、建築のみならず彫物にも卓越した技を遺し、現在には玄孫に当たる基市とその子辰男が「野口建築」としてその血を守っている。



屋敷内に建つ「野口翁寿碑」





「眠り牛」 満蔵寺蔵



鶴舞不動堂



野口基市家

◎野口茂右衛門は弘化元年（一八四四）四月八日、初代竹治郎の二男として、市原郡里見村月出に生まれた。

茂右衛門は幼い幼い頃から父竹治郎に従って大工の仕事を学び、性格も殊の外堅く、忍耐強かつた墓碑に記されている。

長じて偶々長南の水沼寺建立に携わり、同寺に屢々通ううちに住職の妹喜代を知る。茂右衛門は一層の努力とその技量が認められて二人は所帯を持つこととなり、生家前にあつた家に構え、分家中興し、野口茂右衛門初代の始まりとなつた。

つらい苦難の修業に耐え抜いた茂右衛門ではあつたが、当時の仕事は少なく、生活のために江戸深川に出稼ぎに行くこととなつた。同地の深川不動等、宮大工として又、江戸川にかかる永代橋架橋工事にその技量をいかんなく発揮したという。茂右衛門の彫物の腕もこの頃からみられ、永代橋工事丸太の木一端で彫つた大黒様が嘗てあつたというが、七点ほどの彫物が野口基市家に現存している。

鶴舞不動堂開創百季記念碑」によると

明治十八年四月、行者、信徒の発願により、新勝寺にて開眼供養された不動尊像を勧請し当地に成田山新栄講飯教会所を開創した。その後隣村より、真言宗の古寺（西蓮寺）を移転し、七ヶ年の歳月を労して、明治二十五年四月に建立された堂宇であります」とあり、この工事に当たつた茂右衛門は、彫工として堂全体を監修し、明治三十年から同四十五年にわたり、境内庫裡に仮住居し、堂前面、左右壁面、特に堂内に見事な「大菊水の彫物」を遺している。

茂右衛門が奉免の寺の工事記念に置いたという彫物「眠り牛」が満蔵寺に遺っている。このように、本来の宮大工の他にも精を出し開墾や植林をしたり、養蚕をするなどして、よく家運を盛り上げ、大正六年三月二十七日、七十四歳で没している。

日常においては、神仏を深く敬いその生活ぶりは子孫に素晴らしい徳を遺した」と長子茂吉は墓碑に書き添えている。

ぞういう先祖が居たお陰でしょうか、大工の灯がいつまでも続いてほしいと願つておりましたら、私の息子の基市も孫の辰男もお陰様で月崎の永昌寺山門の仕事をさせていただきました」と語つてくれた好子さんは目を細めた。



野口好子さん





鎌滝亀治郎



仏壇の欄間彫刻



鎌滝邸母屋

# ◎ 鎌滝 亀治郎

牛久から二九七号線を大多喜方面に向かい、平蔵の三叉路の信号を右折し、平蔵川に架かる橋を渡ると、右前方に見事な長屋門を配した豪邸が現れる。

月出の工匠野口竹治郎を祖父に、又、父は藤吉（後に藤右衛門）母うめの二男として生まれた。長じて大工としての卓越した技量を見込まれ、鎌滝りきと結婚、一層技を磨き、その名声は広く上総に響き渡り、明治期から大正にかけて、地元平蔵はもとより、市原・長生地区に優れた建築を数多く遺した名工である。

鎌滝邸奥入口に卵形をした石が建っている。地上四十センチくらいの高さの石の周囲に亀治郎は生涯にわたって手がけた四十余の工事を名をこく前年の大正十一年十月に彫り込んでいる。亀治郎は、翌大正十二年十二月二十二日に六十五歳で没しており、生まれは安政五年前後になる。

石碑文によると、明治十一年に平蔵村の風戸弥三郎家の主屋を弱冠二十歳の亀治郎は初陣としている。

現存の鎌滝邸は、二十五歳の明治十六年に長屋門、同二十三年に土蔵を、また、大正三年には亀治郎入魂の大仕事主屋が上棟され、完成までに五年の歳月を費やしたといわれ、奥座敷欄間や書院には、「波の伊八」四代目信明の門人で大多喜町の彫師押田要太郎信一銘の彫刻作品が納められている。

仏壇の欄間に「刺子鹿乳奉親」と題して「二十四孝」の一話が彫られている。他にも歴史物語の題材とした彫刻物が見応えがある。俗名押田信一は昭和十二年五月七日、五十八歳で没し、法名は釋信念信士である。

特筆すべきは主屋の大黒柱である。あの関東大震災の揺れにびくともせず、又、土蔵の柱の傾斜角度をみても判るように、耐震構造作りに、早くも着目していたのではないだろうか。名工である。

休む事無く、亀治郎の関わる上棟の幟は、山間を次から次へとなびき、この頃、日清 白露の戦で多くの身近な若者が戦場に散つていった。鶴舞不動堂には、義弟雄斉君戦死追福の菊水の彫物が亀治郎によつて奉納され、神社仏閣をはじめ、県道に掛かる橋の工事、あるいは小学校や医院まで、類いまれな建築の技を燃焼して、大正十一年、紅葉色づく頃、たつた一個の小さな丸石に、己の足跡を刻み終えると、翌年の師走静かに亀治郎は逝った。

墓所は平蔵川に沿つて下り、八房ゴルフ倶楽部 現在にはタクノ・カントリークラブを横切つて、四百メートル程先の田圃脇の墓地に眠っている。憲徳院詮覚實行居士が法名である。



◎ぬくめ鳥」(民話彫刻)の欄間を市内平蔵の民家で発見。



桐谷久治

佐是の宮大工桐谷久治の造作を追跡中に偶然目にとまったもので、南総・加茂地区を主に神社仏閣をはじめ破風や神棚などに龍や夫婦鶴を、又、屋敷内の稲荷様などにも見事な彫刻を施した久治は明治十一年上総の国、亀山折木沢の監物家で父清兵衛・母れんの三人兄弟の二男として生まれたという。

大工の修業は東京でというだけで、師匠も場所も詳らかでないが、明治三十四年、二十五歳で市原市佐是の桐谷家の養子に入り、新次郎の娘りつと夫婦となった。が、当時仕事もなく再び東京へ出稼ぎに出かける。持ち前の負けず嫌いの性格は仕事の上にも現れ、自分の気のすむまではトコソ打ち込んだという。そのせいか、早くも東京の地でその腕を見込まれ、当時の陸軍中将の豪邸を完成、長い東京での仕事でみづり明治の職人気質が染みこんだ頃、あの関東大震災に遭遇、大正十二年、久治はここで急遽、婚家の佐是へ足向けた。それから久治は出稼ぎに出ることもなく、当時、村に三台くらいしかなかったという自転車に跨がり、どんなに暑い日でも長袖のシャツに乗馬ズボンをはき、腹かけ姿で出かけ、又、職人には珍しく暮れの大晦日と正月三ヶ日以外には、杯を持たず、煙草もくわえなかったという。

昭和の初期から太平洋戦争中にかけて、神社仏閣の改築や彫刻に精魂込める姿を人は佐是の宮大工久治」と呼んで尊敬した。昭和四十五年八月二十一日の暑い日に没し、佐是の光福禅寺に眠っている。



久治作の龍 桐谷家蔵



久治作 欄間彫刻「ぬくめ鳥」 平蔵・鳥海家蔵



桐谷久治墓所 佐是光福禅寺

言い伝え  
温め鳥とは  
冬の寒い夜、鷹が  
小鳥を捕らえて掴み、  
足を温めるといふ。  
翌朝、その小鳥を放ち、  
空腹だが、その飛び  
去った方向へは飛んで  
行かないという。



平成十年二月二十三日



十一月二三日

◎伏谷如水五代目庸夫氏、夜が明けるを待たず他界。大正九年八月四日生まれで七十八歳であった。墓所は東京 雑司ヶ谷霊園。

55



◎清水市梅蔭寺に待つ次郎長翁を知る会「会長補佐 由口英爾氏の案内で市原市藪の塚原茂は梅蔭寺の次郎長一家の墓参後、次郎長生家で七代目子孫の服部千恵子さんにも対面、壮士の墓などゆかりの地を見学。虎造の「清水次郎長伝」のテープを手に入れた塚原は後日、高石鶴子さんを伴い如水墓前でカセットテープを回した。久々に聞く「次郎長」の名を如水はどんな気持ちで聞いてくれたのか。：何時の日か再会の実現に夢は膨らむ二人であった。

平成十一年七月三十日



永嶋四郎夫妻と塚原

◎清水市 現静岡市との交流気運が高まり、地元城下町鶴舞に「鶴舞藩を知る会」が結成された。会長 内藤昇 鶴舞地区、副会長 鈴木仁 内田地区、事務局長は塚原茂 牛久地区に、戸田地区からは特別会員として、高石鶴子さんが選任され、小出善三郎市原市長、及び教育委員会を訪問。両市が歴史の取り持つ縁で交流の兆しあることを説明。その結果、鶴舞藩ゆかりの地に史跡高札板の建立設定が藩庁跡、藩校克明館跡、鶴舞藩家老 伏谷如水墓所と決まり、制作は市内奈良の宮大工 永嶋四郎氏に依頼することとなった。

十一年十月二日

◎清水市の次郎長翁を知る会「幹部一行五名 竹内会長 由口会長 補佐、長田、鈴木、天野各運営委員」が市原市との公式交流の先陣として来鶴。迎えるは小出善三郎市原市長、内藤昇鶴舞藩を知る会々長、鈴木仁同副会長、高石鶴子さん、塚原茂事務局長の他、地元有志多数が鶴舞公民館にて「鶴舞藩由来の高札建立記念祝賀会」と併せ歓迎会を開いた。



歓迎の挨拶をする小出善三郎市原市長



経過説明する塚原事務局長







平成11年10月21日 鶴舞公民館



鶴舞藩由来の高札建立記念 平成11年10月21日 会場・鶴舞公民館



平成十一年

十一月二十一日



# ◎「日高誠實顕彰碑」除幕式典挙行。

養老溪谷梅ヶ瀬川上流、大福山中腹に梅ヶ瀬会「主催により、誠實子孫秀實氏他を迎え盛大に開催された。



日高誠實

## 日高誠實顕彰碑

養老溪谷の奥深く紅葉の名所として知られる秘境に梅ヶ瀬溪谷がある  
この地は往年 日高誠實先生が官職を辞した後 文雅の道を楽しみつつ新居を構え産業を興し 子弟の教育に後半生を捧げ尽した地である  
先生は天保七年 宮崎県美々津に日高謙三 萬子の長男として生まれ 長じて高鍋藩明倫堂の教授となる

その間江戸に留学して研鑽をつみ 明治五年三月 陸軍省勤務を命ぜられ 陸軍大尉となるも 明治十七年願により陸軍省出仕を辞するや 翌十八年千葉県より官有地一八八町四反を無料で借り受け この地を梅ヶ瀬と名づけて理想郷をつくることを夢みて移住する  
山林に梅 果樹 花木 杉等を植林し 養魚場をつくり産業を興す また書塾梅ヶ瀬書堂を開き 寄宿舎には一時は八十名にも及ぶ子弟を収容し 市原 君津 夷隅 長生 山武郡下の青少年の育成に努め 産業の開墾と文化の向上に尽された  
先生はまた 詩文 和歌 俳句 書画などにも通じ 多趣味で悠々自適な生活を送られた

大正四年八月廿四日 八十才の長寿を保ち山紫水明の地 鷹取山山頂に眠る  
没後八十有余年の歳月が流れ その屋敷跡には小さな石碑を残すのみで当時を偲ぶすべからず  
茲に有志相計り 顕彰碑を建立し 先生の遺徳を顕彰すべくその実現をみた次第である  
平成十一年十一月吉日  
象閣 中村哲二撰文 謹書



平成十二年四月三日  
(二〇〇〇)

◎清水次郎長縁の子孫、恩人伏谷如水の眠る鶴舞に！  
次郎長翁を知る会」の企画による「次郎長ツアー」として清水郷土史研究会員なども加わり、奇しくも「二十八人衆」が池和田の如水墓所に集い、竹内会長はじめ全員が玉串奉奠。

58

次郎長ゆかりの七代目子孫服部千恵子さんと伏谷如水子孫五代目高石鶴子さんが墓前で堅い握手。嘗て如水墓前で塚原と二人で夢に描いた次郎長との再会が今、実現した。鶴舞公園に桜の交流記念植樹した後、鶴舞公民館で盛大な交流会を開催した。



次郎長ゆかりの子孫一行28人衆が鶴舞の如水墓参平成12年4月3日



竹内宏会長



平成十二年七月二十九日



第53回清水みなと祭へ平成12年7月29日バス2台90名参加



◎第五十三回清水みなと祭り」に参加。主催は鶴舞藩を知る会」の呼びかけで、市ふるさと文化研究会」も一緒に市原市からバス二台、九十名の参加で清水市との親睦を深めた。  
次郎長の菩提寺梅蔭寺に到着した一行は、宮城島弘正市長、同寺の次郎長資料室長の田口英爾氏、次郎長子孫服部千恵子さんらの歓迎を受けて、小出善三郎市原市長からのメッセージを内藤昇会長から清水市長へ手渡された。その後、道中へ向かう旅姿に扮した次郎長一家を見送り、次郎長の生家を七代目服部千恵子さんの案内で見学後、帰路についた。







## 清水市から“28人衆”訪問 転封地の市原・鶴舞で交流

明治時代初期に遠州浜松藩（静岡県）の上総転封で誕生した市原市鶴舞に三日、清水市からゆかりの人たちが訪れた。郷土史研究家らで作っている「次郎長翁（おう）を知る会」〔竹内宏会長〕のメンバー二十八人で、招待役の地元「鶴舞藩を知る会」〔内藤昇会長〕の案内で家老・伏谷如水の墓所や藩庁跡などゆかりの地ををたずね、交流を深めた。

「鶴舞藩を知る会」



交流訪問の記念に鶴舞公園でサクラの木を植樹するゆかりの人たち＝同市鶴舞

「維新の縁」で  
ふるさと談議

桐木原（現鶴舞）を開墾 画してきた。逆に市原市で明治三年四月に鶴舞藩が誕生した。

「克明館」は鶴舞公民館、の地に高札を建立するな  
さらに藩主を補佐した名家ど双方で訪問準備が進めら  
老・伏谷如水の墓が国道2れてきた。

97号を少し入った池和田の高台に残っている。

この日、清水市から来たのは偶然のように「清水二

如水は維新直前、江戸勤王に代わり戊辰めだった藩主に代わり戊辰（ぼしん）戦争で新政府軍に属する決断をするなど大きな功績を残しており、静岡県では著名人の一人。特高市鶴子さん（七）市原市に町奉行に代わり警察権を預かる民政長官の役にあつたころ、渡世人だった山本と親交を深めた。

長五郎（清水次郎長）を治安責任者に登用するなど、鶴舞公園で記念植樹、さらには藩校跡の公民館に移り、小出善三郎市長らも出席し

こうしたつながりから清て懇親会、「維新の縁」で水市の「次郎長翁を知る会」結ばれたふるさと談議に花では昨年からの鶴舞訪問を計を咲かせた。

「次郎長翁（おう）を知る会」



伏谷如水の墓を訪れたゆかりの人たち。親交の握手を交わしているのは次郎長の子孫・服部さん（左）と如水の子孫・高石さん＝市原市池和田

浜松藩が転封されたのは明治元（一八六八）年。徳川慶喜の駿府（すんぷ）移封に伴うもので、藩主・井上河内守正直は城地として



# 京葉新聞

発行所 千葉県市原市辰巳台東  
4-22-21 (〒290-0003)

〒京葉新聞社

電話 0436-75-1200 (代表)

FAX 0436-75-0400

郵便振替口座 00100-2-124243

新聞購読・広告掲載の  
お申込み。身近かな  
ニュースや話題あれこれ  
を、お寄せください。

心のしんまで温まる、  
くつろぎのひとときを。

漢方 和樂の郷

大駐車場 千297-0235  
600台完備 千葉県長生郡長柄町皿木一六  
0475-354126

ホームページ  
http://www.mesh.ne.jp/waraku/

# 民間外交更に深く

姉妹都市提携  
実現に向けて

4月3日、桜の  
鶴舞公園に

## 清水市民大挙して市原市に 次郎長の恩人如水(鶴舞藩家老)の墓参で小出市長「歓迎します」と

市原市鶴舞の「鶴舞藩を知る会」(内藤昇・会長)代表者ら六人が二月二十日、静岡県清水市を訪れ「次郎長翁を知る会」(経済評論家、竹内宏会長)の人たちの案内で、清水市が生んだ次郎長の墓の梅庵寺を訪れ線香をあげ、次郎長の生家の六代目、服部令一さんらと対面するなど、幕末の歴史が取りもたず絆を大切に、両市の緊密な交流をさらに深めた。内藤会長らの次郎長墓参は、昨春秋竹内会長らが市原市鶴舞に、博徒の次郎長を駿府周辺の警護役として抜てきしてくれた鶴舞藩井上河内守正直・藩主家老の伏谷如水の墓参に対する返礼。内藤会長らは日ごろに深まる両市の交流を「姉妹都市提携」に結びつけてほしいと同二十四日、小出善三郎市長を訪ね、清水市から託された「清水港開港一〇〇年記念誌」を手渡した。

清水市側の竹内会長ら「知る会」は、「如水は次郎長の恩人」として同市に如水の石像建立計画を明らかにする一方、四月三、四日「次郎長ツアー・市原市訪問団」を同市民らから募集、大挙して如水墓参のため市原市鶴舞を訪れることにしている。

徳川幕府の崩壊で世の中が騒然としていた明治元年(一八六八年)、清水次郎長(本名、山本長五郎)と出会った井上藩主家老の伏谷如水は、渡世人生の次郎長の力量を見抜き、一転して駿府の治安責任者に選んだ。「英雄は英雄を知る」通りの晩年の次郎長は博徒の親分生活から生まれ変わり、社会事業に数々の業績を残し、多くの社会貢献をした。

清水市の「知る会」によると、咸臨丸事件や清水港の近代化、富士裾の開墾など、後半生の次郎長が明治維新以降手がけたものは、



次郎長の船宿「末広」跡で往時を忍ぶ墓参の一行  
(清水港近くで)一塚原茂さん撮影



清水市から託された「清水港開港100年記念誌」を  
小出・市原市長に手渡す内藤・鶴舞藩を知る会会長

山岡鉄舟抜きには語れない。しかし「切った張った」の生活に終止符を打たせ、次郎長の生き方に方向を与えたのは如水」と語る。明治維新で浜松藩は、鶴舞藩として市原市に「お国替え」となり、家老だった

如水も井上藩主と共に同市に移住、生涯を全うして葬られ同市鶴舞近くの岩井戸の山腹に墓がつくられた。こんどの次郎長墓参には如水の五代目子孫の高石鶴子さん(右二)・同市上高根一三三二も同行し、「助け

られたのは逆に如水かも知れませんが」と、江戸幕末の往時を互いに追想しながら忍んだ。内藤会長と同藩研究家、塚原茂さん(左二)・同市二七五の一―らは「如水と次郎長の関係を最近知った。清水市と提携するため昨秋「知る会」を結

過を伝えた。「次郎長翁を知る会」は、次郎長の墓のある同市南岡町の臨濟宗妙心寺派の梅庵寺の次郎長の銅像の前に、近く如水の石像を建てることにし、また如水の墓参の際は、鶴舞公園に桜の苗木を記念植樹する予定という。小出・市原市長に清水市訪問の報告をした内藤会長らは「両市間には是非姉妹都市関係の友好を結ぶよう協力してほしい」と、一時間余に及ぶ懇談のなかで要望すると、小出市長は「両市間では古くからスポーツ交流があり、互いに「サッカーの町」としても先進地を見習うことで、市原市にとって意義が大きい。歴史のうえでも両市の関係が深いことを承知しているのので、実現に向かって努力したい」と乗り気。清水市から託された「清水港開港一〇〇年記念誌」の豪華本を渡され、「桜咲く日の清水市民の如水墓参には、是非参加して歓迎したい」と話



平成十三年二月二三日  
(二〇〇一)



除幕式



子孫の高石鶴子さんと服部千恵子さん



盛会な会場 鶴舞公民館

◎「伏谷如水ト清水次郎長ノ碑」建立除幕。

# 伏谷如水ト清水次郎長ノ碑

伏谷如水ハ文政元年（一八一八）十一月二十二日藩主井上氏ノ重職トシテ代々仕エタ伏谷家ニ生マレ十代  
又左衛門ヲ襲名。浜松藩家老ヲ務メタ。諱ハ昭良、如水ハ号デアル。浜松藩ノ上総（ノ転封ニヨリ明治二年  
藩主井上正直ニ随行シテ鶴舞ニ移住、明治二十二年六月二十九日七十二歳デ歿シ池和田岩井戸ノ墓所ニ眠リ。  
明治元年（一八六八）浜松藩ハイチ早く勤皇ノ意ヲ表明、同年三月二十二日、大総督有栖川宮熾仁親王  
ニヨリ、如水ハ駿府町差配役ニ任命サレタ。町奉行解任後ノ駿府市政ヲ司ツタ如水ハ次郎長コト山本長五郎  
ヲ大抜擢シ、清水港周辺ノ警固ニ当ラセタ。次郎長ガ博徒生活ヲ捨テ、世ノタメノクニニク又生キカニ  
転ジタノハ、實ニコノ時カラデアル。如水ノ抜擢登用ニ応ジ、次郎長ハ維新動乱期ノ清水港周辺ノ治安ヲ全  
ウシタバカリデナク、ソノ後半生ヲ社会事業家トシテ費イタ。  
次郎長ニトッテ正三生涯ノ恩人トモ言ウベキ如水ノ史実ヲ後世ニ伝エルタメ、清水市ノ「次郎長翁を知る  
会」会員オヨビ市原市在住ノ如水子孫高石鶴子ヲガ相謀リ、ココニソノ由来ヲ刻シ碑ヲ建立スルモノデア  
ル

平成十三年二月二十三日

題字 竹内 宏  
撰文 田口英爾



土屋 基さん

建立場所は市原市鶴舞公民館敷地内で元鶴舞藩々校克明跡。  
主催は「鶴舞藩を知る会」で協賛の清水の次郎長翁を知る会」か  
ら竹内宏会長、田口英爾会長補佐、次郎長ゆかりの子孫服部千  
恵子さん他役員が列席。地元から如水子孫高石鶴子さんや伏谷  
家親戚大森、林各家や小出善三郎市原市長他、各界多数の名士  
で、式典参列者合計百五十余名の盛大な集いとなり、塚原茂事務  
局長の司会進行で祝典が始まり、除幕後、高滝神社平田宮司によ  
る祝詞。続いて代表による玉串奉奠後、祝賀式典で宮城島清水市  
長からのメッセージが披露され、伏谷家親戚で矢田部家出身の声  
楽家土屋基さんの「日本の歌」が美しい声で会場一杯に流れるな  
ど、幕末の両傑を偲ぶに相応しい一日となり、清水市と市原市の親  
善交流の一里塚が築かれた。









伏谷如水と清水次郎長の碑除幕 平成13年2月23日(二枚組)





「鶴舞藩を知る会」および市原市の皆さん、この早春の季節に、皆さんとともに、市原市と清水市を結びつける立派な石碑『伏谷如水と清水次郎長の碑』の完成を祝うことができません。まことにうれしく思います。本日は本当におめでとうございます。

昨年四月の交流式典でも申し上げましたように、清水次郎長は鶴舞藩の家老だった伏谷如水翁のお陰で、警護役に取り立てられ、俠客から、社会事業家に転身するきっかけをつかむことができました。

次郎長翁を敬愛する清水の人達は、伏谷如水翁を恩人として深く感謝しておりますから、記念碑が完成する運びになりましたことは、実に喜びに堪えません。また今日、このように盛大な式典を設けて下さった「鶴舞藩を知る会」の方がたに厚く御礼を申し上げます。

市原市と清水市とは、昭和五十七年以来、二十年近くにわたり、スポーツを通じ交流が続けられています。今後、さらに記念碑完成をきっかけとして一層深く交流のすすむことを願ってやみません。市原市長の小出善三郎様によるしくお伝え下さい。皆さん、今日はほんとうに有り難う御座いました。

平成十三年二月二十三日

市原市 鶴舞藩を知る会 様

清水市長 宮城島 弘正











平成十三年四月一日  
(二〇〇一)



◎清水次郎長の船宿「末廣」のオープン記念見学。  
鶴舞藩を知る会」の内藤会長以下二十七名は、特別養護老人ホーム高滝神明の里」の「好意のバスで、運転手はティサービス68、ベランの會本昌正氏。アクアライン経由で一路清水へ。  
昼食はエスハルスドリームフラザ内の寿司処「駿河」で頬張る。明治十九年清水波止場に開業した船宿が復元され、清水港船宿記念館」として本日スタート。長蛇の列に混じり、次郎長翁を知る会」の堤、長田、鈴木、天野各氏や服部千恵子さんの案内で見学。梅蔭寺で次郎長の墓参後、次郎長生家から更に山岡鉄舟揮毫の「狂士墓」を訪れた。



「末廣」前で服部千恵子さんを囲んで



市原市南総地区次郎長墓参も  
清水市へ研修視察



次郎長菩提寺で説明を聴く一行

市原市の南総地区町会長会（小池茂夫会長、戸田牛久・内田鶴舞・平三地区〇二町会加盟）が地震災害に先達の静岡清水市に災害対策本部体制と、自主防災組織を研修視察とあわせて、地元の「鶴舞藩を知る会」内藤昇会長と二昨年から親交が続いている「次郎長翁を知る会」（会長、竹内玄・経済評論家）の案内で、同市の清水次郎長の生家や、ゆかりの未廣亭、菩提寺の幽香山梅蔭寺（清水市南岡町）を訪ね、次郎長が博徒の親分から一転、幕末の混乱期に世に尽くし社会貢献の偉人となったのは、地元鶴舞近くの岩井戸に眠る伏谷如水（鶴舞藩家老）が立役者であったことの認識を改めて深くした。

視察した未廣亭は、次郎長が晩年営んだ船宿を同市港町の三四の港橋際に復元され、こし四月一日一般公開、「清水港の物語」に加わった。亭内一階の展示コーナーには、次郎長翁を知る会から特別出品された鉄市寺所蔵の次郎長座像、富岡鉄斎が未廣亭二階から描いた富士山の図、次郎長が徳川慶喜公から拝領の髪斗目の礼服、そして次郎長を清水港や周辺の警護

六月十二日



竹内宏会長より表彰状を受ける高石鶴子さん ・右端和服姿は服部千恵子さん



梅蔭寺本堂にて



石川倉次先生之頌徳碑

◎市原市南総地区町会長会 会長 小池茂夫（四十人が地震災害に備え、清水市の災害対策本部と自主防災組織の視察研修。後、田口英爾氏の案内で梅蔭寺の次郎長墓や船宿末廣を見学。

数第二町会長でもあった塚原事務局長も同行。歴史がとりもつ縁で清水と市原市の交流が一層親密なものとなった。



南総地区町会長会・清水市視察研修 2001.6.8~9



小出市原市長のメッセージを読み上げる永井南総支所長 写真撮影 数第二町会長 塚原茂

◎清水の次郎長翁を知る会「通常総会 会場 梅蔭寺 参会者百名」に鶴舞藩を知る会」が招かれ、内藤昇会長、高石鶴子さん、塚原事務局長、牛久の石材店主 原地孝幸氏が出席。総会は次郎長の命日を記念して毎年行われている。

この席上で高石鶴子さんが市原市の鶴舞公民館敷地内に伏谷如水ト清水次郎長ノ碑」建立に際し、多額の資金を寄付したとして表彰された。

清水で一泊 サバーサイドイン玉川（後、四人は新幹線で浜松へ郷土史家 伊藤哲示氏の案内で石川倉次先生の頌徳碑」を見学後、嘗ての井上河内守の居城 浜松城天守閣に登る。ここから見渡すと、遙かなる房総は地平線の彼方に霞んでいるようだった。





南総地区町会長会 清水市視察研修 2001.6.8～9



平成十三年六月二九日



塚原事務局長



十月六日

平成十四年一月二二日



東金市・最福寺

◎伏谷如水墓前祭が市原市中高根鶴ヶ峰八幡露崎宮司に依り執り行われた。

これは如水子孫高石鶴子さんが、如水終焉の地に記念碑が建立された事や、鶴舞藩を知る会」で墓所内に「如水神社」が完成（大工藪の齊藤晟）したお清めの報告であり、清水市 由口英爾氏は墓前に御神「一式を奉じられ、墓守の岩井戸 清田房雄氏、内藤昇会長、塚原事務局長が出席。



如水神社



◎清水市の田口英爾氏が井上河内守上総への道筋を訪ねて長南町へ井上公仮本営跡の宿を提供した今関家や同勘四郎の墓所、仮役所だった浄徳寺を高石鶴子さんと塚原事務局長が案内した。

◎清水市の田口英爾氏と高石鶴子さんが塚原事務局長の案内で東金八鶴湖畔の最福寺で官軍使用の膳碗と対面。

慶応四年閏四月九日、東海道副総監督府隊長として大多喜城を目指す伏谷又左衛門惇（如水長男）が浜松藩兵百名とともに宿営したという古刹 最福寺を取材。その後、塚原の運転で山武郡松尾町の橋爪家へ向かう。当家は明治元年、徳川家達駿府入城に伴い遠江国掛川藩から上総国芝山へ国替えになった時の家老職であると共に、伏谷家とは三島神社宮司 矢田部家を通して親戚筋である。



最福寺を遠望する高石鶴子さん



伏谷惇隊長の饗応に使われた膳碗を見る  
高石さんと田口英爾氏・写真撮影・塚原事務局長



平成十四年二月六日



伏谷茂子墓石

◎伏谷如水の長男 惇 又左衛門 官軍隊長)の夫人茂子の出自が判明した。

このきつかけは、塚原が鶴舞病院で偶々出会った茂原市在住の吉野雅春氏のお陰で、嘗て、茂原の早野村に居住していた故 鶴舞藩士 族寺田源左衛門豊哉の三女であることに辿り着いた。

後日、この茂子の弟 軍平の孫に当たる東京清瀬市の湯原志津栄さんを高石鶴子さんと塚原は訪ね、娘 須藤史子さんと池袋雑司ヶ谷霊園に眠る伏谷惇夫妻の墓参をした。



三月 三日

伊藤哲示氏



◎明治二年、井上正直公が浜松城より上総国へ国替えとなり、長南宿今関家を仮宿としていたが、当時の井上藩の動向が当主今関勘四郎によつて克明に記されていた日記を現 今関久枝さんから見せていただく機会を得た塚原は、早速、浜松市古文書同好会の伊藤哲示氏に解読を依頼。初の井上御殿様仮御本営中井二鶴舞表御引遷後御用留」が初めて解読 製本された。

五月二四日



◎井上正直公の孫で市原市北国分寺台四ノ十九ノ八にお住いだつた故 正壽氏 平成十四一月十五日歿 行年九十一歳)が位牌とともに經子夫人に抱かれ、小湊タクシー平野氏の運転で子息の待つ東京へ帰られ、高石鶴子さんと塚原は井上家から見送った。



故井上正壽氏

六月十二日



◎清水次郎長の命日に当たるこの日、清水市日の出町の清水マリニビルで、設立第十回 次郎長翁を知る会」総会に、鶴舞藩を知る会」から内藤会長、高石鶴子さん、塚原事務局長が出席。清水の巴川畔「ワバーサイドイン玉川」に宿をとる。  
梅蔭寺本堂は木造から鉄骨に改築中のため、次郎長の法事は仮本堂で行われた。

六月二九日



昌姫・濱姫墓石

◎井上河内守正直公の濱姫、昌姫の墓石発見。

茂原市藻原寺、下妻藩一万石井上家分家先の井上光子家墓所に。維新の際、井上公に仮宿を提供した長南宿古沢の旧家今関勘四郎の日記を手がかりに塚原事務局長が追跡調査で発見。  
百三十年振りに井上公孫、故正壽氏夫人經子さんと井上光子さんが墓石と感激の対面に、内藤会長、高石鶴子さん、塚原も立会った。

受法院殿妙幻日心大童女 明治二年四月二十七日歿 濱姫)

清香院殿妙花日榮大童女 明治四年六月十三日歿 昌姫)





交通事犯受刑  
者の手記より  
東京交通安全協会提供

うと、「君は人が乗って  
いたのに気がつかなか  
ったのか」といわれ、トラ  
クターに乗っていた人が、  
受けとめなければいけま  
す。重たいトラクターを  
引くのは、重たい仕事で  
す。

の(一)のダイオキシン類を  
検出した。この数値は平成  
十二年、環境省が全国の海  
川など調査した際の平均値  
の約1.6倍、約1.5倍に上  
った。

市原市の臨海部工業地帯  
と隣り合わせの市原港付近  
海底で、高濃度のダイオキ  
シン類が発見されて以来、

県と市は三年余にわたり、  
詳細調査を続けた結果、同  
付近海底から前回調査を上  
回る一当たり一万五〇〇  
〇ピコ(一ピコは一兆分  
の一)のダイオキシン類を

**市原港**  
**ダイオキシン高濃度の汚泥**  
**1700立方メートルが**  
**国県に対策を要望**



133年ぶりに発見された濱姫(中央)昌姫(左)の墓碑を前に、子孫同士が対面。  
(右から)内藤昇さん、井上光子さん、井上経子さん、高石鶴子さん、塚原茂さん

# 鶴舞藩主・井上公娘の 濱姫・昌姫の墓碑発見

## 子孫が133年ぶりに墓参

### 分家先の墓所に眠り続けて二世紀

#### 「鶴舞藩を知る会」が史実を究明

正直公が鶴舞転封前に、  
仮宿舎となった長生郡長南  
町の今関勘四郎宅に到着し  
たのは明治元年(一八六九)  
旅で疲れたのかその年の四  
月に濱姫、さらに昌姫が前  
後して病死した。正直公が  
浜松城出発前の明治元年(一  
八六八)十二月、三女行姫  
が亡くなっており、わずか  
の間に正直公は娘三人を亡  
くし、転封と重なった悲し  
みは相当深いものであった  
らしい。

見されず、茂原市周辺の多  
くの寺を見て歩いているう  
ち、藻原寺で昔に包まれた  
墓碑に「院殿……大童子」  
と刻んだ二本並びの姉妹の  
石碑を発見した。この墓地  
は井上光子さん家が何十  
代も古くから墓を守って来  
たが、正直公の娘とは知ら  
ずにいたものだった。

正直公の娘の墓碑と説明  
されて二人は、涙くみなが  
ら知る会の内藤会長らと共に  
墓を清掃、持参した花と  
線香を手向け、「長いこと  
寂しかったでしょう」と  
一三三年訪れることがなか  
った子孫に代わって、手厚  
く霊を慰め、時々墓参に来  
ることを誓っていた。

市原市の「鶴舞藩を知る会」(内藤昇会長)の事務局長で、同藩研究家の塚原茂さん(65)は同市数二七五の一の長年にわたる史実究明で、同藩主井上河内守正直公が遠州浜松藩(現 静岡県浜松市)から転封した幕末の動乱期二年六か月の間に、鶴舞で正直公の長女濱姫、二女昌姫の二人の娘を病気で亡くしたまま、娘たちの行方が分からなかったが、鶴舞藩を知る会の研究家たちの長年にわたる調査で、茂原市茂原二〇一の古刹、日蓮宗本山・常在山藻原寺(持田日男・貫首)の境内墓地に手厚く葬られている二人の昔に包まれた墓石(高さ81センチ、幅30センチ、厚さ18センチ)を発見、姫にゆかり深い井上経子さん(81)は市原市北国分寺台四の一九の八と、宗家井上家の墓守り続けている施設職員、井上光子さん(54)は茂原市東茂原七の一三二が、同会の仲立ちで感激の対面、近くにいない者同士の子孫が、一三三年前の幕末最後の姉たち墓標に、花と線香をたむけて慰霊した。

事業主・役員の労災加入 給与計算の受託  
健康保険・厚生年金・労災保険・雇用保険の各種手続

### 西山社会保険労務士事務所

併設 労働保険事務組合 京葉労務協会  
〒290-0056 市原市五井1625 73  
☎0436-22-2403 FAX0436-22-6784

# 京葉新聞

発行所 千葉県市原市辰巳台東  
4-22-21(〒290-0003)  
株式会社 京葉新聞社  
電話 0436-75-1200(代表)  
FAX 0436-75-0400  
郵便振替口座 00100-2-124243  
e-mailアドレス  
thekeiyo@arion.ocn.ne.jp

新聞購読・広告  
掲載のお申込み。  
身近かなニュー  
スや話題あれこれ  
を、お寄せくだ  
さい。



平成十四年

十一月二十二日

## ◎ 愚庵歌碑」建立

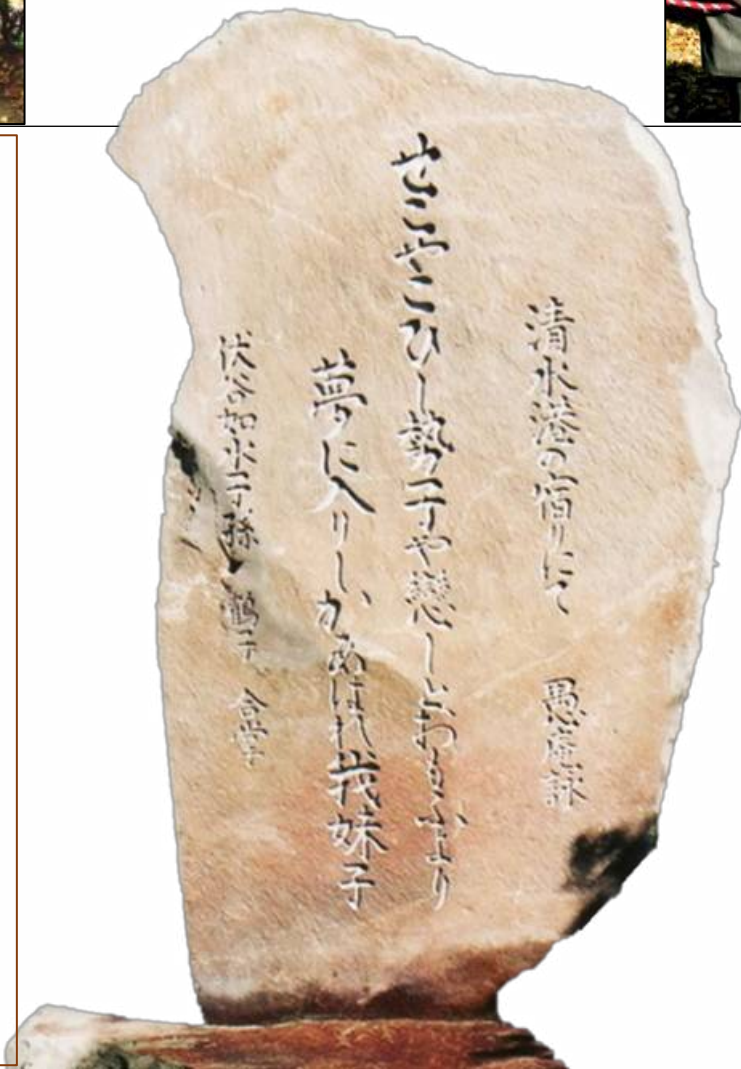
鶴舞藩家老 伏谷如水の業績が「東海遊俠伝」によつて伝えられ、子孫の高石鶴子さんが、作者 愚庵に感謝と慰霊の心で、いわき市 平天田愚庵の故郷（の松ヶ岡公園）に建立、除幕されたものである。明治元年、戊辰戦争磐城平の戦いで行方不明となつた父母妹を尋ねて諸国を遍歴中、明治十一年、清水港次郎長のもとで詠まれた二首の内の一首

せこやこひし勢子や戀しとおもふより

夢に入りしかあはれ我妹子」

が碑面に彫られた。

除幕式典には高石鶴子さんと鶴舞藩を知る会「会長 内藤昇、事務局長の塚原、それに石材業者の市原市牛久の原地孝幸 博久 父子。清水市からは次郎長翁を知る会」の田口英爾会長補佐、地元「愚庵会」から柳内守一副会長、渡辺米知氏、小野田博事務局長の各氏や関係者などで祝った。



### 記

戊辰戦争磐城平の戦いで、天田五郎は父母と共に十歳の妹のぶと生き別れとなりました。碑面の歌は父母妹の行方を尋ねて諸国を遍歴中、明治十一年清水港次郎長のもとで詠まれました。後には、自らの心の中にその姿を求めようと、出家仏門に入ります。ここに伏谷如水の子孫としてきさやかな碑を建て、歌を刻して供養に代えたいと思います。

(裏面)

平成十四年十一月二十二日

鶴子誌す





愚庵歌碑 清水港の宿りにて 建立者・高石鶴子さんの自筆である(除幕11日前・牛久・原地石材店にて)



「伏谷如水の業績伝えた」明治の文僧

# 『東海遊侠伝』天田愚庵の歌碑建立 著者

如水5代目高石鶴子さん(市原市)がいわき市の公園に

江戸幕末の明治元(1868)年、遠州浜松藩(静岡県)の転封で市原市鶴舞に誕生した鶴舞藩(井上河内守正直・藩主)家老の伏谷如水(又左衛門 1818-1889)の5代目直系子孫の同市上高根1232、高石鶴子さん(80)が、福島県いわき市平字古鍛冶町127の松ヶ岡公園内に、明治の文僧で清水次郎長の一代記を著した『東海遊侠伝』の著者天田愚庵(1854-1904)を顕彰する歌碑(高さ1.5m、幅80cm)を建立、如水誕生日の02年11月22日、静岡県清水市の「次郎長翁を知る会」(会長、竹内宏・経済評論家)会長補佐の田口英爾さん、市原市の「鶴舞藩を知る会」会長の内藤昇さん、地元教委関係者と合わせて20人が参加、東海遊侠伝が史実をいまいに伝えていることに感謝する除幕式が、一世紀をしので行われた。

天田愚庵が明治17(1884)年著した東海遊侠伝は、

幕末動乱期の人事で如水が次郎長と深くかわり、それまで渡世人生の次郎長を抜てきして幕府直轄の駿府周辺の治安統轄に就かせて成功、一躍偉人として出世したのは「引き立て役だった恩人、如水の影響」。そして富士山ろく開懸などの社会事業家として世のために尽くした次郎長の生き方を交えた如水の卓越した識見の人材登用の史実を正しく伝えている愚庵の顕彰となった。

高石さんが自ら揮毫した歌碑は「せこやこひし勢子や恋しとおもふより夢に入りしか あはれ我

もいわれ、水滸伝はりの名文で綴られた文学性の高い作品で講談、浪曲、映画など次郎長関連の作品は、直接間接的に同書を基礎資料としており、文筆とは場違いのところで短期間にまとめたこの作品は、文才家として驚きだったと広く評価されている。



晩年の天田愚庵

(1877)年代の一時、次郎長の養子になった。この時次郎長の半生を執筆したのが東海遊侠伝だった。これは一名次郎長物語と

妹子」と詠んだ愚庵の歌を刻んだ。愚庵は15歳で戊辰の役に出陣中、行方不明となった両親と11歳の妹のぶを探し求め、全国行脚の遍歴が20余年におよんだ。この時のぶを求めて詠んだ歌だった。この間、生涯の恩人山岡鉄舟の世話で清水次郎長に身を寄せた。明治10



100年前の報恩に、感慨無量の高石鶴子さん(右)と(左へ)内藤昇・鶴舞藩を知る会会長、塚原茂・同会事務局長ら関係者が除幕



十二月十五日

◎ 鶴舞藩を知る会「忘年会 会場牛久 ホテルニユしずか」



出席者は井上經子さん、茂原の井上光子さん、長南の今関久枝さん、そして市内奈良の永嶋棟梁を迎えて、地元からは竹下教育長、小池茂夫南総地区町会長等で、内藤会長夫人、塚原喜美、箕輪丈子さんから両井上さん、今関さんに花束贈呈があり、賑やかなひとときを過ごした。

十二月二十日

◎ 伏谷家のルーツと思われる栃木県上都賀郡栗野町大字中粕尾字布施谷 現 鹿沼市 を訪ねた。



布施谷坪台上の布施谷大明神に向かう子孫の高石鶴子さん  
布施谷（伏谷）のはしまり

一行は高石鶴子さんと清水の田口英爾氏、塚原は車の運転で目指すは下野国の住人で、伏谷家系譜書きに署名されている小杉記四郎なる人物と伏谷如水の接点の解明、更に「布施谷坪」と今に遺る地名と「伏谷」の関連である。

現地有力者で郷土史家の駒場一男氏の案内で「布施谷出雲守居住跡」と伝う馬場屋敷、そこを見下ろす山上に「布施谷大明神」、更に「布施谷なる人物の愚川」の水路土木工事と現在も呼ばれている「布施谷堰」の用水場等を見て廻り、小杉家墓所に記四郎の墓碑銘が文政十二年二月二十八日生まれで明治四十五年六月四日、九十四歳で没していたことが確認された。

栗野町の教育委員会発行の「栗野昔ばなし」に登場する「布施谷」の起りは戦国時代以前のこと、その後、徳川時代初期に初代井上正就が横須賀城主になり、その所領の飛び地が当地にあり、布施谷（伏谷）が管理支配をしたことが、以後、維新まで井上家と伏谷家の主従関係の結びつきになったと田口氏は説く。



布施谷堰



駒場一男氏宅にて



平成十五年一月十八日  
(二、〇〇三)



◎故井上正壽氏（正直公孫）一周忌法事に「鶴舞藩を知る会」の高石鶴子さんと塚原事務局長が招かれる。

都内杉並区堀之内の妙法寺にて井上本家はじめ親族一同にて法要が営まれた。案内状を頂いた高石さんと塚原は参列、焼香までさせていただき、嘗ての殿様の親戚でもない身を恐縮していたが、その昔、井上家と伏谷家の主従関係であったことへの配慮を今も大切にしておられる温かいおもひやりに感無量であった。



井上正道氏と塚原 茂

◎伏谷如水ト清水次郎長ノ碑」建立二周年記念日に関係者で碑を囲み、改めて幕末動乱期に出会った清水次郎長と伏谷如水との親交と両市の意義深い交流を回想した。

参加者は如水子孫 高石鶴子さんをはじめ井上河内守孫の故・正壽氏夫人の經子さん、清水から 次郎長翁を知る会」会長補佐 由口英爾氏、地元からは故田中信雄氏夫人のキミ子さん、鶴舞藩を知る会」の内藤会長、塚原事務局長、その他支援関係者等で二十三名であった。清水から参加した田口氏は、如水が好きだった地酒を持参、碑前に手向けた。銘柄は静岡県富士宮市下条、牧野酒造の濃醇清酒「清水港次郎長」だった。

平成十五年

二月二十三日



高石鶴子さんと田口英爾氏



和風レストラン・ふるさと前にて



平成十五年三月二二日



◎鶴舞藩主井上正直公子孫一同を元鶴舞藩庁跡や鶴舞神社、藩校克明館跡などに案内。その後、正直公に上総国へ移住の際、仮宿を提供した長南の今関家を案内。又、茂原市藻原寺に眠る正直公の姫達の墓参をした。

一行は井上瑛子 正直公孫の故正徳氏夫人、井上正世 正直公曾孫 井上家十三代目、同夫人眞澄、井上絢賀 正直公の玄孫、岡智 正直公孫の故綾子氏長女、井上經子 正直公孫の故正壽氏夫人の各氏であった。

当日、十時十分内房線五井駅に到着の一行を出迎えたのは鶴舞藩を知る会」の内藤会長、鈴木副会長、高石鶴子さん、塚原事務局長、それに小池茂夫南総地区町会長会々長の五名であった。茂原市内の「でんでん」で昼食後、帰路途中「ちはらに眠る殿様石」のある市原市根田根立寺を案内。此処は井上家親戚筋に当たる下総高岡藩一万石。井上一族の墓石に焼香し帰京された。

79



濱姫・昌姫墓参する井上公子孫一行等



長南町・今関家を訪れた井上氏一族





塚原 茂 鶴舞藩を知る会  
事務局長)

井上眞澄 正世夫人)

小池茂夫 南総地区町会長会々々長)

井上絢賀 正世長女)

井上正世 正直曾孫)

内藤昇 鶴舞藩を知る会々々長)

井上瑛子 正直孫の正徳夫人)

井上經子 正直孫の正壽夫人)

鈴木仁 鶴舞藩を知る会副会長)

岡 智 正直孫綾子の長女)

高石鶴子 伏谷如水五代目)

平成十五年三月二十二日  
井上正直公 濱姫昌姫  
墓参記念

茂原市藻原寺

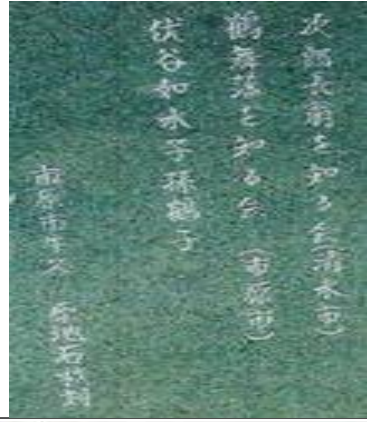
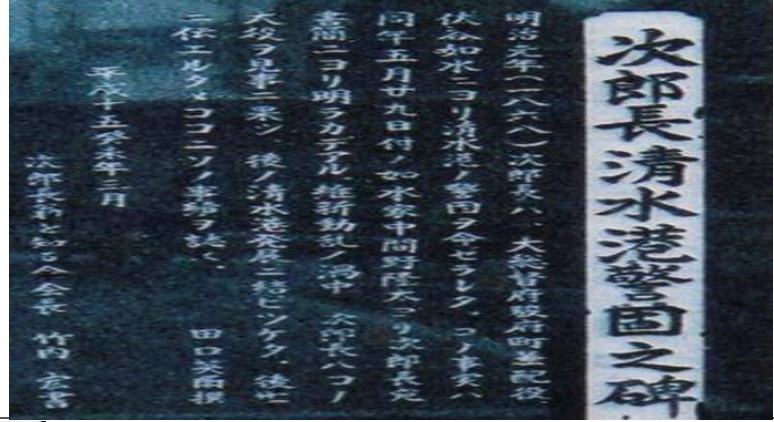


平成十五年三月二五日

◎ 次郎長清水港警固之碑」が建立除幕された。

場所は清水市港町一丁目の船宿記念館 末廣」である。除幕式に清水の次郎長翁を知る会」竹内宏会長、田口英爾会長補佐他。各理事、宮城島清水市長、清水郷土史研究会 山田健司会長や次郎長七代目 服部千恵子さん他多数の地元名士。市原市から鶴舞藩を知る会」内藤会長、高石鶴子さん、塚原事務局長、そして施工した石材店主牛久の原地孝幸 博久父子である。

碑文は明治元年、無政府状態で混乱の中、浜松藩家老の伏谷如水が駿府に駐留し、清水港の警固役に次郎長を抜擢、次郎長は役目を果たし、これが転機となり、清水港の発展や富士の裾野の開墾など社会へ貢献した」というもので、次郎長側と如水子孫の高石さんも互いに相手に感謝し、碑は一人の友情の証でもあると語る。…※清水市は来月の平成十五年四月より静岡市に変わる。



次郎長清水港警固之碑 除幕 平成15年3月25日 清水港船宿内



宮城島清水市長

塚原茂事務局長

後藤磯吉氏

高石鶴子

竹内 宏会長

内藤昇会長

山田氏



# 清水港警護の 大任を果たす

## 次郎長翁の顕彰碑完成

清水次郎長ファンでつ

くる市民団体「次郎長翁を知る会」(竹内宏会長)は二十五日、清水市港町一丁目の清水港船宿記念館「末廣」で、「次郎長清水港警固之碑」の除幕式を行った。

石碑は山梨県産の山崎石。白みかげ石の台座を含めた高さは一・五メートル、幅六十三センチ、厚さ十六センチ。碑文で次郎長の警護役としての功績を紹介している。

れも合併して新静岡市になるのをきっかけに飛躍しよう」とあいさつ。関係者が除幕して石碑の完成を祝った。

高石さんはあいさつで、「如水は次郎長を抜てきしたのではなく、協力してもらったことで役目を果たせたのです」と次郎長にお礼を述べた。

明治維新の時、浜松藩の家老だった伏谷如水は明治元年(一八六八年)、駿府周辺の警護(警固)役として渡世人だった次郎長を抜てきした。次郎長はその役目を立派に果たし、清水港の近代化や

除幕式には竹内会長、宮城島弘正清水市長、伏谷如水ゆかりの千葉県市原市の「鶴舞藩を知る会」内藤昇会長、伏谷如水子孫の高石鶴子さんから約五十人が出席した。

富士山すそ野の開墾など大事業に余生を尽くし

竹内会長が「次郎長は幕藩から維新にかけての転機に躍進した。われわ



平成十五年四月六日

◎高石鶴子さんと塚原で井上家一族井上政清公寄進の長光寺のしだれ桜を見物にと国分寺台の井上經子さんを案内した。

## 井上正直公孫正壽氏夫人經子さんとお花見

山武市指定文化財（天然記念物）

# 長光寺のしだれ桜

住 所 山武市埴谷地先

指定年月日 昭和五十年六月一日

埴谷寺ケ台「長光寺」境内にあり「ウバヒガンしだれ」と呼ばれ、樹齡約三百年、高さ十五メートル、枝のひろがり八百平方メートル（三四二坪）、幹の太さ五メートル、その枝ぶりは素晴らしいものであったが、残念ながら昭和五十六年八月三日突然西側の枝が折れてしまった。

毎年三月末から四月初めにかけて、うすべに色の小さな花が咲き境内は花見客でたいへんな賑わいを見せる。

当、長光寺は山号を昌谷山といひ永正十一年（一五一四年）千葉市中田町に創立されたが、江戸時代に入り寛文九

年（一六六九年）第九代住職守玄院

日禪上人の時に、埴谷領主、井上筑

後守政清の寄進により現在の地に移された。

老樹の為、昭和四十年に二世が接木により作られている。

平成二十二年三月吉日

山武市教育委員会





平成十五年四月十一日

◎元鶴舞藩主井上正直公孫の故正壽氏夫人經子さんを市内  
数の塚原家にお迎えした。裏の畑に上り野路やワラビを採られたり、  
部屋ではお茶をすすりながら昔の思い出話などされてくつろがれ  
た。折角の機会なので養老溪谷、大福山や粟又の瀧に案内。滝見苑  
で蕎麦をおいしそうに食べられた後、市内北国分寺台のお住まいま  
でお送りした。

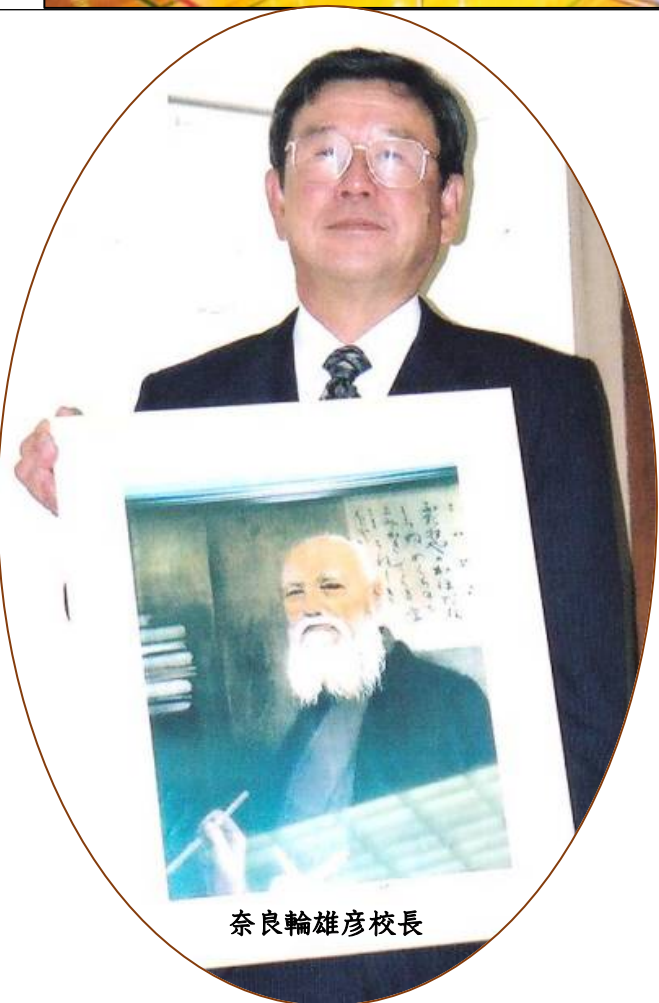




平成十五年九月二六日



◎「ふるさとの歴史 鶴舞藩と石川倉次」の講演会が開かれた。  
会場は市原市立南総中学校 奈良輪雄彦校長 生徒数六百四十  
八人（体育館で全校生徒 教員の他三十人の地域住民も参加。  
この特別講話は同校の総合学習講座の一環として開催され、<sup>85</sup>石  
川倉次は日本点字の考案者として歴史に名を残す郷土の偉人  
であり、南総の誇れる宝である」と講演した 鶴舞藩を知る会」の塚原  
事務局長は結んだ。

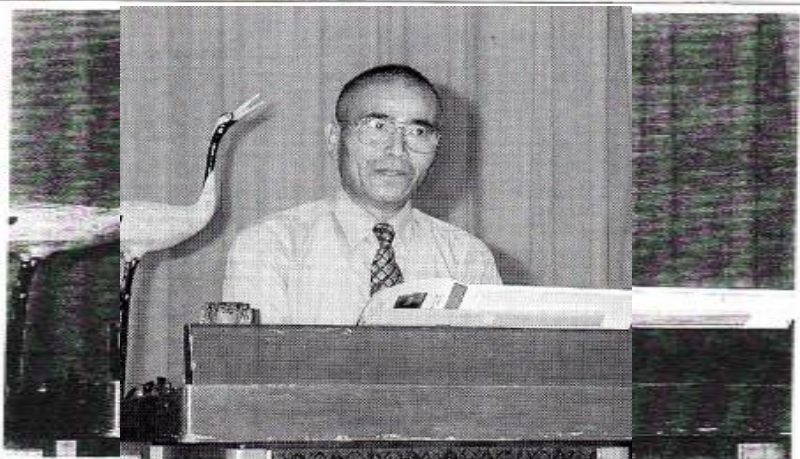


奈良輪雄彦校長

## 郷土の“先輩”に感銘

日本点字  
生みの親 石川倉次の生き様紹介

市原・南総中



「鶴舞藩と石川倉次」と題して講演する塚原氏

日本点字の生みの親 舞藩と石川倉次」と題し  
で、少年時代を市原市鶴 特別講話が、市立南総  
舞に過ごした郷土の偉人 中学校（奈良輪雄彦校長、  
・石川倉次。その偉大な業 生徒数六百四十八人で  
績を生み出すまでの生き 行われた。  
様（さま）を郷土の後輩 たちにも知ってもらおう  
と、ふるさとの歴史・鶴 総合学習授業の一環とし  
て開催され、全校生徒・教

員のほか約三十人の地域 明館」跡と書かれた高札  
住民も講話に耳を傾けた。 があり、その中で倉次の  
講演したのは「鶴舞藩 ことを触れられている。  
を知る会」事務局長の塚 また、同市石川の龍溪寺  
原氏（同市敷住）。塚 には倉次の両親の墓も残  
っている。  
しかし、この倉次が鶴  
舞で学び、過ごしていた  
ことを知る住民も少なく  
なっているのも事実。

石川倉次は日本点字の 考案者として歴史に名を  
残す郷土の偉人。高滝湖 畔の水と彫刻の丘に胸像  
があるほか、鶴舞公民館 敷地内に鶴舞藩校「克  
京」に出て目の不自由な子

県央

あなたの身の回りの情報  
お知らせください。

<http://www.chibanippo.co.jp/>

c-nippo@chibanippo.co.jp

市原支局  
0436 (24) 3423

木更津支局  
0439 (87) 7414

佐倉支局  
043 (486) 5945

習志野支局  
043 (284) 3811

043 (284) 3811





平成十五年

十一月十一日 ◎ 市原市制施行四十周年記念事業で市中央図書館にて

## 鶴舞藩と石川倉次について

鶴舞藩を知る会」の塚原事務局長が講演。



日本点字の翻案者  
石川倉次先生

## 市制40周年記念中央図書館「記念講演会」

日本点字の創始者である「石川倉次」について、資料を用いての講演を開催いたします。

日 時 平成15年11月11日(火)  
午後1時30分～3時



場 所 市原市立中央図書館 2階視聴覚ホール

テーマ ふるさとの歴史「鶴舞藩と石川倉次」

講 師 塚原 茂 氏 (つかはら しげる)

募集人数 60名

募集方法 電話及び中央図書館カウンターにて受付  
電話 0436 (23) 4946



市原市立中央図書館





平成十五年

十一月十三日



「天田愚庵」の銅像除幕に立会う 平成15年11月13日  
左より二人目高石鶴子・子孫の天田晴彦氏・制作者小滝勝平氏の右に塚原茂

◎ 天田愚庵像の除幕。  
愚庵の兄 真武の子孫 天田晴彦氏他が除幕。

没後百年記念事業として、いわき市平の松ヶ岡公園愚庵いおり前に地元「愚庵会」大塚静義会長や柳内守一副会長、小野田事務局長他によつて建立され、清水市の次郎長翁を知る会」の田口英爾氏、東京谷中全生菴 鉄舟会」坂部健氏、埼玉県 小川鉄舟会」八木忠太郎氏と、市原市 鶴舞藩を知る会」の高石鶴子さん、牛久の原地孝幸氏と塚原事務局長も参席。

小滝勝平氏力作の愚庵像が、いわきの歴史を振り返る拠点の一つに加わった。

この日、柳内氏が持参した釣鐘の柿の種」を頂戴した高石さんと塚原は、翌正月十一日、お供え割の日」に鉢に蒔くことになるが、この柿のいわれは明治三十年十月十日に京都産寧坂の愚庵に託された桂湖村が子規に届けた見舞いの柿の孫柿に当たる。

現在、塚原宅庭隅に二鉢ほどに成長して毎年実が付いている。

十二月十五日

## ◎ 子規の句碑除幕と釣鐘の柿移植披露

静岡市清水殿沢 駿富日本平の里 駿月庵海の道」で催された。



これは清水地域の文化関係者でつくる「愚庵と子規を偲ぶ会」代表田口英爾氏」が清水次郎長伝の元祖となった「東海遊俠伝」の著者天田愚庵の没後百年を記念して行われたもので、式典には愚庵や次郎長ゆかりの子孫 服部千恵子さんはじめ「偲ぶ会」の会員三十人が出席。市原市からは鶴舞藩家老 伏谷如水子孫の高石鶴子さんと塚原事務局長が出席。句碑は明治三十年、京都産寧坂の愚庵から、庭の柿を贈られた子規が、東京上根岸の自宅から京都の愚庵禅師に宛てた手紙の中の一句である「柿熟す愚庵に猿も弟子もなし」を子規直筆の書で櫟の板に転写し彫ったものである。

又、愚庵が贈った釣鐘の柿は実生として愚庵の生まれ故郷いわき市在住の愚庵研究家柳内守一氏の庭に根付いているうちの一本を譲り受け、句碑の隣に移植された。

## 柿の木由来

明治二十二年、京都・東山区の愚庵の庭に長いこと蒔かれた桂湖村が製菓する時、櫟中の柿（つりがね）十五顆と銘言を授け、京都の愚庵に届けた。  
その時、子規は詩句をものし、其状を長に届けよとしたが、投函が差れた。愚庵は、子規からの便りのないことを嘆んで、櫟村への便りに次の一言を加えた。

まんぢかは まさかすあるか、かきのみは

あまきとむいはず、こきとむいはず



いわき市愚庵いおり内の柿木と塚原



平成十六年

二月二二日

◎伏谷如水ト清水次郎長ノ碑「建立三周年記念事業催す。

清水市出身で祈りの芸人 白井勝文師を鶴舞公民館に招き、津軽三味線で弾き語りの「清水次郎長と咸臨丸事件」が題目。

参加した清水の田口英爾氏や幹事、伏谷家親戚の大森泰子、吉田恵美子、林敬子、土屋基子、そして井上公ゆかりの井上經子さん、佐久間隆義市原市長、星野伊久雄市議他多数の出席者が次郎長」と如水」の登場した語りに感動し聞き惚れた。

これに先立ち、白井勝文師は会場にほど近い池和田の如水の墓前に「弦供養」の幟旗を建て、風雲急を告げる維新の折、如水と次郎長の出会いを切々と三味線で弾き語り、両雄に供養。その後ろ姿に高石鶴子さんはそつ手を合わせていた。

88



「伏谷如水ト清水次郎長ノ碑」建立三周年記念 H. 16. 2. 22



熱演中の白井勝文師



平成十六年

四月二二日

◎市原市立加茂公民館長 遠山靖枝氏より年度末の三月二十七日付で生涯学習講座「加茂葵大学」会員九十八名）において伏谷如水と清水次郎長」の題名で講師依頼されていたが、新年度の館長さんが茂出木恒（ひさし）氏であった。

開校式は九時から始まり、式終了後に加茂公民館の職員紹介があり、休憩後 鶴舞藩を知る会」の塚原事務局長が講演。

鶴舞は嘗て短期間ではあったが城下町であり、家老の伏谷如水と清水次郎長の親交が動乱の維新にどう関わったかの内容であった。





平成十六年 五月六日



長南水沼小学校跡

◎長南町社会教育課 課長 江澤眞より当公民館の歴史教室」の第一回講師の依頼あり、演題は「鶴舞藩と石川倉次」ということで塚原事務局長が出席、講師を務めた。

長南と石川倉次の関係は深く、明治二年に殿様の国替えで浜松から一家でやつて来たのが長南の小沢村であり、又、鶴舞小学校を明治八年に卒業、十六歳で教員として初めて赴任したのが水沼小学校 現 相川寺)であり、日本の点字の祖といわれるまでの過程を興味深く聴かれ、参加者の古老からは本堂の左手が職員室だった」とか 祖父が相川寺で学んだそうだ」の思い出話が出る程だった。

五月十二日



竹内 宏会長

◎春の次郎長史跡探訪ツアー 主催 次郎長翁を知る会)の竹内宏会長はじめ田口英爾氏他一行が市原市鶴舞を訪れ、伏谷如水と清水次郎長ノ碑」や鶴舞神社等鶴舞藩ゆかりの地を見学。

出迎えた地元 鶴舞藩を知る会」の内藤会長や高石鶴子さん、塚原事務局長等と懇親会を開いた。

平成十六年 六月八日



加茂城にて講演中の塚原事務局長

◎千葉県読書グループ連絡会 会長 水野幸子)氏より、今年度の総会及び研修会の席上で講演依頼あり。会場高滝の加茂城」演題は「鶴舞藩家老 伏谷如水と清水次郎長」であった。



平成十六年

七月十九日

◎山岡鉄舟每歳忌法要 主催 東京谷中全生菴鉄舟会)に高石鶴子さんと塚原事務局長が出席。

九月十九日

◎静岡市興津の水口屋で清水の憲庵と子規を語り継ぐ会」に高石鶴子さんと塚原事務局長が出席





平成十六年 十月



店内の写真は戸谷洋子 小高由紀子  
高石鶴子 小出三代子のみなさん



◎ 各種の写真資料作成でお世話になった牛久 塩田カメラ店





発行所 千葉県市原市辰巳台東  
4-22-21 (〒290-0003)

株式会社 京葉新聞社

電話 0436-75-1200 (代表)

FAX 0436-75-0400

郵便振替口座 00100-2-124243

e-mailアドレス  
thekeiyo@arion.ocn.ne.jp

新聞購読・広告  
掲載のお申込み。  
身近かなニュー  
スや話題あれこれ  
を、お寄せくだ  
さい。

「目が見えない不自由な子供たちに本が読めるようにして上げたい」と、市原市が生んだ日本点字の創始者、石川倉次(1859〜1944年)の偉業を後世に伝えようと顕彰胸像建立計画が、鶴舞藩を知る会(内藤舞会長)によつて進められている。明治にして「福祉時代に先駆け、生涯を視覚障害者救済の点字の道にかけた」石川倉次の志と功績を永く後世に伝えて行きたい」と同会は、協賛募金100万円の協力を同市民に呼びかけ、11月1日ゆかりの同市鶴舞公民館敷地内に建立、除幕することになっている。

「目が見えない不自由の子らに本を読ませたい」

## 市原市

# 日本点字考案の 明治の先覚者 石川倉次を胸像建立で顕彰

地元出身の偉人に市民の協力呼びかける



日本点字を考案して視覚障害者救済に生涯を捧げた石川倉次

「郷土で賢明に生きた先人の遺徳を究明、後世に正確に伝えて行く事が私たちの責任」の持論を崩さない塚原茂さん(68)＝同市藪275＝は、鶴舞藩を知る会事務局長で郷土史家。『ふるさとの歴史・鶴舞藩と石川倉次』と題し、同市立中央図書館、同市立南総中学の生徒ら各地で講演、石川倉次の偉業を伝えてきた。

いまだ145年前の安政6年、静岡県浜松市の武家に生まれた倉次は、藩主の国替えで井上正直藩主と共に浜松藩から鶴舞に家族と共に移った。13歳で鶴舞

自由な人が本を読めるようにして上げたい」と、31歳の



塚原茂郷土史家



平成十六年

十月二十二日

◎市立南総中学校全校生徒総合学習講座で鶴舞藩と清水次郎長」の演題で塚原事務局長が講演。

十一月一日

## ◎石川倉次先生之像」建立除幕。

日本点字の創始者で鶴舞藩出身の石川倉次先生の功績を後世に伝えようと呼びかけた胸像が鶴舞公民館の敷地に完成し、祝賀会来賓に千葉盲学校長の伊藤和男氏夫妻はじめ、倉次ゆかりの子孫。佐久間隆義市原市長、山中教育長、星野伊久雄、伊豆倉節夫両市議、地元教育関係者、市連合町会長の小池茂夫氏、倉次両親の墓所を守る龍溪寺洪谷昌道住職、鶴舞小学校四年生の児童他多数の地元関係者、更に遠路、静岡市清水から田口英爾氏が次郎長翁を知る会」を代表して参列されて、盛大に除幕がされた。

これは、昨年九月、市立南総中学校での要請で鶴舞藩を知る会」の塚原事務局長が石川倉次をテーマにした講演が契機で、建立計画が持ち上がり、鶴舞藩を知る会」内藤昇会長が発起人となり協賛者を募り、同校職員をはじめ多数の寄付者のお陰で、点字記念日に併せて建立除幕が実現したものである。

胸像の前に立つと台座に「日本点字の父 石川倉次先生之像」の文字が点字で書かれた金箔のプレートが目に入る。



鶴舞小四年生



受付や案内に協力された方々







石川倉次先生之像除幕 平成16年11月1日 市原市鶴舞公民館



# 点字の始祖 石川倉次先生略歴

石川倉次は安政六年（一八五九）浜松城下に生まれた。明治二年、藩主井上公の上総への国替えにより父母と共に鶴舞に移住し、藩校克明館に学ぶ。明治八年鶴舞小学校を卒業。同年千葉師範教員検定試験に合格し、上埴郡水沼小学校（現長生郡長南町）に一等授業生として勤め、明治十二年七月南相馬郡鷲野谷小学校（現沼南町立手賀西小学校）に上京、官立楽善会訓盲学校を最後に小西信八先生に請われて、第四回点字選定会で採用され、明治二十三年十一月一日のさだめられた。昭和十九年十二月、疎開先群馬県安中にて八十六歳の生涯を閉じた。



石川倉次先生之像 鶴舞公民館 平成16年11月1日



# 日本点字考案に尽力

95

## 石川倉次の胸像建立

### 市原・鶴舞公民館で除幕式

日本点字の創設者で市原市に住んだ石川倉次の功績を伝えようと、「鶴舞藩を知る会(内藤昇会長)」が建立を呼び掛けた胸像が鶴舞公民館の敷地に完成した。倉次は点字を考案し、視覚障害者に本を読み書きする希望と光を与えた。一日、住民ら約八十人が出席して除幕式が行われた。

倉次は一八五九年に浜松親とともに市原市鶴舞に松城下で生まれた。浜松移住。十三歳で藩校に入り藩主の国替えに伴い、両学し、明治時代に入り鶴

舞小学校を首席で卒業した。その後、県内の学校で教鞭(きょうべん)をとるかたわら、目の不自由な人のためにフランスで考案された点字を参考に日本点字を考えた。

を後世に伝えることができる」と完成を喜んだ。除幕式には、倉次の後輩に当たる鶴舞小の四年生や地元住民らが出席した。伊藤和男・千葉盲学校校長は「石川先生は視覚障害者に文化の窓を開いてくれた。考案した点字はほとんど変わらずに今も使われている」と偉業をたたえた。

### 新会頭に穴倉氏

#### 市原商工会議所

同会事務局長の塚原茂さん(べい)同市教員が南総中学校で倉次をテーマに講演。これを契機に胸像の建立計画が盛り上がり、同会が発起人となり、百万円を目標に胸像の協賛金を募った。胸像は、台座を含めて高さ約百九十センチの石像。鶴舞公民館の敷地に設置された。

市原商工会議所は臨時議員総会を一日開き、新会頭に副会頭で呉服店経営、穴倉健一郎氏(べい)を決めた。会頭候補に二人が立候補したため同会議所設立以来初めての会頭選任選挙が実施され、投票によって選ばれた。任期は三年。

選挙は、穴倉氏と役員



除幕された石川倉次の胸像―市原市鶴舞

公民館

塚原事務局長は「市原の誇りである倉次の偉業



石川倉次終焉の地

群馬県安中市安中

昭和19年12月23日歿



石川倉次終焉の地を訪ねて 平成25年11月11日



平成十六年

十一月十八日

◎千葉県立鶴舞商業高等学校 奥村馨校長の魅力ある高等学校づくり支援事業の一環として同校体育館にて 鶴舞地域の歴史について「塚原事務局長が招かれて講演。」

97

十一月十九日

◎市原市立南総中学校 奈良輪雄彦校長に於いて 鶴舞藩家老 伏谷如水と清水次郎長」の演題で 祈りの芸人 白井勝文」氏による教育講演会が開かれ、津軽三味線から弾ける音とともに幕末から明治への歴史と地元の関係に固唾を吞んで聞き入った。

平成十七年

一月十六日

(二〇〇五)

◎「愚庵と子規を語る会」会長 竹内宏氏)が駿府日本平の里で開かれ、高石鶴子さんと塚原事務局長は、いわき市に立つ愚庵歌碑の「せこや勢子」の柳内守一氏 拓本、東京杉並の秋山正三氏の表装による掛軸を持参、会場の床の間に掛け、愚庵子規を偲ぶ一助とした。

一月二十日

◎市原市立加茂公民館 茂手木恒館長)内の 加茂葵大学」の招きにより、ふるさとの歴史 鶴舞藩と石川倉次」について塚原事務局長が講演。

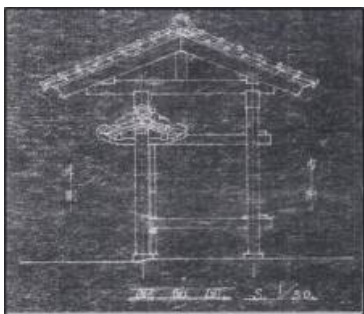
平成十七年 三月九日

◎「幻の鶴舞城門 裏門」と設計図

これは裏門といわれて元 鶴舞藩奥山家 現 鶴舞六一七角田家)に廃藩後に移築されたものを角田家に譲渡されたという。故角田吉章氏が解体時に図面を遺され、当時の鶴舞商校に寄贈されていたもので、現在角田家入口には基礎の沓石だけが確認される。



鶴舞商校々長室にて  
左より山内鶴舞小校長・奥村鶴商校長  
齊藤鶴商教頭 後列 塚原事務局長





平成十七年三月二三日

◎市原市倫理法人会（会長 佐久間馨司氏）に招かれ、郷土の歴史  
鶴舞藩と明治維新について事務局長が講演。  
会場は牛久ホテルニテしずか」広間であつた。

◎静岡市の政令指定都市移行に伴い旧清水市のほぼ全域が  
清水区となる」。

◎茂原市文芸協会 齊藤一燈会長）の要請で定期総会後郷土の  
歴史で茂原市と関係の深い鶴舞藩と石川倉次先生について  
塚原事務局長が講演。  
会場は茂原市総合市民センターであつた。



四月一日

四月二六日

五月二八日

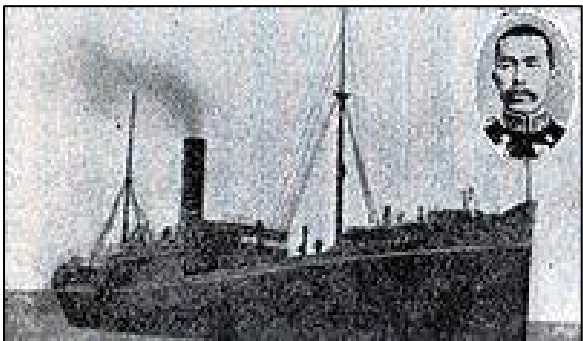
◎日本海々戦大捷一〇〇周年記念大祭」が東京渋谷の東郷神  
社で各国大使をはじめ内外から約七百八十名が参列し盛大で  
あつた。

この日参列した塚原事務局長は、岡崎市在住の新海眞二氏、バル  
チック艦隊第一発見者二等水兵新海春吉の孫）と合流し、式典  
会場にて同席。

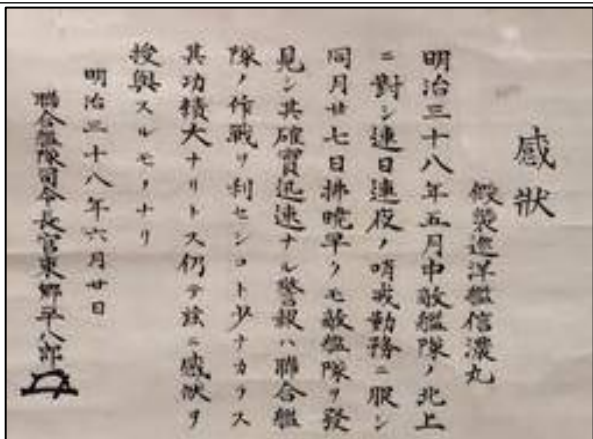
敵艦隊発見」の打電をした仮装巡洋艦信濃丸艦長成川揆大佐  
は旧鶴舞藩出身である。



新海眞二氏と塚原茂



仮装巡洋艦信濃丸と成川艦長



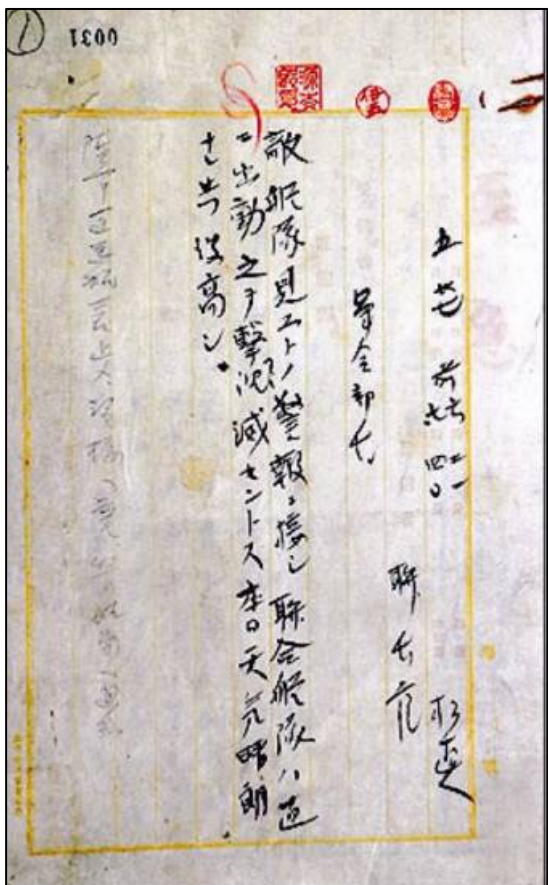
新海眞二氏提供



新海眞二氏と塚原事務局長



成川揆位牌  
新海眞二氏提供





平成十七年五月二十九日  
(二〇〇五)



◎静岡県由比の望嶽亭藤屋」を市原市高滝、奈良輪雄彦氏と塚原事務局長で訪ね、若杉昌敬氏、静岡鉄舟会々長」に案内された。こゝ望嶽亭の「蔵座敷」の階段こそが、山岡鉄太郎を官軍の追手から逃がし、歴史に残る官軍参謀西郷との会談へ導いたのである。

この事は若杉氏の著「日本の危機を救った山岡鉄舟 空白の二日間 望嶽亭藤屋」と清水次郎長」に詳しく記されている。

又、当茶亭の主人故松永宝蔵氏は、伏谷如水、次郎長を市中警固役に抜擢の図を描いた人であることが今回の訪問で分かった。

七月 三日

◎市原市教育委員会平成十一年度生涯学習講座卒業生主催の銀友会皆木叫会長」による出前講座「鶴舞藩と明治維新」について会場の三和ハートで塚原事務局長が講演。

七月十九日

◎山岡鉄舟毎歳忌法要 東京谷中 全生菴」に出席。

中曾根康弘元総理や各界名士、埼玉小川鉄舟会、天田愚庵縁の子孫晴彦氏、次郎長翁を知る会」の田口英爾氏、市原市の鶴舞藩を知る会」から高石鶴子さんと塚原事務局長が参加。法要後に、山岡先生とアンパン」と題して坂部健氏による講演あり。

七月三十日 埼玉小川鉄舟会」八木事務局長主催による鉄舟忌法要が同じく全生菴で行われた。坂部健氏はじめ静岡鉄舟会の若杉事務局長や天田晴彦氏が、市原市から塚原事務局長と高滝の奈良輪雄彦氏が参加。なを閉会后、日高市高萩の犬竹一浩夫妻と近くの谷中 大雄寺に向かい高橋泥舟の墓参をした。



木村屋のアンパンと鉄舟と明治天皇



九月二十六日

◎半導体レーザー開発に貢献した林巖雄 ひずお氏死去。

氏は伏谷如水ト清水次郎長ノ碑」建立除幕式に伏谷家親戚として敬子 ゆきこ夫人とともに列席せられた方であった。

報道によると室温で安定的に使える半導体レーザーを実現させ光情報技術の基礎を築いた応用物理学者で、元ベル研究所研究員。東京大学原子核研究所助教授を経て渡米。ベル研究所員だった七十年に、それまでマイナス数十度に冷やさないと使えなかった半導体レーザーを、常温で連続発光させることに同僚の化学者・野依良治博士とともに成功させた。

その実績は八十六年に朝日賞、〇一年に京都賞を、他多くの賞を受けた偉大な化学者であった」と報じられた 朝日新聞



敬子夫人・土屋基・高石鶴子・林巖雄の各氏

告別式は十月二日、横浜の山水閣にて執り行われ、参列した親戚の高石鶴子さんによると、別れを惜しむ門下生や多くの人々で玉串奉奠の御櫛が山積する程であった」といふ。



平成十七年十月十八日



◎元鶴舞藩主井上正直公の孫、故正壽氏の經子夫人は市原市国分寺台にお住まいであつたが、この度、東京の〆子息の処に転居されることになり、鶴舞藩を知る会」内藤会長、高石鶴子さん、塚原事務局長、そして長南町の今関久枝さん等で經子さんと鶴舞の藩庁跡や茂原、藻原寺の濱姫、昌姫の墓参をし市原での思い出とした。

十一月二三日

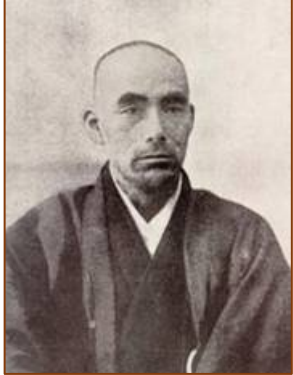
◎天田愚庵歌碑建立 除幕 静岡市清水港船宿末廣

清水港の宿りにて

愚庵詠

我が妹をおもふものから妹が  
我をこひんころも かくやとぞしる

これは伏谷如水子孫高石鶴子さんが先祖の恩人である「東海遊侠伝」の著者愚庵に対しての感謝と慰霊の現れであり、主催は清水の次郎長翁を知る会」竹内宏会長）や愚庵と子規を語り継ぐ会」で進行役は清水郷土史会長山田健司氏。祝辞を田口英爾氏からいただき、参会者は地元国会議員や愚庵子孫天田晴彦氏や地元著名人で建設工事に関わつた市原市牛久の原地石材店主、鶴舞藩を知る会」の塚原事務局長も参列した会場で高石鶴子さんから謝辞が述べられ除幕された。



天田愚庵





天田愚庵歌碑除幕



清水港の宿りにて  
愚庵詠  
我が妹をおもふものから  
妹が我とこひんころも  
かくやとぞしる  
伏谷如水子孫  
鶴子合掌



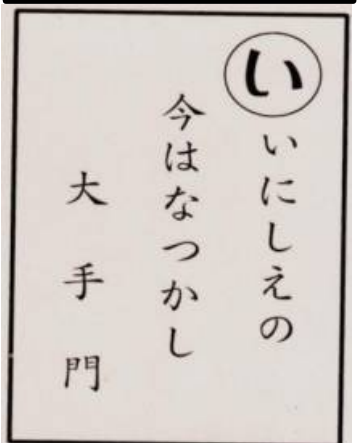
平成十七年

十二月一日



◎「鶴舞カルタ」が誕生

地元鶴舞町会、商店会、さくらの会、鶴舞小学校のPTAのみなさんと、鶴舞の歴史や生活を表現したもので、元祖「鶴舞カルタ」は平成二年に同小校長 林文雄氏時代に白黒版で作成のものを、この度はカラー版として作成されたものである。



平成十八年 四月二日  
(二、〇〇六)

◎NHK大河ドラマ「功名が辻」で「小谷落城」の場面を放映す。我が郷土の市原市西国吉の戦国大名 浅井長政ゆかりの「国光寺」が脚光を浴びるなか、先住職 故市原雄忍大僧正の七回忌法要が四月二十九日に本堂内にて執り行われた。



平成十八年七月十九日

◎山岡鉄舟毎歳忌法要に参加 東京谷中 全生庵)  
例年にならい中曾根康弘元総理大臣が列席されて執り行われた。市原市牛久から原地孝幸石材店主、塚原は兄 秋山正三、同秋山義男を伴い参加した。



平成十八年

七月二十九日



森巖寺山門

## ◎市原市海保の森巖寺山門改築再建成的。

公家台や御腹台という地名や平忠常伝説を秘めた台下に二代目山門が四百年振りに上棟された。檀家有志手作りの祝の紅白餅二俵分が田旗老師や川名昭雄総代、多々良棟梁等で山門上から参集した百余名に播き施された。

宋の禪僧 蘭溪道隆（二四）が弟子等とともに博多に上陸し、建長五年（一二五三）鎌倉幕府執権 北條時頼建立の建長寺の開山に迎えられた。その後、弘安年中（一二七八、一二八七）海保台上に森巖寺の前身 臨濟宗泉龍寺が創設され、蘭溪道隆はその開山と伝う。



蘭溪道隆像

又、明治七年、蘭溪道隆自筆の『空生庵』を人から手にし山岡鉄舟は愛蔵していた。やがて、明治十三年に一寺建立を発願、寺域を道友国泰寺越叟和尚の薦めにより谷中の現在地に選定した。ところが図らずもこの土地が、蘭溪道隆が江戸に漂着し九死に一生を得て、全生庵という庵室を作つて閑居していた旧跡であった。奇縁に感じた鉄舟は明治十六年、全生菴を寺号とし、居士邸から嘗て江戸城の守本尊 葵正観世音の靈像を遷して本尊とした」と全生庵の由来書に伝えられている。

九月十三日

◎市原市立有秋東小学校 六年生対象で更級会の出前講座で講演。テーマは市原市西国吉の医光寺所蔵の浅井三好家合同位牌や徳川秀忠の室崇源院像（お江像）との関係で講師は鶴舞藩を知る会「事務局長の塚原」。

九月二二日

◎加茂公民館主催歴史講座で戦国大名浅井氏と市原の医光寺について塚原事務局長が講師を務めた。

十月一日

◎鈴木佐村上正教、君塚善利、伊妻満男各郷土史研究家諸氏が市原市海保の森巖寺を訪問した。案内は塚原事務局長。

十月二七日

◎加茂公民館主催歴史講座で鶴舞藩の歴史と明治維新について塚原事務局長が講師を務めた。

十一月四日

◎鎌倉文化の研究者 鈴木佐村上正教両氏とともに円覚寺や建長寺を訪問。高井宗務総長直々の案内に忍縮。常楽寺等、蘭溪道隆禅師関連のお寺を見学。一行は両氏の他、森巖寺の住職 由旗ご夫妻、川名昭雄檀家総代と塚原であった。偶々、彦根市の天台宗 智教寺住職の佐々木陵西氏と奇遇した。



十一月十七日

◎加茂公民館主催歴史講座 幕末明治に活躍した市原の人物について塚原事務局長が講師を務めた。



平成十八年

十一月二十六日

◎市原市岩の藪岩青年館」で藪第一、第二町会、岩の三町会主催の防災と郷土の歴史」講座で塚原事務局長が講師。

十二月十六日

◎井上正直公胸像並びに鶴舞史跡見学会

浜松市の伊藤哲示、清水から田口英爾、山田健司、秋山武久、いわき市から柳内守一夫妻、更に市川市の高橋川八、長南町の今関久枝の各氏、地元からは鈴木仁副会長、高石鶴子、原地石材店社長、原地孝幸、大井太一、塚原事務局長夫妻の参加で正直公の像を見学後、大井戸、本丸跡の碑や鶴舞公民館内の伏谷如水ト清水次郎長ノ碑」、石川倉次先生之像」如水の墓所」巡った後、牛久のホテルニユ一しずか」で愚庵歌碑」の掛軸を觀賞しながら懇親会を開き、縁ある地域の人々との親交を深めた。

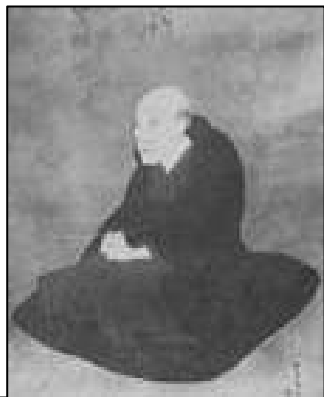


平成十九年

一月三十一日

◎東條一堂生誕の地を訪ねる。

茂原市の生んだ幕末における勤皇の大儒である八幡原の東條通世邸を訪問、氏の案内で茂原公園内の巨大な碑と対面。吉田松陰をはじめ木戸孝允、梅田雲浜等も、一堂の門人鳥山新三郎に兄事した人々であることを思えば、一堂こそは勤皇志士の父であったのだ。門人は三千人に及び、桃井儀八、清川八郎、安積五郎、間崎哲馬等のとき錚々たる志士が、又、郷土においては板倉胤臣、高橋喜惣治、千葉弥次馬等の諸士もみな門人であるという。



三月三十日

◎市原市牛久の三島神社板絵馬が里帰り。

牛久の絵馬を見る会」秋葉稔氏からの要請で木更津市県立上総博物館へ同行したのは、昨年の十二月十三日のことであつたが、昭和五十一年十一月一日に同館へ保管依頼してあつたが、作品の形容が不明なので、立会つて確かめて欲しいとのことであつた。



三島神社の絵馬(南総公民館蔵)

昇亭北寿描くお伊勢参り道中で一行が見たと思われる海浜城郭図 桑名城と思われるで嘉永年間から安政期にかけての牛久下宿住人の奉納品である。同行者は千葉神社宮司 松井清子氏、氏子総代の串田務、宮崎昇、秋葉稔、町会代表箕輪宏の各氏。同館の保管の關係上、近々に返還される事になつたものである。

里帰りした絵馬」二点は佐久間隆義市長の計らいで南総公民館資料室に展示されることになった。

県教育委員会文化財実態調査報告書資料」と理科又亮著浮世絵の光と影」を参考に塚原事務局長が作成した説明文」が並びて展示されている。

四月十一日

◎伏谷如水肖像画由来。

肖像も写真も遺っていない故、如水三男の奥山三郎第九十八銀行第四代頭取」の写真と如水孫で大森鐘一に嫁した豊子の写真を合成し、絵師は 薫嶺 茂原市在住(齊藤正敏氏) によるものだが高石鶴子さんの依頼で田口英爾氏の協力で伏谷家々紋の八丁子車付きの羽織を着た丁髷姿で完成。塚原家にて受領した。





平成十九年

四月二十一日

◎この日発行のシティライフ第八五八号の取材を受けた牛久の道了様について

明治時代に三州碧海郡安城町（愛知県）生まれの大見正道という人物が最乗寺 神奈川県南足柄市）で修業を終え、現在の市原市奉免村の満蔵寺の末寺である養老村新巻曹洞宗医王山正福寺第二十三世として迎えられている。最乗寺での道了尊の教えを深く身につけられた正道大和尚は、近在の衆生を救うべく最乗寺より分霊し牛久上宿に堂をお造りになられ、ここに道了尊を祀ったと伝えられる。

大見正道大和尚は道了尊建立に際し新巻から川在を越え、更に奉免村を経て牛久に至る道のりを草鞋履きで毎日お通いなされていたといわれる。

大正三年十二月十一日、五十五歳で亡くなられ、新巻の正福寺に眠られている。当牛久上宿自治会館裏には講中により道了殿開山古鳳正道大尚」と刻まれた「参り墓」が建立されている。

塗り師 皆吉 中 兼吉について 現当主 孝寿氏）

道了様に安置されている奪衣婆像と閻魔王像が、大正時代に塗り替えられていると思われる記録があり、施主が内藤弥太郎（現マルト）で塗り師 皆吉 中 兼吉で明治村から牛久町に改める時とある。



参り墓石と古鳳正道大和尚（正福寺蔵）



大正十三年四月二十五日  
塗 賛 施 主  
牛久 内藤 弥太郎  
塗り師 皆吉 中 兼吉  
時 明治村ヨリ 牛久町ト 改ム

中家三代続いた技師

塗り師

兼吉 昭和二年七月二十九歿

上総堀師

蔵治 昭和四十年四月十三日歿

屋根葺師

三郎 昭和六十年

五月十四日歿



奪衣婆像と閻魔王像



最乗寺を訪ねて・箕輪宏氏と



平成十九年

七月二十四日  
(二〇〇七)

◎市原市立加茂公民館 杉田壽男館長 講座名 加茂葵大学で  
塚原事務局長が講演。テーマは道しるべその2

九月十六日

◎市原市中央図書館 土岐正弘館長の「歴史講座」で塚原事務  
局長が「城下町鶴舞の歴史」について講演。

九月二十七日



元禄津波供養塔

◎市原市立加茂公民館主催「ふるさと歴史探訪」バス研修  
コースは井上公が仮本営とした長南町今関邸から公の姫達の眠  
る茂原藻原寺墓地、本堂の波の伊八二代目信恒彫刻の龍、隣接  
する鷺山寺の元禄津波犠牲者供養塔を、午後は市原市西国吉の  
医光寺へ所蔵する崇源院木像 お江像や三好家墓所を見学。塚  
原事務局長が講師で同行した。

十月二十五日



◎市原市「池和田の光明寺本堂山号の扁額「音信山」の書家につ  
いてかねてより東京谷中・全生庵鉄舟研究家の坂部健氏に調査  
依頼していたが、それによると、冠帽印は「處世若大夢」と刻印し  
てあり、落款印は「岡岡高歩」と号の鉄舟居士」であるとの回答を  
得た。なお、使用されている印形から維新直後の鉄舟三十代半ば  
の書であろうとのこと 真書は光明寺蔵)

——「この世にいたるだけで夢のようだ」の意 ——

平成十九年

十一月十一日



◎高山彦九郎、南総奥野村に一宿。  
永年追ひ求めていたが彦九郎が一泊したと思われる家を遂に突  
き止めた。そこは現当主 関谷虎雄夫妻が住む農家である。  
彦九郎が記した日記によると、その場所は山裾にあり、裏山は笠  
森観音に通じる急峻な坂道、屋敷裏には岩盤を掘り水が今でも  
溜まっている。改築前の母屋脇には「雪隠」があつた跡は、彦九郎も  
使用した処だ。内田地区の多くの人に尋ねたが、最後に奥野の牧  
沢定夫氏夫人は土地生まれとのこと、村内のこととは手にとるよう  
で医者殿の家かも知れないが発端となつた。  
高山彦九郎は江戸時代後期の尊皇思想家で林子平、蒲生君平  
と共に寛政の三奇人の一人。

十一月十二日



◎奇しくも彦九郎の出生地である群馬県太田市の彦九郎研究  
会「正田喜久会長」一行三十二名が彦九郎の北行日記に従つて  
江戸より奥州、又、京都までと歩かれた彦九郎の足跡を訪ねて木  
更津より房州を巡る研修旅行で袖ヶ浦市の飯富神社を訪れた。

こゝは寛政二年六月八日、木更津宿を発つた彦九郎が神主深  
河常陸介喬榮と逢い、房総遊覧初日の夜を過ごした場所、翌朝、  
礼服し社参の前に行水した井戸の遺る旧神主屋敷跡や喬榮の墓  
所、それに万葉の里「うまくたの嶺ろ」が見渡せる高台を塚原事務  
局長は案内。

翌日、房州白浜を廻つた一行と九十九里ドライフィンで大原の村上  
正教氏と合流。一宮玉前神社で別れた。



## 高山彦九郎の足跡明らかに

## 市原市奥野の『清左衛門』家に投宿

## 『北行日記』

を頼りに

執念の追跡実る

寄稿 郷土史研究家 塚原 茂

今から217年前の寛政2年(1790)6月、この房総に20日ほど旅行し、風土や人間に触れた旅日記、いわゆる『北行日記』が遺されているが、高山彦九郎(1747〜1



塚原 茂さん

彦九郎は生い立ちや就学、多くの人々との交遊、当時の社会状況などから、「幕府による政治では人々の暮らしはよくならない。代わって朝廷に政権を移譲させるべきだ」と考えた。そこで世

九郎は、「馬来田の嶺」を尋ね、近くの鏡ヶ峯に登り望見した。やがて鹿野山を経由、外房を回り一宮玉前神社の神主田中但馬守家を経て、長南給田村の金坂外記家を探ねた後、選んだ先が笠森へ

を通過して奥野の清左衛門家まで真つ暗闇を困難しながら辿り着いた。大変だった今日1日を語りながら、夜更けまで2人は酒を酌み交わし一夜を過ごしている。

かつて、彦

九郎研究家がこの「清左衛門家」を探し求めていたようだ。依然として不明であり、後究が待たれている。



高山彦九郎が投宿した市原市奥野の関谷虎雄さん宅(当時の家は建て替えられた)

79311名は正之、通称彦九郎)は江戸中期の尊王思想家で、王制復古の先駆者・旅の思想家、また林子平・蒲生君平と並んで寛政の3奇人、歌人などと呼ばれた人物である。

その彦九郎の房総遊覧の旅は、江戸橋を発船して翌日、木更津に船着きし、先ず八剣神社へ訪れたことから始まり、次に袖ヶ浦市の飯富神社へ向かい神主の深河喬榮と逢い宿泊している。

同日記によると彦九郎は、笠森観音を参詣しようとして深沢村へと歩いている時に、内田村奥野、現在の市原市奥野の、酒に酔った清左衛門と出逢い、2人は連れ立って5、6軒ほど宿を探したが無いので、それならばと観音の境内

「鶴舞藩を知る会」は長年にわたり、彦九郎の日記を参考に山裾の清左衛門家と裏山の岩盤を掘った水を利用していたと思われる自然のままの台所、更に笠森に通じる古道との関連、また48戸の奥野集落に「清」の名のつく200年前からの人名や、墓石を探し求めたりしていたが、「ことによると、医者殿の家かもしれない」という近所で土地生まれの婦人の言をきっかけに、このほど前記内容をほぼ納得出来る

としたら私から8代くらの先祖に、清左衛門さんがいる事になる。」という。



京都市三条大橋たもとの高山彦九郎の像

昨秋、彦九郎の生地、群馬県太田市の「彦九郎研究会」(明治維新の先導者・高山彦九郎の著者でもある正田喜久会長)がバスツアーで房総を訪れた際、最初の訪問地の袖ヶ浦市飯富神社で、神主の旧宅に遺る彦九郎の行水の井戸や、神主の墓所などを案内して今後、新たな両市の歴史と文化の交流に役立たせることにした。

関谷家に到達したものである。

当主の虎雄氏によると「かつて群馬県出身の知人から『郷土の偉人が君の住む市原の奥野に一泊している』という話は聞いていたが、まさか昔の我が家が彦九郎さんの日記そっくりとは思いませんでした。もしそうだと



平成二十年

四月 六日



◎市原市池和田光明寺おとづれの会十周年記念講演会  
「ふるさと池和田」を中心としたふるさとの歴史について鶴舞藩家老伏谷如水の墓所や維新における清水次郎長との親交、内田の奥野に一泊した高山彦九郎、光明寺本堂の山号「音信山」の書と山岡鉄舟、この額を掲げたと思われる現住職「堯周氏の曾祖父第五十九世堯祐大和尚と鉄舟の接点の時期と思われることなどが話題であった。」

四月 十二日

◎青葉大学 市原市青葉台自治会館内)の講演会で南市原の歴史」、高山彦九郎の足跡、について塚原事務局長が講演。

五月 二十七日



大山不動

◎市原市立加茂公民館生涯学習講座「伊八彫刻と歴史物語」で彫工系図上の武志家、武志家屋敷跡と歴代墓所、市原市内における初代伊八の彫刻作品、市内平蔵の鎌滝家の彫刻等を塚原事務局長が講演。

◎六月二十四日、前記伊八作品を追って「バス研修」が参加五十名。九時十分加茂公民館出発、鴨川みなみの里、大山不動、大山千枚田、金乗院、伊八生誕の地、ふれあいパークきみつ、市内平蔵鎌滝家を見学。案内は塚原事務局長

七月 十七日

◎内藤昇氏逝く 鶴舞藩を知る会初代会長)

浪曲師 春日井梅鶯父娘二代の千葉県地元後援会々長や鶴舞循環器病センター誘致、又、富津海岸において潮干狩り中、最高責任者として全児童に監視の眼を配っていたが、突然禁止区域に飛び出した一児童を発見、溺れかかった児童を救うべく、身の危険を顧みず海中に飛び込み救助に努め殉職された大岩幸男菊間小学校長の葬儀委員長を果たし、鶴舞藩主井上公や家老伏谷如水の功績顕彰など市原市社会教育委員として地元鶴舞の発展に尽されたが惜しまれて八十七歳の生涯を閉じ能満霊園に眠る。



内藤昇氏



能満霊園墓所





平成二十年

九月十一日

◎市原市立牛久小學校六年生「ふるさとの歴史講話」  
主催は法人上総更級会 常泉健（理事長）で講師は塚原同常任  
理事。テーマは「西国吉の医光寺物語」であった。

十一月十八日

◎市原市立白金小學校で上総更級会による出前講座を行う。  
テーマは「市原の殿様」で講師は塚原更級会常任理事であった。

平成二十一年

二月二十六日

◎市原市立加茂公民館主催 生涯学習講座の一環事業で写経  
奉納の鶴岡志津子先生と併行してバス研修 納経と文学碑めぐ  
り」でいすみ市下布施の長福寺、大原の八幡岬、日在浦海岸公園  
を加茂公民館からは清田美昭副館長と松本明子 社会教育指導  
員が同行され、案内は塚原事務局長が務めた。

三月十五日

◎石川倉次生誕百五十年記念講演会 市原市南総公民館  
日本点字の父 石川倉次」講師は塚原事務局長

四月 一日

◎市原ロータリークラブ 藤谷泰弘会長）主催による講演会で  
鶴舞が生んだ日本点字の父 石川倉次」について五井グランドホ  
テルで講師 塚原事務局長が川島智氏から紹介された。

六月 四日

◎市原市立加茂公民館主催の生涯学習講座 伊八彫刻とふるさと  
と歴史物語」で鴨川市の薬王院、鏡忍寺、郷土資料館、吉保八幡  
神社を巡るバス研修の旅で公民館からは小野健治職員と松本明  
子社会教育指導員が同行され、案内を塚原事務局長が務めた。

八月十六日

◎千葉県立市原高等学校同窓会 鈴木良知会長）の総会の席上  
でテーマ  
石川倉次生誕百五十年記念講話」で塚原事務局長が講話

十月 二日

◎社団法人千葉県視覚障害者福祉協会 会長小林英樹）主催  
による第十七回白杖の文化祭」において 石川倉次生誕百五十  
周年記念講演会」会場 千葉市民会館ホールにおいて鶴舞藩を  
知る会事務局長 塚原茂が講師を務めた。

会場は全盲者と付添いの健常者で合計三百五十名で満員。  
市原市水と彫刻の丘 新保育夫所長）に展示中の石川倉次像二  
体を拝借、会場に福祉機器と共に展示、閉会後の帰り際に一人ひ  
とりから感動の握手攻めに会い、忘れ得ぬ日となる。



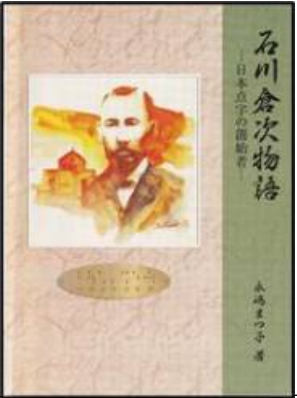
千葉市民会館

十月二十五日

◎石川倉次生誕百五十年記念講演会」を市原市立五井公  
民館で開く。  
主催は石川倉次を知る会」で後援は市原市教育委員会。この席  
上で塚原事務局長は石川倉次生前の声で、点字の生まれる迄の  
苦労話しの録音されていたものを紹介した。



平成二十一年  
十一月一日



◎「石川倉次物語」永嶋まつ子先生により刊行。

目の見えない人も、今では本を読むことができる。それは、明治二十三年十一月一日に石川倉次が縦三点、横二列の六点点字配列表を発表してそれが日本点字として採用されたからであり後に、この日が点字記念日となった。この点字は倉次が目の見えない子供達が自分で本が読めるようにしたいという強い思いで作りに出したものであり、浜松から父の仕える藩主井上正直公の国替のため、長南の小沢村鈴木家に一家で辿り着いた倉次。著者の永嶋先生も長南に住んでいたことで、ふるさとの偉人石川倉次を子供達に知ってほしいとの願いでできあがったものである。

残念なことに出版の二年後、平成二十三年十一月二日、満六十三歳で生涯を閉じられた。

翌年、三月十九日から二十六日まで、長南町中央公民館で故人の作品 水彩画展「その時輝いて」が展示され、多くの人が永嶋まつ子さんを偲んだ。



取材先での  
永嶋先生と塚原



塚原家にて



長南町小沢・鈴木家にて



永嶋家にて

平成二十二年

二月二十四日

◎市原市立加茂公民館 館長 永井紀生（生涯学習講座の一環 納経と文化財めぐり）のバス研修で富津市大悲山仏母寺に納経後、鹿野山神野寺文化財見学、きみつ味楽園おびつ店経由で鶴岡志津子先生、松本明子社会教育指導員と一緒に塚原事務局長も同行した。

十月十四日

◎自衛官募集相談員連絡協議会一行十八名を『江像』所蔵で一躍郷土の誇りともなった医光寺を塚原事務局長は案内した。

十月十五日

◎千葉県立鶴舞桜が丘高等学校 校長 小高雅彦（で学校創立記念行事として 鶴舞藩と石川倉次先生」の講演会で塚原事務局長は講師を務めた。



平成二十二年

十一月十三日

◎ 大多喜町立大多喜図書館天賞文庫研修室においての演題を  
鶴舞藩と石川倉次」で大多喜町文化財保護協会々長 和泉貞  
夫氏より依頼され、塚原事務局長が講演した。

十一月二二日

◎ 伏谷如水伝」が刊行された。

発行者 高石鶴子 如水五代)

著者は清水の次郎長翁を知る会」の会長補佐 由口英爾氏。



伏谷如水像と伏谷屋敷



田口英爾氏

## 伏谷如水伝

私が伏谷如水を知ったのは、次郎長を通じてである。次郎長が渡世人から正業につくようになったのは、明治維新、如水の抜擢によることは意外に世に知られていない。本書が少しでも、その事実を知って頂く上でお役に立てば幸いである。

本書の執筆を通じて、数多くの方がたにお世話になった。高石さんはじめ鶴舞藩を知る会の方がた、とくに塚原茂さんには、数多くの資料の提供ばかりでなく、遠距離の取材に同乗させて頂くなど一方ならないお世話になった。御多忙の一日をさいて、屋形町周辺を教えて下さった花森憲一さん、さらにSBS学園浜松教室の伊藤哲示さん、渡辺昌男さんはじめ皆さんに感謝の意を表したい。

(田口英爾)

「伏谷如水伝」発行打合せ中の高石鶴子さんと田口英爾氏 塚原家にて





平成二十二年

十一月二十八日



「江～姫たちの戦国」の予告編の催し。 南総公民館にて

◎大河ドラマ第五十作 江～姫たちの戦国」が平成二十三年一月から放送されるのに先立ち、その予告編が南総公民館で行われた。多くの参加者がスライドに映る地元の名刹 西国吉の医光寺に「江」と伝わる木像との関係に目をこらした。企画し参観した佐久間市長から、講師を務めた塚原に大きな 大河ドラマの宣伝ポスターが渡され盛会裏に終わった。

【大衆】 平成6年(1994年)4月28日

## 豊山派医光寺に伝来の木像は 徳川秀忠の正室「崇源院」

### 浅井家の血を引く三好家の菩提寺

真言宗豊山派医光寺(市原)など話題になっている。崇源院では一昨年、浅井りが極めて深かったことが想雄冠住職、千葉市原市西国 源院」は、戦国時代の文名で、長政ら浅井家累代と、その後、像される。吉に、「三好院」(徳川三代 織田信長に滅ぼされた浅井長政の旗本・三好家累代の合号、浅井家の血統は、長政と、將軍家光の夫人「綱吉の母」政の三女・小倉(おきさ)に位牌が発見されている。さら、と伝わる木像が、実は「崇源院」で、徳子であり、二代將軍秀忠の、この度、「崇源院」の木像、両親とする崇々(豊臣秀吉の院)であったことが分り、正室(三代將軍家光の母)と判明したことで、同寺浅側室淀君、京極家に嫁した井一族(三好家)とのつながり、初、徳川秀忠の正室・徳子によって受け継がれ、徳子の家系は徳川將軍家を継ぐ。浅井家は、お家断絶と化した、浅井の血をひく徳川幕府家系が、浅井の流れを汲む三好家と、その折願寺である医光寺に、隣で格段の配慮を、いたことが窺われ、歴史家たちの注目を集めている。

「崇源院」の木像は全国でこれまで全く不明であった。

柔和な顔つきの尼僧姿をした崇源院木像

平成二十三年

二月二二日



◎市原市立加茂公民館生涯学習講座の一環で「ふるさと歴史物語」医光寺と江浅井家との縁」を塚原事務局長が講演した。

続いてバス研修が三月九日に行われ、西国吉のあくなしわらびの里」から医光寺見学後、あずの里で昼食。午後、栢橋の嘗ての代官屋敷といわれる内藤家と桐谷家の墓所を廻り帰路につく。

◎市原市馬立の戸田コミュニティセンター自主事業 歴史講座で「医光寺物語」を開催。多くの参加者を前に塚原事務局長が講師を務めた。

五月 十五日

五月二十七日

◎市原市立南総公民館生涯学習講座の一環 南総寺子屋」で「お江」と鶴舞藩」の歴史探索でバス研修が行われた。茂原市藻原寺の井上正直公の姫の墓所、井上公の仮宿だった長南の今関家、郷土資料館、笠森観音を廻り鶴舞公民館で昼食。午後、伏谷如水の墓参後、西国吉の医光寺を塚原事務局長が案内した。



六月 四日



◎千葉県漢詩連盟事務局菅原満氏(第八回吟行会の一行二十一名を市原市西国吉の医光寺(塚原事務局長が案内。西国吉の迎賓館で昼食後、笠森観音を訪れた一行は帰りに塚原宅(寄り木戸庵で一服後、上総牛久駅で解散した。

七月 一日 ◎市原市立五井公民館主催事業 五井楽学塾で学ぶ楽しさ、再発見」の狙いで「江と市原」のテーマで塚原事務局長が講演。

九月十六日 ◎市原市立牛久小中学校 校長(弓下雅章)から上総更級会の出前講座の依頼で同校体育館において「市原の歴史と石川倉次」について塚原事務局長が講話。

九月十七日 ◎大多喜町文化財保護協会 会長 和泉貞夫(会員二十一名)の依頼で鶴舞藩の史跡案内。伏谷如水屋敷地と墓所、その後、西国吉の医光寺(向かい「お江」にまつわる旗本 三好政盛公の墓石等を塚原事務局長が案内。

十月 六日 ◎市原市三和コミュニティセンター運営委員会より上総更級会の出前講座への依頼で 歴史散歩「江姫を学ぶ」と題して栢橋の代官屋敷だつたといわれる桐谷家や内藤家、御霊神社を廻り、皆吉の妙蔵寺墓地にある天野家の墓石を見学。頼朝に仕えた天野遠景の名が墓誌にあり(塚原事務局長が案内。



天野家墓所 皆吉・妙蔵寺

頼朝に仕えた天野遠景  
静岡県いずの国市天野の東昌寺と牛久天野家墓誌

正六位上民部大丞鎮西守護承元二年七月十五日寂  
東昌寺殿入道蓮景□遠景 初代俗名 天野遠景

見学に訪れた一行は市原市数八日講中の大井太一、大岩隆、大井誠治、平野孝夫、石塚保と塚原茂



### 東昌寺と天野遠景

本寺は天明山東昌寺と称し、浄土宗に属している。本寺に現存している「薬師如来縁由記」によると、はじめは、こより三〇〇メートル南方にある「薬師の段」と呼ばれる高台に、天野遠景が建立した薬師堂であり、真言宗であった。密家の僧智源法師を迎え、遠景が崇拝した薬師腹籠を安置したものであった。その後、慶長二年(一五九七)、僧信誓が薬師の段から現在地に薬師像を移し、遠景の娘萩野氏が念じていた行基作の阿弥陀如来を本尊として、建立されたのが本寺である。現在、本寺には遠景、子の政景、弟の光家の位牌と共に遠景自身が彫刻した毘沙門天像や馬の像が現存している。

薬師の段には、遠景・政景・光家の墓が今も並んでいる。遠景は、治承四年(一一八〇)、源頼朝が荏山で華兵した当初より頼朝に仕え、数々の功をたてた武将である。西国での平家討伐の際、遠景は流れ矢を受け、傷に苦しんだ。このとき、現れた真僧より聖徳太子の作といわれる薬師腹籠の像を贈られた。遠景は、この像を身辺よりはずさず、当地に持ち帰り、薬師堂に安置した。これが、先に述べた薬師堂の本尊である。

市教育委員会



薬師の段には、遠景・政景・光家の墓





平成二十三年

十月 三十日

◎市原市青葉台の「青葉大学」学長植田紳治より大河ドラマ「江ゆかりの寺 医光寺物語」の講演依頼により塚原事務局長が講演。

114

十一月十二日

◎市原市立若宮小学校体育館で地元自主防災会 菅家啓一（会長）主催による歴史講座「お江と市原について」塚原事務局長が講演。

十一月十三日

◎長柄町歴史同好会 会長山崎啓爾の依頼で「医光寺物語」を長柄町公民館で塚原事務局長が講演。

十一月十六日

◎市原市立加茂公民館主催事業の「ふるさと歴史物語」で鶴舞藩の歴史と人物」を塚原事務局長が講演。

十一月三十日にバス研修で鶴舞藩の史跡を巡り、長南町の今関邸の見学後、茂原市の藻原寺で井上公の姫たちの墓所を塚原事務局長が案内。

十二月 三日

◎市原市立中央図書館 館長畑島信雄の依頼で石川倉次の生涯」について塚原事務局長が講演。



石川倉次 六点への想い



め

点字を目の不自由な人の目にしたい



市原市立中央図書館

平成二十四年

二月十二日

◎市原市海保の森厳寺 涅槃会のついでに小林將氏が森厳寺の歴史」を、続いて塚原事務局長が「お江と市原と森厳寺」と題し講演した。



平成二十四年

二月十七日



内藤家

◎市原市立有秋公民館主催事業の郷土史講座の依頼で「医光寺物語」を塚原事務局長が講演。バス研修は三月二日で皆吉の妙蔵寺から西国吉の医光寺を廻り、安須の里で昼食後、栢橋の代官屋敷といわれた桐谷、内藤家を塚原事務局長が案内。



三月一日

◎市原市立加茂公民館主催「納経と文学碑めぐり」でバス研修。

朝九時、公民館出発、いすみ市下布施の長福寺で納経後、文化財見学。御宿そば処「竹むら」で昼食。午後、月の沙漠記念館、メキシコ記念塔、大原野原共同墓地の岸壁の母」作曲家平川浪竜の墓石と歌碑の見学。日在海岸で山本有三、森鷗外、林芙美子、矢代東村の文学碑の見学後、たけゆらの里おおたき経由を鶴岡志津子先生と塚原事務局長で案内した。



加藤まさをとラクダ像



平成二十四年

六月十五日

◎市原市立南総公民館「飯塚光司館長」主催事業「南総寺子屋」でテーマ「南総里見八犬伝」を塚原事務局長が講演。その現地バス研修が七月二十日、参加者三十名で九時五分に公民館出発。館山城見学後、おさかな市場で昼食。伏せ姫籠穴、犬掛古戦場、富楽里とみやまから館山道で帰路につく。



六月二十五日

◎市原市立鶴舞公民館で同交友会主催「医光寺と浅井長政」のテーマで塚原事務局長が講演。



平成二十四年  
九月二十九日

◎ 本多忠勝 忠朝」サミット、大多喜町役場で開催。

来賓には在日メキシコ大使館、千葉県商工労働部、夷隅地域振興事務所、御宿町議会、大多喜町議会、県外からは桑名市、村上市、刈谷市、長野市、上田市、沼田市、又県内自治体から茂原市、勝浦市、市原市、いすみ市、一宮市、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町、御宿町、大多喜町等で参加、傍聴、従事者等総数は百一人と盛大なサミットのスタートであった。  
写真中の右前方でパソコンの映像投影しているのは市原市の鶴舞藩を知る会」事務局長の塚原茂で、君塚善利実行委員長とサミット用にスライドを作成したものであった。



大河ドラマ誘致活動



平成二十四年

十月十八日

◎市原市立内田小学校 校長布施博明（体育館において）  
私たちの郷土愛精神の育成目的の講演会「内田の歴史」でふるさとの古い地図や史跡、又豊かな自然と歴史を塚原事務局長が講演。

11



安久谷の昔



内田未来楽校

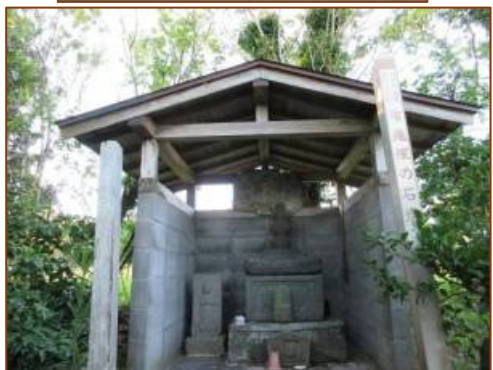
十一月十六日

◎市原市立加茂公民館 館長岩淵 匡（生涯学習講座の一環で「ふるさと歴史物語」の南総里見八犬伝」を塚原事務局長が講演。この現地バス研修を十一月三十日に行い、市内田淵の琵琶首伝説地、富山の伏姫籠穴や大掛の「八房伝説と狸像」等の巡りを職員の安藤房江、小関照代さん同伴で塚原事務局長が案内した。

平成二十五年

一月十六日

◎市原市立加茂公民館 館長岩淵 匡（主催 納経と史跡見学会で池和田の光明寺で納経後、法話を聞き、いすみの尾骨神社を見学、車中で広常供養塔、小兒守観世音菩薩、頼朝の箸杉」を塚原事務局長が案内。鴨川の藤よし」で昼食。午後、かもがわ花の駅」での花摘み後、帰路につく。



伝・上総介広常供養塔

一月二十日

◎市原市立中央図書館 館長羽石恵子（の歴史講座」の依頼で南総里見八犬伝と市原」について塚原事務局長が講演した。

二月 四日

◎市原市市民会館で市原市社会福祉協議会主催による各支部及び各小域福祉ネットワークの合同研修会の席上で安心生活見守り支援」について小池茂夫牛久小学校区小域福祉ネットワーク会長が講演。スライドの作成を塚原事務局長が担当。



平成二十五年

三月三十日

◎市原市立南総公民館主催による歴史講座の一環で郷土史の  
大多喜と本多忠勝「巡りのバス研修で大多喜城分館、大多喜町  
小土呂の民宿「中野屋」で昼食、大多喜観光本陣、城下散策の案  
内を塚原事務局長が案内。

四月一日

◎市原市鶴舞循環器病センターの氏原事務長の依頼で病院受付  
ロビー二階ギャラリーで「伏谷如水と石川倉次展」を開き、鶴舞藩  
の資料や清水と鶴舞の交流、石川倉次に関係の写真等を四月末  
日までの一ヶ月間、塚原事務局長所蔵の資料を展示した。





平成二十五年

講演会別記録・講師塚原

|            |                        |              |
|------------|------------------------|--------------|
| 五月十七日      | ◎市原市立南総公民館             | 内田の歴史        |
| 六月 九日      | ◎市原市立加茂公民館             | 内田の歴史        |
| 六月二十日      | ◎市原市教育会館               | 市原の歴史        |
| 八月二五日      | ◎県立市原高等学校              | 日高誠実と梅ヶ瀬     |
| 七月十七日      | ◎月崎老人福祉センター            | 日高誠実と梅ヶ瀬     |
| 十一月 八日     | ◎市原市立加茂公民館             | 子規と大多喜街道     |
| 十一月十四日     | ◎市原市立南総公民館             | 日高誠実と梅ヶ瀬     |
| 十一月二二日     | ◎市原市立加茂公民館             | 大多喜 バス研修     |
| 十二月 一日     | ◎市原市立加茂公民館納経と史跡見学 久留里城 |              |
| 十二月 十日     | ◎市原市立海上小学校             | 市原市の校歌と海上小校歌 |
| 平成二十六年四月八日 | ◎市原市海保 森巖寺             | 正岡子規と市原      |
| 五月 八日      | ◎市原市立南総公民館             | 正岡子規の房総旅行    |

五月二四日 ◎鋸南町の鋸山日本寺に漱石子規碑除幕 塚原事務局長参加

## 漱石子規文学碑除幕式

鋸南 日本寺にファンら100人

若き夏目漱石と正岡子規が相前後して訪れた鋸南町の鋸山に24日、2人を顕彰する文学碑が建てられた。除幕式が行われた山中の曹洞宗日本寺(藤井元超住職)の境内には、漱石・子規のファンや関係者ら約100人が詰めかけた。

漱石は1889年8月、東京から船で山の麓の保田港に着き、10日間ほど滞在。その後房州を巡り、漢文紀行「木屑録」を著した。触発された子規は91年春、漱石とは逆に房総半島を北から歩いて保田に着き、船で



除幕式の塚原事務局長



東京に帰った。旅の様子は漢詩紀行「かくれみの」にまとめられた。文学碑を建てたのは、元同町観光協会長の高橋喜安さん(70)らでつくる「漱石・子規 房州鋸山顕彰会」。碑は台座を含め幅3メートル、高さ2メートル。前面右に漱石、左に子規のレリーフがはめ込まれている。文学碑は、日本寺の先代住職が思い立ち、千葉市の彫刻家の堀豊之さん(83)に依頼し、1988年には漱石と子規の青銅製レリーフが完成。先代の死去で計画はいったん立ち消えになったが、顕彰会が働きかけ日本寺も快諾した。除幕式で堀さんは「26年ぶりに自分の作品に对面でき、感激している。実現したことは大変うれしい」と話していた。



千葉大教育学部同窓会市原支部総会(市原市教育会館にて)



平成二十六年

七月二十七日

◎袖ヶ浦市立平川公民館 鶴舞藩の歴史講師 塚原事務局長

八月 十日

◎市原市つるまい農園 ふるさとの宝探し 々

八月二十四日

◎市原市立南総公民館 百人一首の世界 々

九月十二日

◎県立市原高等学校 葉山修平文学碑 々

九月二十五日

永峰高を偲ぶ会」会場・塚原事務局長宅

君、二十八歳にして花の生涯を閉ず。我ら市高同級生ここに集う。



故・永峰 高



嗚呼時に有為二十八歳花の生涯を閉ず。即日三等空佐に昇進。

墓 高 峰 永 三等空佐 六位 從 故 六 等 勲

君、昭和十一年八月廿一日、南総町岩二二六永峰武雄全なをゑの二男に生まる。長兄明妹秀子（早世）弟晴巳廣妹延子、文子七人兄弟なり。性勤勉実直にして質実剛健を好む。廿年三月県立市原高校を抜群の成績を以て卒業。全年四月、防衛大学第三期生として入校、成績優秀、同僚の信望篤く生徒隊副隊長、隊長を歴任し隊の進展に貢献す。廿四年三月全校卒業。航空自衛隊幹部候補生学校を始め各種航空課程を修業、廿五年三等空尉、廿七年二等空尉、四十年一等空尉に昇進す。此の間、総飛行時間一、二四四時間二〇分、ジェット戦闘機一、〇五八時間五〇分ナリ。廿六年十一月より埼玉県第七航空団、廿九年五月より浜松第一航空団勤務、全団第二飛行隊操縦教官を拝命す。偶々北九州芦屋方面に於ける海難救助演習に参加、昭和四十年八月十二日雲低き悪天候下ヘリコプターに搭乗し、海面三米上方より怒濤万波の海面に飛込の際不運殉職す。嗚呼、時に有為二十八歳花の生涯を閉ず。即日三等空佐に昇進。從六位勲六等瑞宝章拝受。遺族は昭和廿八年婚姻せる妻浩美茅ヶ崎市小和田四六三〇、浅田豊水全昭子夫妻長女）及び長男真一あり。空に馳せし鵬魂、茲青山に眠る。君が才を惜しみ痛限りなく聊か事を録し以て墓誌とす。 法号 至心院義山道高居士





|        |             |             |
|--------|-------------|-------------|
| 平成二十六年 |             |             |
| 十一月十四日 | 市原市立加茂公民館   | 日高誠實と梅ヶ瀬    |
| 平成二十七年 |             |             |
| 十一月二七日 | 市原市立加茂公民館   | 小湊誕生寺(バス研修) |
| 二月十五日  | 市原市海保森巖寺    | 二十四孝物語      |
| 平成二十八年 |             |             |
| 二月十五日  | 市原市海保森巖寺    | 二十四孝物語      |
| 二月二五日  | 市原市養老溪谷・鶴の家 | 伏谷如水と清水次郎長  |
| 四月九日   | 市原市立南総公民館   | 月の沙漠物語      |
| 五月九日   | 市原市宿未来学校    | ふるさと内田の歴史   |
| 十月十七日  | 市原市五井サンプラザ  | 伏谷如水と清水次郎長  |
| 十月二九日  | 市原市鶴舞ホーブラザ  | 常泉健一叙勲祝賀会   |
| 十一月四日  | 市原市立南総公民館   | 二十四孝物語      |
| 十一月八日  | 市原市立加茂公民館   | 二十四孝物語      |
| 十一月二二日 | 袖ヶ浦市平川公民館   | 二十四孝物語      |
| 十一月二四日 | 市原市立加茂公民館   | 二十四孝彫刻バス研修  |
| 十二月八日  | 市原市立南総公民館   | 成田山彫刻バス研修   |
| 二月十四日  | 市原市海保森巖寺    | 百人一首の世界     |

講演会別記録・講師塚原(会場と演題のみ記載)



成田山・釈迦堂彫刻「二十四孝」バス研修

南総公民館主催事業「生き生き大学」講師・塚原茂 平成27年11月8日







平成二十八年

二月二二日

◎長柄町皿木の神崎家にて 子規を偲ぶ会」が開かれた。

俳人正岡子規が房総半島を旅した際、宿泊したとされる宿屋「大黒屋」の当主の子孫に当たる長柄町皿木の神崎久夫さん（八十八歳）が嘗て宿だった自宅の庭に、子規が宿泊した事を示す記念碑を建てたことにちなんで、関係者や地元の人達で寄った会であった。

塚原事務局長の作成した「子規房総の旅」をスライド上映し子規を偲んだ。

子規は大黒屋の夕飯は「飯がやわらかで、野菜の煮付けのおかげで特に美味かった。生まれて初めて背黒鰯のような刺身で、四杯もおかわりをした。うまいこと、うまいこと。それにつけても木の枕が硬いのは参った」…と、この日の日記に記している。

この席で蓑笠を勝間の茂手木洋氏が、塚原からは子規の等身大の旅姿の写真（これは子規が旅の途次、千葉町の豊田写真館で撮ったものを拡大したもの）を神崎家に寄贈時の写真で左より佐野彪、塚原茂、神崎久夫、秋葉平、茂手木洋。



木の枕





平成二十八年

五月十四日

◎市原市勝間 茂手木家に春日井梅鶯二代目

市原市原田の出身で浪曲界の横綱に昇進した春日井梅鶯の娘の二代目梅鶯 加寿子(がすこ)が第一線から身を引き、一人静かに鶴舞に暮らしていたが、浪曲好きの茂手木洋との出会いで前例の少ない勝間に何と舞台衣装と変わらぬ姿で車から庭に降りた。

この日のために茂手木は友人の塚原と初代梅鶯の生い立ちから修業時代、更に梅鶯の名を全国に轟かせた「赤城の子守歌」に至るまでの貴重な場面を編集しスライドに映して二代目梅鶯や参加者に見せた。

感動した梅鶯は自身の芸道六十年一筋の苦労話などを交え、消えかけた浪曲への夢が再び咲き返ったようで座敷一杯の参加者に時のたつを忘れさせる程であった。





梅鶯人気は変わらず、次の会場へ

平成二十八年

六月 十日 ◎市原市八幡・濱本町民館 春日井梅鶯父娘舟唄

七月 七日 ◎市原市立南総公民館 春日井梅鶯（二代目）と梅光

八月 二七日 ◎袖ヶ浦市立平川公民館

春日井梅鶯父娘舟唄

講演 塚原 茂



八幡濱本町民館



袖ヶ浦市平川公民館



南総公民館



平成二十八年  
九月二五日



梅鶯を迎えた小出市原市長と塚原（南総公民館二階にて）



◎市原市立南総公民館 牛久地区敬老会  
「春日井梅鶯 父娘舟唄」

と題して塚原事務局長が作成したスライドの上映で懐かしの梅鶯節を紹介後、二代目梅鶯が登場し、六十年にわたる芸道一筋」での苦労話を交えながらの挨拶に梅鶯全盛時代の往時を懐かしく思いたした敬老会の一コマである。





平成二十八年

十月二六日

◎市原市立南総公民館

日高誠実と梅ヶ瀬

十月二九日

◎市原市立南総公民館

南総市民文化祭

会場には「世界の深沢」といわれた深沢幸雄氏の銅版画と並んで市内金沢在住の日本画家 友禅模様画家（森田裕八さんの絵が展示され、森田裕八「ふるさと展」塚原事務局長作成）のスライド解説で友禅模様の世界を覗く一端を紹介した。





平成二十八年  
十一月十一日

◎市原市立加茂公民館 春日井梅鶯父娘舟唄  
塚原事務局長のスライド解説と講演会で二代梅鶯が挨拶



梅鶯は晩年、胃潰瘍の手術を受け、その後、腸閉塞を患い、県立鶴舞病院へ再入院。それから間もなくして心筋梗塞を起こし、昭和49年10月22日逝去。享年69歳 最後の出演は、NHKにおける「南部坂雪の別れ」、これが梅鶯の、この世における別れの口演となった。



平成二十八年

十一月二十日



終わらざる時の証に  
葉山修平



平成二十九年

二月十一日

◎「葉山修平とお別れ会」に市原高校同窓会役員の出席

東京神楽坂の日本出版クラブ三階鳳凰の間で多くの関係者やファンで開かれた。地元から田邊校長はじめ鈴木良知同窓会長木村乾行同窓会報編集長、鶴岡富士夫同委員が出席。この席で塚原茂同窓生は母校市高体育館前の「葉山修平文学碑建立三周年記念祝賀会」や「文学と私」のテーマで同体育館での氏の講演をビデオ収録したものを「葉山先生を偲ぶ」と題し会場でスライド上映し、在りし日の郷土の偉大な作家葉山修平を偲んだ。平成二八・二八・二八歿市原市馬立の出身で小説家詩人国文学者でもあり、室生犀星の研究においても造形が深く室生犀星学会を設立、会長を務めた。八十六歳



日本出版クラブ

◎「歴史の中の里山とローカル鉄道」

コーディネーターが北原理雄氏で、パネリストとして松本靖彦氏、石川晋平氏、鶴岡清次氏、それに塚原事務局長が招かれた。テーマは小湊鐵道沿線には豊かな里山と歴史が残っている。これを生かした「景観まちづくり」活動の共有についてのディスカッションが内田小学校体育館で開催された。



内田小学校体育館



# 男梅鶯

桜吹雪の見事さよ



ここは名代の鶴舞は

井上正直治めたる

六万石の城下町

城代家老は伏谷の如水

海道一の暴れ者

清水次郎長も手足に使い

維新の御代を治めた男

点字の神様石川倉次

東京五輪を誘致して

見事に咲かせた五ツ花

これぞ高石真五郎

偉人賢人かずかずあれど

忘れちゃならぬ人がいる

原田生まれで鶴舞育ち

浪花節なら日本一で

赤城の山の子守唄

日本国中津々浦々に

美声を残すその人こそは

その名は 春日井…梅鶯なり



口演 春日井梅光  
台本 茂手木 洋  
平成二十八年十一月二十七日  
市原市原田 本傳寺客殿にて  
構成 塚原 茂

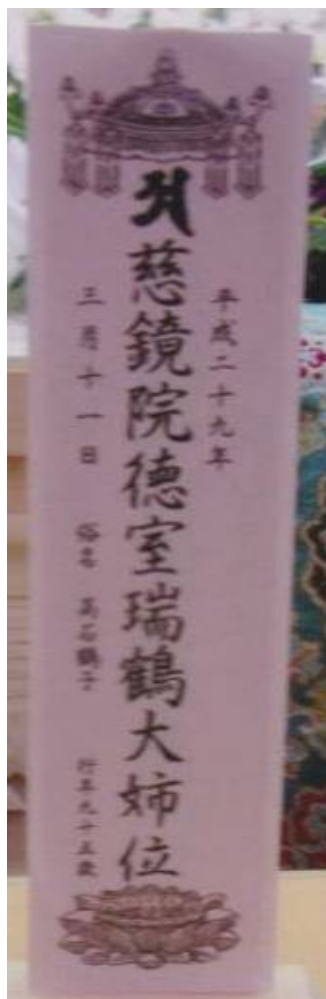


平成二十九年

三月十一日 ©伏谷如水五代目

高石鶴子さん

旅立つ九十五歳



人生到る処に青山あり

幕末動乱の世を確かな朝へと生きた如水霊を守り、明けた次代に送り出した鶴子女は今、婚家先上高根小勝山、宝寿院上方の高石家墓地に眠る。







小柳 常吉

嘉永七年 一月十六日  
(安政元 一八五四)

◎ペリー提督は今度は七隻の艦隊を率いて、予告どおり条約締結のため、江戸湾に来航。その露骨な軍事的圧力に屈した幕府は、三月三日には日米和親条約を締結。下田と函館二港の開港、薪水、食料石炭等の供給の設定がされた。黒船襲来による日本の危機に「相撲会所」が協力。幕府から米三百俵、鶏三百羽の贈り物をしたときの船積み作業で発揮し、又、応接所で行われた相撲の技披露の席上では、飛び入り参加したボクシング経験者一人、レスリング経験者二人の計三人のアメリカ水兵と相撲をとって投げ飛ばし、ヤンヤの喝采を浴び江戸市民の溜飲を下げた力士は現市原市上高根出身の大関・小柳常吉である。

鶴舞藩家老伏谷如水五代目・高石鶴子と  
幕末の大関・小柳常吉の墓碑 高石家墓地



平成二十九年

四月 十四日



◎浪曲師春日井梅鶯の名付け親でもある浪曲師春日井梅吉の墓は当初房州那古船形寺にあったが、その後、故郷の多古町に移転し、大門地区にある。墓参の一行は原田の木村乾行、勝間の茂手木洋、それに塚原で横芝光町の加藤順一氏が道案内で加わった。

浪曲文化は現代やや、下火になったとはいえ、依然として根強い人気が高齢者をはじめ若者にもある。希にみる天狗 安藤金作に春日井を継がせてくれた恩人の墓前で、浪曲好きな茂手木は梅鶯の出世作「赤城の子守歌」を一席唸り、本傳寺木村住職は読経し梅吉翁の冥福をいのり、加藤氏は夫人の持たせた一本の水仙を活け帰路についた。

## 春日井梅鶯の 名付け親 春日井梅吉



平成二十九年

五月二十六日



◎明治時代に市原市の梅ヶ瀬溪谷を開拓するとともに私塾「梅瀬書堂」を開設し、地域の発展に尽力した日高誠実の生涯を纏めた評伝「房総の仙客 日高誠実」が刊行された。



塚原茂 水仙 加藤順一 木村乾行 茂手木洋

執筆したのは、君津市文化財審議会委員の渡邊茂男さんである。この中で高鍋藩主種任を父に持つ秋月種樹が明治二十五年七月、梅ヶ瀬仙境を訪問した。その時に随行した日高誠実と夷隅郡西畑の名門 齊藤家に一泊せられたとあり、後日、塚原はその屋号を「萬衛門」と呼ばれる齊藤家を訪問。秋月種樹公に対し、日高誠実がその一部始終にわたり、一挙一動ごとく礼儀を尽して応対した奥の間などを拝見した。その折り、日高の書とみられる襖四枚と屏風に描かれていた「二十四孝図」が目にとまり、その深窓さを改めて感じた。





平成二十九年

九月七日

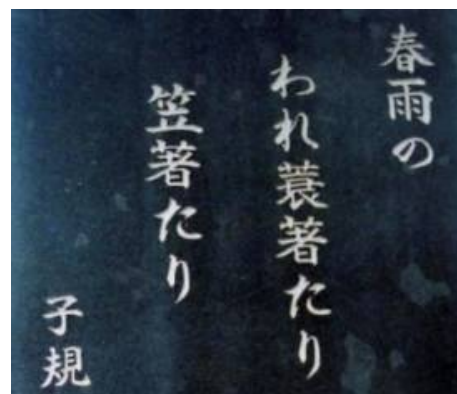
◎市原市立南総公民館

子規房総の旅

生き活き大学

講演会

講師 鶴舞藩を知る会事務局長 塚原茂





平成二十九年

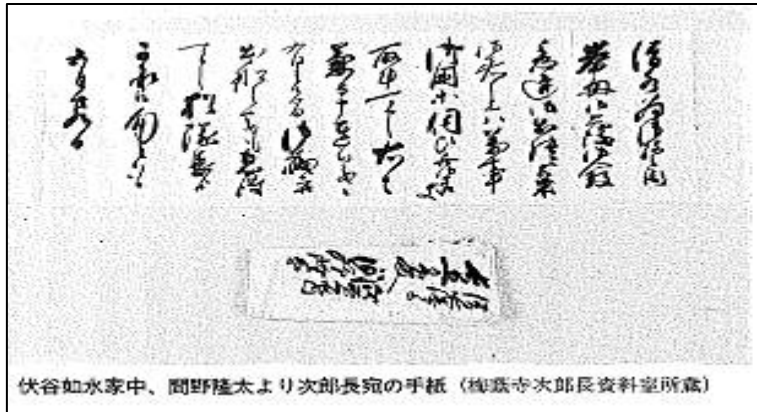
九月十二日



鶴舞藩の歴史と伏谷如水

市原市立八幡公民館

講師 鶴舞藩を知る会事務局長 塚原茂



伏谷如水家中、間野隆太より次郎長宛の手紙（鶴舞寺次郎長資料室所蔵）

井上家 八代 正甫 文化14年（1817） 福島棚倉城に転封  
福島県東白川郡棚倉町 伏谷如水生まれる（文政元年・1818）  
徳川秀忠の命で丹羽長重が築城。寛永2年（1625）～廃藩置県  
246年間に藩主9家18人が入れ替わった。



平成30年（2018）は  
**如水生誕200年**  
市原市立八幡公民館主催事業  
「八幡史学館」





平成29年度加茂公民館主催事業「ふるさと歴史物語」

# 「月の沙漠」物語

日時 平成29年10月20日(金) 9時30～11時30分  
場所 加茂公民館 2階 研修室 講師 塚原 茂



作詞者・加藤まさを



作曲者・佐々木すぐる



内山保少年



「月の沙漠」の唄とラクダ像が南房「御宿」に生まれた



抒情詩人加藤まさをが大正12年、少女倶楽部3月号に発表した「月の沙漠」に出会った作曲家佐々木すぐるは、この詩にメロディをつけました。  
童謡の名曲「月の沙漠」の誕生です。

関東大震災後の疲弊した人々の心の中に、この哀調を帯びた旋律が沁み通ってゆき、大ヒットとなりました。





平成二十九年

十一月十二日

# ◎海保 森巖寺本堂再建 落慶法要

先祖を旧長岡藩士にもち新潟県長岡市の生まれ、都内銀行の支店長を歴任後、地方史の研究」を始めた小林将さんが森巖寺ものがたり」を著した。この日、森巖寺二十七世 由旗孝夫老師のもと、享保六年から平成二十九年十一月と凡そ三百年の長き時を超えて、本堂が再建 落慶法要」が営まれた。

当 森巖寺ものがたり」序文に檀家総代 川名昭雄氏は徳川幕府は姉崎、海保、島野地区を領地とする姉崎藩を創設し、この地を統治させた」と、そして忠昌公は当時荒廃していた臨濟宗 泉龍寺を修築、曹洞宗の寺として復活させるとともに、父秀康公の位牌所としたと記されている。

落慶法要並びに本尊ご開帳に鎌倉建長寺 蘭溪道隆ゆかりの前建長寺宗務総長 高井正俊老師の招聘に羽村市の宗禅寺まで同行させていただき、又、江戸期、中興開基 松平家二十代松平宗紀氏ご夫妻の「来山」という希にみる森巖寺の快挙に出会えたことは忘れることの出来ないありがたい事であった。



高井正俊老師



松平宗紀様ご夫妻



森巖寺・田旗住職



永平寺・松平忠昌公墓前にて



塚原茂 松平宗紀氏



羽村市・宗禅寺にて





平成三十年

四月

八日

◎市原市海保 森巖寺 森巖寺ものがたり

講師 塚原

五月二十八日

◎市原市立南総公民館

森巖寺ものがたり

々々

七月 十一日

◎佐是の八幡神社改築成る



佐是八幡神社

縁起に拠れば孝謙天皇の御代天平宝字二年（七五八）に勧請され源頼朝通過の折りに戦勝を祈願し、後に鎌倉の社家鶴岡三太夫に神職を命じ、土肥弥太郎等をして社殿を改修し社領を寄進したと伝う。元龜元年（一五七〇）社殿焼失、再建後、慶安三年（一六五〇）再度焼失し古物を失った。天正七年（一五七九）正月、吉田外記在銘の懸仏を所蔵している。元禄十五年（一七〇二）十一月吉日の手水石と文政六年（一八二三）十二月、地頭旗本（小田切土佐守直照寄進の大石鳥居と天明元年（一七八一）造立の石燈籠がある。今度の佐是八幡神社再建趣意書によると天保六年三月に社殿は小田切土佐守等によつて建て替えられた」との記事が残されている。又、奉納絵馬が数点遺されており、神功皇后に抱かれた誉田別命や義経鶴越逆落としの図その他宇治川の先陣争いの図などが保管されている。拜殿上棟日の平成三十年四月一日には多くの氏子等で境内は溢れ、餅投げには親も子も競つて拾いあう賑わいが森に木霊した。



露崎宮司

十月二十一日

◎諏訪神社の歴史と慶安事件」

郷土内田の文化、領主旗本伊丹氏の足跡」の講演会が当地宿、旧内田小学校跡で伊丹氏の陣屋跡でもある内田未来楽校」で河津実行委員長のもとに、内田地区町会長の共催、未来楽校の協力で事務局を本傳寺 木村乾行住職、星野鴻一と定め盛大に開催された。



由比正雪像 菩提樹院 静岡市

講師は市内数々の鶴舞藩を知る会」事務局長塚原茂で前記の標題をスライドに映しながら解説し、講演会二部として「弦供養祈りの芸人 白井勝文師による 憂国の軍学者 由比正雪ものがたり」を三味線を弾きながらの熱演であった。

地元の歴史が埋もれたままでは勿体ない。知ることにより、一層の郷土愛が増す事を願っている」と開催にあたり小出讓治市原市長は挨拶された。



原田の諏訪神社







— 講演会のお知らせ —

## 諏訪神社の歴史と慶安事件

「諏訪神社の歴史と領主・伊丹氏の足跡」

～一弦供養 祈りの芸人 白井勝文氏来たる～

「憂国の軍学者 山比正雪ものがたり」



塚原茂氏



白井勝文師



日時 平成30年10月21日(日)13:00～16:00

会場 市原市宿 内田未来楽校

主催 諏訪神社

共催 内田地区町会長会

協力 内田未来楽校









# 市原高校同窓会報



## 歴史 探訪

### 市原市原田 諏訪神社の歴史と慶安事件

郷土史研究家 塚原 茂 (昭30高)



諏訪神社境内と建物

かし、密告によりこの計画は事前に露見、正雪は一味と共に自決し、計画は頓挫した。



若き日の由比正雪

#### 大名・伊丹康勝

天正三年（一五七五）当時武田勝頼の重臣であった伊丹康直の三男として駿河国清水に生まれた。幼少から家康に仕え、秀忠が將軍となった以降は江戸での勘定頭として幕府の財政政策に関わり、寛永元年（一六二四）には家光に属し、甲府城番を担当し、一万二千石の大名として甲斐の塩山徳美に陣屋を構え出世街道を歩んでいた。

#### 由比正雪の反乱

慶安四年（一六五二）七月、正雪は、幕府の転覆と浪人の救済を掲げて行動を開始し、

#### 伊丹康勝と慶安事件

幕府の要職を歴任していた康勝は幕府から由比正雪反乱鎮圧の命を受け、信濃国諏訪大社に戦勝祈願をした。事件は前述のとおり鎮圧された。康勝は、その功を諏訪大社に報謝する時を待つ間もなく、承応二年（一六五三）六月三日死去、享年七十九歳で江戸愛宕山麓の天徳寺に葬られた。

#### 伊丹陣屋と諏訪神社

父・康勝の死去により承応二年、徳美藩主となった兄の勝長より上総の国に二千六百二十石を分与されて、内田の

領主となったのが伊丹勝重である。この勝重が築いたと思われる陣屋の描かれた絵図が県文書館に「内田郷古地図」として保管されている。

「御陣屋」と記載され、瓦葺きの牆壁に狭間まで書き、土塁の入り口には高札板まで、こと細かに記されている。



古地図に描かれた御陣屋

#### 伊丹勝重の業績

内田の藩主となった勝重は、父・康勝が果たせなかった諏訪大社への報謝を行い、承応三年に分祠、明暦二年（一六五六）に完成したといわれる。貞享元年（一六八四）相母方の姓・岡部を称し山田奉行となり、伊勢神宮の守護や造営・遷宮や鳥羽港の警備などを務め駿河守に叙任されて、元禄九年まで十二年間、伊勢

山田奉行を務めた。

又、伊勢に「林崎文庫」を設立、現在は「神宮文庫」となっているが、蔵書数三十万冊のうち二十八万冊が江戸時代以前の書籍で神宮に関する歴史書・文学書が中心である。

第十一代山田奉行を務めあげた勝重は享保二年（一七一七）八十一歳の生涯を閉じ、相模国大住郡三之宮村の浄業寺に葬られた。（現伊勢原市で廃寺）

#### 諏訪神社と相撲

諏訪大社の主祭神・建御名方神が原田の諏訪神社に祭神として祀られているが、剛勇無双の力持ちだった神に、領主・伊丹勝重が相撲を奉納したことが始まりで、現在は子供相撲がこれを継承している。

#### 諏訪神社の歴史講演会

創建以来三百六十有余年、又維新後の百五十年を迎えた昨年、諏訪神社総代や「NP O 法人報徳の会」、地元町会等で「内田の歴史に光りを」の機運が盛り上がり、「諏訪神社歴史講演会」を開催した併せて、静岡市出身で「一弦供養」「祈りの芸人」を旗印に亡き人々の鎮魂供養を行っている「白井勝文師」を招き、「愛国の軍学者・由比正雪ものがたり」を津軽三味線の名調子に乗せて口演した「諏訪神社創建の背景と言われる慶安事件」を境に、徳川幕府が政策を転換し文治政策へと移したことが、やがては、維新を経て現在の平和な日本に繋がった一つの拠点であると熱演された。



神前で対決する力相撲



津軽三味線で由比正雪を語る白井師



# ◎伏谷如水生誕二百年記念墓参

## 清水の次郎長翁を知る会」一行

市原市からの参加者と清水の次郎長翁を知る会」山田健司会長他十五名で池和田の伏谷如水墓参後、鶴舞公民館で懇親会を催す。地元からは角田町会長、鈴木良知、木村乾行他の参加で塚原事務局長が案内。



### 伝心柱

南いちばら応援団新聞

第293号

発行日 2018年12月9日  
伝心柱編集部  
発行責任者 原地利忠  
市原市牛久555 TEL.50-1107



10月24日  
水、はるばる  
静岡県静岡  
市清水より  
「次郎長翁を  
知る会」の皆

さんが池和田にある伏谷如水の墓参りに訪れ、かねてより交流のある「鶴舞藩を知る会」の皆さんがお出迎えし、緒にお墓に花をたむけ手を合わせた。

街道一帯の俠客博徒らの中心人物だった清水の次郎長を清水港の警固役の大抜擢し、更生させたことで有名な浜松藩の家老、伏谷如水は、その後のお国替えで鶴舞へ移住し生涯を過ごした。1818年に生まれ、まさに大河ドラマ「西郷どん」の舞台である幕末から



明治初期の激動の時代を浜松と鶴舞で大活躍した伏谷如水にとつて、今年には生誕200年にあたる。

## 伏谷如水 生誕200年に墓参

如水が縁で十数年前より交流が続く「次郎長翁を知る会」と「鶴舞藩を知る会」。今回もバスで訪れた清水の皆さんを墓参りのあと鶴舞の皆さんが鶴舞公民館でもてなし、親交を深め合った。

地元ゆかりの偉人を尊ぶ両会の気持ちが重なり心あたた





平成三十年

十一月十四日

平成三十一年

四月二十二日

◎市原市立南総公民館 宇綱川の虹」講師 塚原事務局長

◎「ふるさと市原をつなぐ連絡会」会長石黒修一）で  
市原と清水の交流会」のテーマで塚原事務局長が発表  
会場は市原市埋蔵文化センター二階会議室。

令和 元年六月八日  
(二〇一九)

◎井上正直公會孫 岡智さん一家  
鶴舞、長南今関邸を案内

長南今関邸、茂原の濱姫墓所、藩庁跡の井上公  
像、伏谷如水墓所等井上藩縁の地を塚原と木村  
乾行氏で案内。帰路五井駅までお送りした。



岡伸一氏 享子さん 智さんを迎える塚原喜美



井上藩庁跡と下は長南町今関邸門前にて





# 春日井梅鶯 父娘舟唄と八幡



令和元年

七月二十八日

◎市原高等学校にて 南北朝時代の天皇と市原

講師 塚原

八月

六日

◎市原市立八幡公民館 春日井梅鶯父娘舟唄

講師 塚原



令和元年  
九月三日



成瀬 政男



片山 かの



啄木妻・節子



コルバン夫人は城山公園下に眠る



## ◎館山に啄木の妻節子を追つて

鈴木良知氏と塚原事務局長

啄木は病魔に侵され明治四十五年四月十三日、父一禎、妻節子、友人の若山牧水に着取られながら二十六歳の若さで東京小石川で亡くなった。啄木亡き後、妻節子はキリスト教伝導の傍ら結核療養者の世話をしていた英人ウルバン夫人を頼りて房州に向かったが、それは啄木の妹光子のキリスト教者としての縁であった。妊娠中だった妻節子は翌五月二日、幼い京子をつれて南国房州館山へ出産と療養にやつきた。コルバン夫人は医学博士であり外科医であった夫の医療伝導に付き従って来日していた。昭和十六年七月十三日に亡くなり館山の城山公園下のキリスト教者墓地に永眠。

妻節子が間借りしていた元長尾藩士族子孫片山かの宅は北條海岸沿いで館山シーサイドホテルの真裏方向で当時の建物は取壊されて、陶製の井戸枠だけが遺されている。

当時、かのさんの孫、政男少年は剣道の寒稽古の四時に間に合わせるため、祖母の所から安房中学に通学していた頃であり、啄木妻節子母子に会っていた。かのさんの勇気ある温かい人柄は、後に東北大学を出て世界的に有名な歯車の博士となった成瀬政男さんの石川啄木の遺族につながる思い出に記されている。

啄木の妻節子は来房翌月に次女房江を療養先の片山かのの方で産んだが同年九月四日、京子、房江の二人の啄木の遺児を連れて房州から当時は函館に移住していた実家に帰ったが、翌年の大正二年五月五日、六時四十分、肺結核のため函館の豊川町三十四番地の豊川病院で亡くなった。享年二十六歳。



元・片山かのの宅 古井戸を覗く鈴木良知氏



片山かのさんの墓所(安房高校北側)



令和元年

九月五日



皆吉・熊野神社台風被害

◎市原市皆吉の熊野神社 第十五号台風により被災。

境内末社二棟の内一棟が杉木の倒木により惜しくも倒壊し、拝殿も西側に寄りかかった大木の重みに堪えかね、やや傾き、雨漏りもやむを得ない状況となった。百年の村勢を見守り続けてきた大杉も未だ嘗てない風速に必死の抵抗も空しく根元から倒れこみ、残念無念の姿となった。想えば昭和三年に佐是の桐谷久治棟梁のもとに改築成り遷座式の写真も残る歴史の灯を護ろうと、志村総代を中心に氏子中の対応も素早く、屋根や土台の補修、倒木の



台風15号気象情報



令和二年

一月十一日

◎春日井梅光、故郷鶴舞へ錦を飾る。



春日井梅光

市原市鶴舞にある特別養護老人ホーム・トータスの多目的ホールで「浪曲と歌の会」が地域福祉講座として開かれた。



曲師・吉野雅樹と梅光

梅光は石川県羽咋郡出身で、父親は農業を営み、七人兄弟の次男。小学生の頃から浪曲が好きで、中学を卒業すると村の風習で船乗りにさせられ、遠洋航海を二年務めてから、どうしても初心を貫こうとして下船し、上京して看板屋、食堂などで働いて浪界入りのチャンスを待った。その内雑誌でみた春日井梅鶯の住所を頼りに千葉県鶴舞の自宅に梅鶯を訪ね、弟子入りを頼んだ。声調べの結果合格し正式の弟子として住み込む事になった。昭和三十八年六月、静雄が十七歳の年である。梅光」という芸名をもらったというのが始まりであり、今回は浪曲師として初めて鶴舞へ里帰りし、錦を飾ることとなった。

出し物は「暇の母」で満席の会場は梅光の名調子に酔いしれた後に得意の歌で締め、久々に浪曲と歌謡を堪能した様子であった。





令和二年

三月十八日

◎ 最後の城下町 鶴舞の御城印」がスタート



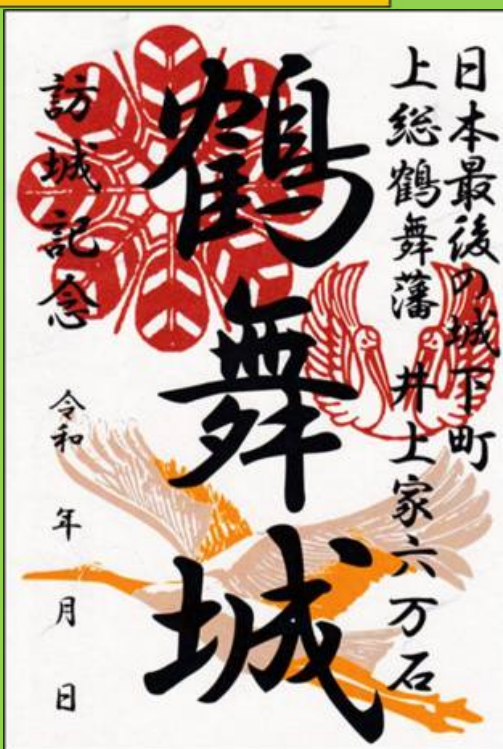
御城印作成検討会議・鶴舞ホープラザ・令和2年3月18日

現在、御朱印ならぬ御陵印や鉄印帳など様々な訪問先の印を集めるブームで、観光宣伝や町起しになくてはならないもののように、だが、地元市原市でも遅れるものかとの度、鶴舞城跡を中心に池和田城や牛久地区の佐是城がいち早く「御城印」の全国仲間入りを果たした。

これに先立ち、上記の令和二年三月十八日に第一回鶴舞御城印作成会議」が鶴舞ホープラザで開かれた。出席者はトータスの三好氏、大橋氏、地元の長谷川氏、佐藤氏それに小室氏と塚原」これは、三越伊勢丹の外商部のマネージャー 小室裕一氏や山城ガールむつみさんからの誘いの話が藪の塚原にあり、検討した結果、鶴舞の古民家カフェの大橋優氏にバトンタッチされて実現したものである。嘗て日本全国では二万五千ヶ所以上の城 砦類も含めてがあつたともいわれるが、御城印を最初に売り始めたのは平成三年頃の松本城で現在では六十ヶ所前後の御城印が販売されていることである。

## ふるさとの御城印

市原市の「鶴舞御城印」誕生に寄せて





令和二年七月十八日 ◎市原市民会館三階会議室 鶴舞藩と伏谷如水」 講師 塚原

九月 八日 ◎市原市鶴舞ホープラザ 市原に御城印始まる」 講師 塚原

十一月十日 ◎々鶴舞ホープラザ 春日井梅光、鶴舞へ錦を飾る」講師 塚原

十一月十八日 ◎市原市立辰巳公民館 点字の父 石川倉次」 講師 塚原

会場はコロナの感染予防対策に沿いマスクで三密を避け二十名定員で行われた。講師の塚原は友人の岩村氏が手配してくれた特殊なマスクでの講演となった。



石川倉次







市原市立加茂・白鳥公民館 主催事業 ふるさと歴史物語「房総と啄木」講座資料  
日時 2020年11月20日(金) 9時30分～11時30分 場所 加茂公民館2階研修室・会議室 講師 塚原 茂



節子は明治45年5月2日に来房、翌月に次女房江は母節子の療養先の安房郡北條町の片山かの方で誕生、…だが節子は同年9月4日、京子、房江の二人の遺児を連れて、房州から当時は函館に移住していた実家に帰ったが、翌年の1913年(大正2年)5月5日、6時40分、肺結核のため函館の豊川町34番地の豊川病院で亡くなった。享年26歳6ヶ月(法名は貞安妙節信女)



片山かさんの墓 安房高校の北側、旧長尾藩八幡共同墓地から入り直進した左側 至誠院西警妙順大姉 大正9年5月21日歿 行年79歳



啄木の妻・節子間借り跡(旧長尾藩士族・片山かの宅跡)



明治四十五年、啄木の没後に妻の節子は療養と出産の為房州館山、北條海岸近くの片山かのごん宅に寄宿。かのごんと英人「コルバン」夫人との献身的な介護で、次女の房江を産んだ。南房館山の温暖な気候風土で数ヶ月を過ごした後、函館の実家に帰って行くまでの物語は房総に啄木の名を一段と刻んだともいえないだろうか。

ここでの会場も、マスク使用であり、定員も二十名で締め切りであり、「コロナが治まらないうちはやむを得ない」とである。啄木の「握の砂」を清書された朝生原の鶴岡久芝氏の素晴らしい筆跡を追いつながらの講演であった。





「啄木の歌」を愛する人のあり



〔編集と書〕  
 〒290-0535  
 千葉県市原市朝生原239  
 鶴岡 久芝  
 昭和  
 桜ヶ瀬会会員 (21年5月)  
 生れ

窯焼きパンの店 略  
 pizza, cake, coffee  
 Y-10m 浜石折 宛  
 市原市朝生原





# 大多喜城本多家の女性たち

～ 清く、美しく、乱世を生きる ～



かねてより大多喜町「立葵の会」の君塚善利氏から預かり、その映像と資料説明文のパソコンへの投入処理を「鶴舞藩を知る会」事務局長塚原茂が依頼されていたがこのほど完成し、同会の山口總源氏の監修を経て完了した。なお福田彰宏と松下善憲両氏が挿絵を担当された。

令和二年  
十二月十日

◎ 大多喜城本多家の女性たち

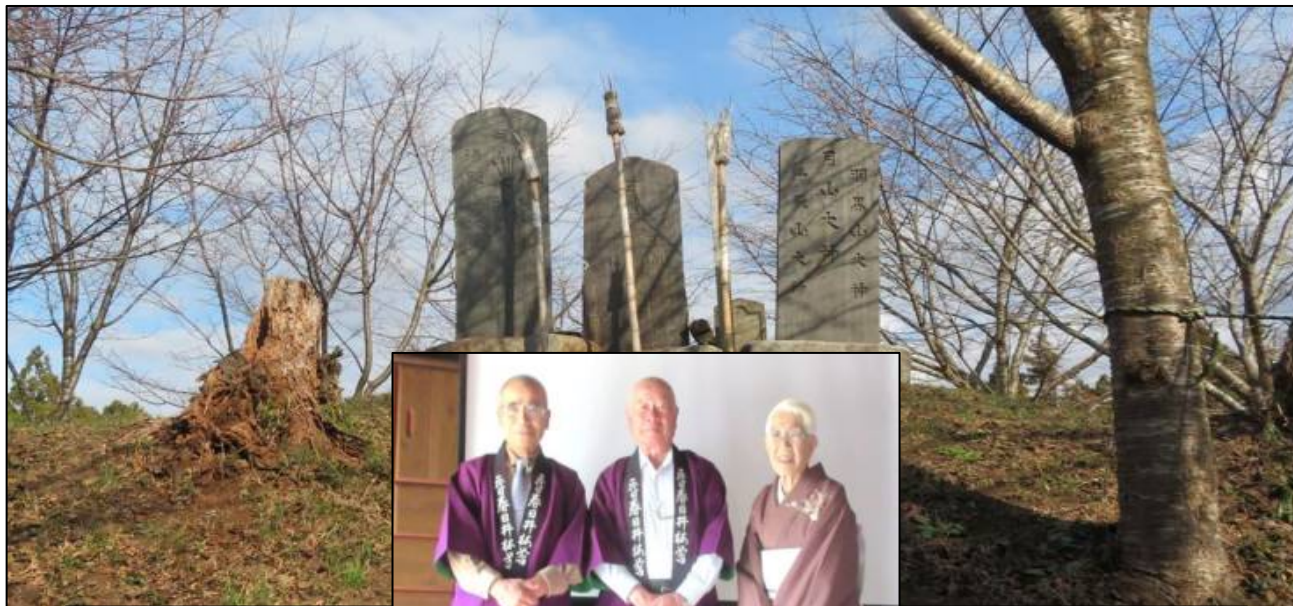


令和二年

十二月二十四日

◎建築の技や三山信仰も厚く、俳句、野菜作り等も巧みで浪曲を  
こよなく愛した友人の一人、茂手木洋氏が惜しまれつ旅発つ

八十一歳。



塚原 茂      春日井梅鶯(二代)      茂手木洋



勝間の茂手木家墓所





令和三年一月二十九日

◎二代春日井梅鶯逝く

日本浪曲協会名誉顧問 本名中垣和子 九十三歳  
初代梅鶯に入門し、一九七五年に一代目を襲名、日本浪曲協  
会の第十六代会長を務めた。





令和三年五月十一日



◎二代春日井梅鶯を偲び追悼浪曲会を鶴舞ホープラザで開く。  
主催は大橋優古民家カフェ代表で、梅鶯顕彰会 塚原茂作成による梅鶯往年のビデオとレコードを聞きながら在りし日の活躍する姿を偲んだ。







令和三年六月二十四日

◎市原市市津公民館にて 鶴舞藩の歴史と伏谷如水」について講演。

九月 十四日

◎市原市八幡公民館にて 予規房総の旅」講演。

十月二十二日

◎市原市南総公民館にて 房総と啄木」講演。

十一月十九日

◎市原市加茂公民館にて 日高誠実と梅ヶ瀬」講演。

令和四年 三月 八日

◎市原市鶴舞ホーププラザにてスライド鑑賞会。これは昨年末行われた「いちはらアートミックス2020」に小湊鐵道上総鶴舞駅前広場で「桜鶴舞おもてなし」として参加した模様の録画を披露したものであった。



令和四年四月十五日



愚庵歌碑 清水港の宿りにて 建立者・高石鶴子さんの自筆である(除幕11日前・牛久・原地石材店にて)

◎市原市南総公民館にて新・房総の夜明け」前編・清水市と市原の交流始まる」までを講演。後編、その後の鶴舞藩を知る会の活動」については一週間後の十五日に開催された。



伏谷如水、次郎長を清水港警固役に抜擢の図 次郎長生家蔵

四年八月二三日

◎市原市外部田の自治会館にて同町会桜の会」主催による歴史講座を外部田周辺の今昔」と題して同地に古来から存在する坂中薬師堂」にまつわる研修会が開かれた。これは地元の大岩氏による薬師堂縁起」調査研究発表を軸にして、藪の塚原作成による同内容を含めたスライド観賞会であった。



坂中薬師堂の十二神将





令和四年九月二九日

◎ 鶴舞藩家老 伏谷如水墓所清掃。

地元鶴舞の城下に眠る幕藩時代最後の歴史の証明の一つとして残る如水の墓所。ややもすれば草むらにその偉業が隠れがちになるのを惜しむ鶴舞藩士族の子孫等がこの日、徒長した枝を払い草を刈り、落ち葉を掃き見事に再現した。  
これは角田幸紀氏が発起し実現したもので、郷土の歴史を後世に伝える拠点の一つとして大事にしたい一念から出たものである。



発起人・角田幸紀 齊藤繁忠 大戸秀郎 管理・宮下節子の各氏



令和四年十月十五日



◎ いちはらフィールドマップ巡り「鶴舞」がぶるきと市原をつなぐ  
連絡会」会長 右黒修一「主催で行われた。参加者は十六名で五  
台の乗用車に分乗。  
コースは上総鶴舞駅から大宮神社境内の藤原式揚水の記念碑  
や市内最古「万治二年」の庚申塔等を見学後、池和田城跡方面に  
向かう頃、生憎の雨模様となり、マップ巡りを中止。  
久保台の橋から急遽反転、案内を担当した藪の塚原家ギヤラ  
リー木戸庵 深澤幸雄氏揮毫の看板ありにて、鶴舞藩関係の伏  
谷如水、清水次郎長、春日井梅鶯等の資料や写真を観賞後、前  
庭にて記念の写真を撮り解散となる。なを、後日、再度巡る予定と  
なった。



いはらフィールドマップ巡り「鶴舞」 令和4年10月15日 藪・塚原家にて



令和四年十一月六日



◎加茂地区外部田町会坂中薬師堂において「待夜」が行われた。地元には「じょうや」と言われて境内の草刈り後、薬師堂前で一人ずつ焼香し伊藤町会長先導で唱える「南無薬師瑠璃光如来」を十回唱えた後、清酒で乾杯し解散。

この日、地元女性の「桜の会」がこの催しに参加、落葉掃き、枯れ枝除去や堂内に祀られている仏像を掃除して納めるなど和やかな内に伝統行事を終えた

この薬師堂は昔、藤原定春という人物がこの地の御園生に城を構えていたが、雀之前」という娘が七歳の時、重い眼病で盲になり、一心に薬師如来に祈ったところ目が見えるようになり、定春親子は大変喜んで丁度、その時諸国を回っていた行基菩薩に願ひ薬師如来を刻んでもらい熱心に供養していたが子孫の代に城は攻められて滅亡後に虎王丸という家来が出家してお堂を建て、主君の家に伝わっていた薬師如来を安置したのが坂中薬師堂のはじまり」という。



令和四年十一月十六日

◎長南町古沢の今関久枝さんが亡くなりました。

行年九十六歳 法名は錦鳳院久室貞照大姉

公家門を配した住居が明治二年二月十一日、浜松藩主井上河内守の仮宿として提供され、明治三年四月二十一日、鶴舞の新庁舎に移られるまでの一年二ヶ月という短期間ではあったが、激動した維新の姿を郷土の歴史の一コマとして資料を提供公開された功績は不滅だ。





令和四年十一月十八日

◎市原市立加茂公民館主催事業 「ふるさと歴史物語」でテーマ  
「新・房総の夜明け」副題 伏谷如水と清水次郎長の生きた時代」  
の前編 講師 鶴舞藩を知る会 塚原事務局長の講演会が催された。  
歴史好きだったり、鶴舞に縁のあることで参加したという人もおり  
後編の予告を見て次も楽しみに出かけて来たいものだと言っていた。

161



**鶴舞の歴史**

新・房総の夜明け

「伏谷如水と清水次郎長の生きた時代」

「鶴舞藩を知る会」の足跡

日時：R4年 11月18日（金）  
11月25日（金）

主催：「ふるさと歴史物語」

講師：塚原 茂

場所：加茂公民館 研修室・会議室

お問い合わせ申込先：加茂公民館 窓口・電話  
0436-98-0033



令和五年二月五日

◎市原市外部田の山王大権現御祈禱祭

当地区知人大岩淳一氏の紹介で参加。節分明けの行事が珍しく、高滝神社神官の祝詞が祠の内で清々しく、春の訪れを実感した。



令和五年二月十五日



◎新装なった市原歴史博物館『ちはらSIMUSEUM』多目的室にて鷹野光行館長から新博物館について」の説明後、『けら落とし』となった講演会が催され「ふるさと」の歴史」について講師は塚原茂「ふるれん会員」で開かれた。

内容は市原の歴史と天皇」についてで左に記したものであった。

- 一、後醍醐天皇と足助次郎重範
- 二、長慶天皇在位説を研究発表した八代国治
- 三、お江と後水尾天皇とのつながり





令和五年四月十七日



◎鶴岡安宅を追って 東金 歩野歩野クラブ「阿部倉彰一行。

鶴舞藩を知る会」塚原事務局長市原市敷」の案内であった。

163

幕末、明治の初期、荻谷や東金で人材を育て加茂村久保に眠る。天保六年（一八三五）四月十九日南総市原郡幸田郷久保村の鶴岡善右衛門（名は直弘）の長男として生まれる。やがて少年期を迎えると安宅は近在の儒者篠崎司直の門人某について漢籍を学習。後、二十一才の時、江戸へ遊学。安井息軒の学僕となり住み込むも母が重病と聞き帰郷。父母の死後幕末の慶応元年に荻谷村夷隅町に塾を開き孟子や詩経を講じ、塾は繁盛したので安宅はここで四年を過ごし、その間に塾生は二百人を数えたという。

明治元年八月十九日、三十四才の安宅は結婚。相手は見掛村勝浦市）神崎文蔵の娘、残念ながら名は不明である。明治二年一月二十三日、大多喜藩主の大河内正質が荻谷村を視察に訪れた際に安宅が大河内侯に上申して学校を建てて教育を盛んにし人材を養成すべき必要を訴えた。後に、安宅は大多喜学校に赴き孟子の序説を講ず」と日記に残している。こうした生活が続いているうちに安宅と東金との関係が生まれることとなる。東金は寛文十一年（一六七一）以来、福島板倉藩の飛地となっていたが、明治二年一月国替えとなり宮谷県の治下になった。その時、東金の有力者が県令の柴山文平に願ひ出て学校を作ったのが「東金郷校」で、この場所は板倉藩の陣屋になっていた旧東金御殿に設けられたものである。

明治二年安宅一家は九月十日、荻谷を引上げる際、門弟たちは別れを惜しんで涙とともに心からの饗別をおくったという。安宅一家は途中茂原で過ごし十三日に東金に入り十五日に東金郷校内の住居に移っている。安宅の講義がはじまると入門者がだんだん増え、その中には柴山県令の長子新吾兄弟や女性もいたという。安宅は学者としても研鑽を怠らなかつた。そして特に房総の地理歴史に関する研究に力を入れ「房総志料」六巻、房総逸史一巻「上総地誌」「安房地誌」「松陰山房日記」その他を残した。

安宅は明治二年九月、東金へ移居一年一ヶ月後の明治三年十月十四日、男児が誕生、三十六才にして初めて父親となり、名前は大多和確齊が選んで鶴ヶ嶺にちなんだ「鶴太郎」と名付けた。こつう幸福はあつたが元来健康体でなかつた彼は、明治四年四月頃から体調をくずし、九月二十四日から病床についた。夫人や門人で助教をつとめていた吉原信江沢敏常らが献身的に看病につくした結果一時快方に向かったが明治五年六月十四日午後三時長逝した。享年三十八才。弘学院老山道州居士と諡され、故郷久保村の久保台山先祖墓地の側に葬られている。参照東金市史

## 鶴岡安宅と鶴舞の史跡を追って



阿部倉彰  
塚原茂  
渡辺由子

令和5年4月17日

小川 衛  
小黒紀江子





令和五年五月二十一日



◎日高誠実を偲び梅ヶ瀬溪谷洞門広場で詩画誕生記念感謝祭が開かれた。主催は「忍野富士山アートピア実行委員会」関谷正夫。誠実の詩が誕生した養老溪谷の絵画とともに上流の大福山に向かて吟詠され朗々と木魂する様は鷹取山に眠る仙客に届けとばかりであった。



百五十周年記念／文化源泉千葉時代  
世界文化遺産登録十周年記念  
山アートピア実行委員会 (一社) 新極美術協会





令和 五年五月二八日

## 犬成集会所



◎市原市犬成集会所にて当町会の茶話会席上にて講座を開いた。  
テーマは「鶴舞藩の歴史と伏谷如水」で講師は塚原茂。



昭和45年4月に移住した犬成の高山家

令和 五年五月三十日

市原市立南総公民館主催事業 南総寺子屋にて講師塚原茂。



## ふるさと 市原の歴史と天皇





令和五年六月六日



伏谷如水



鶴岡安宅

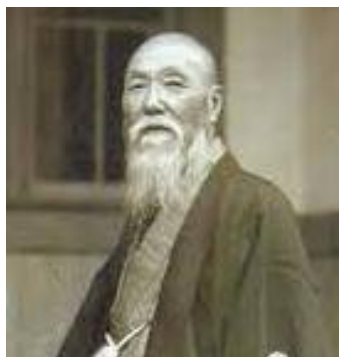


◎東金市・歩野歩野クラブ「阿部倉彰第二グループ」一行五人が再度「鶴岡安宅と伏谷如水」を訪ねて市原へ。案内は前回同様で加茂地区久保安宅生家、更に三百以程先の墓所では一人ひとりが線香をあげ、嘗て明治の夜明けの時期に東金の地にいち早く文化を灯してくれた先人に感謝の念を捧げ、如水墓所へと向かった。





令和五年 七月二日



石川倉次



清水次郎長



伏谷如水



◎市原歴史博物館発行の「フィールドマップ鶴舞」の現地見学会。  
主催は「ふるさと市原をつなぐ会」会長 右黒修一）案内役は地元  
鶴舞藩を知る会」の塚原茂、ふるれん会員で行われた。

出発点の小湊鉄道上総鶴舞駅に九時四十五分にそれぞれ集合。  
列車で到着合流した参加者四も加え計十三名が四台に分乗して  
廻る事になった。先ず駅前の大宮分教場跡碑見学後、大宮神社で  
市内最古 万治二年（一六五九）といわれる庚申塔や藤原式揚水建  
設記念碑等を見学後、現地 池和田の揚水地跡を橋上から眺める。  
其の後に田尾の林祥寺本堂内を見学。徳川家縁のお江の写真像等  
と対面。後、字岩井戸地区に足を伸ばし鶴舞藩家老 伏谷如水の隠  
居所跡や墓所で清水次郎長との維新期での二人の親交や其の後の  
市原市と清水や浜松との交流の様子。池和田城の麓では伝説  
の正福寺跡や旧像の阿弥陀三尊像にまつわる話後、城の説明標柱  
側で一時を過ごす。鶴舞公民館 藩校 克明館跡）では点字の翻案  
者石川倉次像や伏谷如水と清水次郎長の碑や鶴舞神社の見学を  
終え出発地点の鶴舞駅まで戻り次回を楽しみに解散した。





令和 五年 七月二〇日

## 外部田周辺の今昔



久保・幸田橋方面からの眺望



外部田周辺俯瞰



◎市原市立加茂公民館主催事業「ふるさと歴史物語」で講師を務めた。テーマは地元加茂村 **外部田周辺の今昔**であった。参加団体は加茂葵大学で全十四回の五回目、地域の宝①であり社会教育指導員 小原保孝 佐藤奈美子両名の進行で行われた。坂中薬師堂等地元につわる古来からの言い伝えを子孫に残そうと住民の保存に対する取組みが感じられる場面には参会者から共感するものがあつたと聞く。





中房総ゴールドデンスバイクライン (GSL)



御来光の道 北緯35° 21' レイライン



日高誠實と人物関係抜粋・順不同



令和六年四月九日

## 夢の実現に向かって



東金・福俵の安川柳溪は、明治二十二年旧暦三月九日入山、  
十日余りで梅ヶ瀬の十二勝を画いたといわれる。

◎市原市立南総公民館に於いて講演会「蘇る理想郷」の講師を塚原茂が依頼され、スライドを使用し行つた。



市原高校合同同窓会歴史講演会  
 最新の歴史功労者 鶴舞藩家老と俠客を巡る  
 伏谷如水と清水次郎長  
 年月日 令和6年6月2日 (金) 10:00開演  
 会場 千葉市中央区豊町1-1 千葉市民会館 3F  
 料 金 前席 2,500 一般席 1,500  
 講師 「鶴舞藩を知る会」 事務局長 塚原茂 (市原市駐在)  
 主催 市原高校合同同窓会 後援 市原市 市原市議会 市原市商工会 市原市観光協会  
 事務局 市原市原田 本郷寺 本村銀行 0436-83-3334



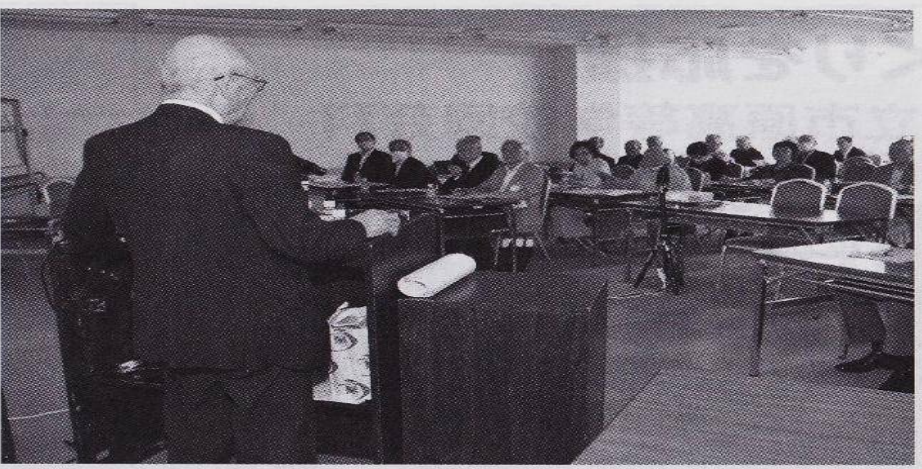
◎ 市原高校合同同窓会歴史講演会」伏谷如水と清水の次郎長」のテーマで千葉市民会館三階にて開催された。

発起人代表 荻込勝美、委員は木村乾行、角田幸紀、桐谷やる子の各同窓生で準備され、講師は昭和三十年に市高卒業生の塚原茂。十年以上も学年の異なる各同窓会を合同で行うという未体験の行事であったが、交通の便利な千葉市内であった故かほぼ満席に近い状態で来賓に静岡市の次郎長翁を知る会」の山本量正副会長や監事 杉本憲一両氏の出席で会場が一段と盛り上がった。

南いちばら応援団新聞  
 伝心柱  
 第358号  
 発行日 2024年6月9日  
 伝心柱編集部  
 発行責任者 原地利忠  
 市原市牛久555 TEL.50-1107

同窓会で歴史講演会  


主に昭和30年代に市原高校を卒業したOB・OGが集う合同同窓会が6月2日(日)千葉市中央区の千葉市民会館で行われた。  
 この同窓会は32年卒の荻込勝美さんらが発起人となり、藪在住の郷土史研究家の塚原茂氏(30年卒)を招き『鶴舞藩家老・伏谷如水と俠客・清水次郎長との関係』をテーマに歴史講演会として開催された。



休憩をはさみ2時間の講演も写真や資料をスライドで判りやすく説明したり、時にはユーモアを交え臨場感たっぷりの塚原節に70名を超える来場者は熱心に聞き入っていた。  
 コロナもあり久々に旧友を温め合った参加者からは「会を開いてくれて良かった。また来たい」「千葉だったので来れた」などの声が聞かれた。  
 主催者からは「これをきっかけに学年ごとの同窓会なども開いてくれたら」と盛り上がりを期待する。  
 もうすぐ100周年を迎える市原高校。同窓会も元気に活動を続けている。



令和六年 七月十八日

◎市原市立加茂公民館において

# 蘇る理想郷 日高誠實記念館」

と題して講演会が開かれた。講師は鶴舞藩を知る会 塚原茂



秋月種樹





令和六年七月十九日

◎東京谷中金生庵・山岡鉄舟毎歳忌」に塚原茂夫妻で参席



山岡鉄舟は天保七年（一八三六）六月十日、江戸本所で小野朝右衛門高福の第五子、母は塚原磯常陸国鹿島神宮神職塚原石見の二女）剣禅書の達人で江戸無血開城の功労者、明治天皇侍講等人口に膾炙しているところである。明治十六年（一八八三）、維新に殉じた人々の菩提を弔うため東京都台東区谷中に普門山全生庵を建立。空生庵の寺名は、明治七年居士が鎌倉建長寺開山蘭溪道隆禅師自筆の全生庵という額を人から貰い、これを書斎に掛けて愛蔵していた。明治十三年、居士が一寺建立を発願し、寺域を道友国泰寺越叟和尚のすすめにより谷中の現在地に選定した。ところが、計らずもこの土地が七百年前、道隆禅師が江戸に漂着し九死に一生を得て全生庵という庵室を作つて閑居していた旧跡であるということが分かった。居士も奇縁に感じ、明治十六年、全生庵を寺号とし、居士邸から嘗て江戸城の守本尊であつた葵正観世音の霊像を遷し本尊とした」という。

明治二十一年七月十九日示寂。

例年にならい多くの鉄舟縁の子孫や名士で親善交流がみられたなかに清水の次郎長翁を知る会「関係者ぼころもフーズ」会長の後藤康雄氏や埼玉県小川の忠七めし二葉「八木忠太郎氏の山岡鉄舟会」と旧交を温めた鉄舟忌でもあつた。

左の写真は西郷隆盛曾孫の隆文氏と名刺交換する鶴舞藩を知る会「事務局長の塚原茂





令和六年八月六日



◎市原市立八幡公民館において「太平洋戦争と八幡」と題して講演会が開かれた。

講師は二部制で山岸弘明氏と塚原茂で行われた。  
「八幡 魚惣」清水あき子さん母娘が特別参加され思い出を語った。





令和六年十月三〇日

◎市原ふるれん主催歴史講演会 市原市民会館二階会議室にて  
特別参加 関谷正夫氏の記念館をとりまく現状について挨拶後、

蘇る理想郷 日高誠實記念館」 講師 塚原 茂



関谷正夫氏の挨拶





# 「鶴舞藩を知る会」25周年記念に合わせて 伏谷如水と清水の次郎長～梅ヶ瀬・日高誠実

— 新・役員で再スタート —



◎ 鶴舞藩を知る会「復興について  
第一回会合がそば処「子安」で開かれた。

これは、当初、平成十一年七月三十日に内藤昇会長、鈴木仁副会長、高石鶴子如水五代目、事務局長塚原茂の四人でスタートした会が現在、二十五年経過し、活動する会員としては塚原一人となり、しかも、八十八歳という高齢となり、今後継続して会の活動をして行くには、どうしたら良いかという話しあいであった。  
参加者は地元の角田幸紀、内藤泰雄、三好明徳、戸田地区鈴木良知、内田地区木村乾行、牛久地区塚原茂の六人であった。  
話し合いの結果、新役員として会長 塚原、事務局は角田、顧問は鈴木、相談役は木村、会員は内藤、三好という新体制で再スタートが決定。新年での会合は会長宅「末戸庵」資料室で決まった。



三好会員・鈴木顧問・木村相談役・塚原会長・事務局長角田・内藤会員



令和六年十二月二十五日

市原市教育委員会により

伏谷如水墓所案内板」が刷新された。

市原市教育委員会教育振興部文化財課

櫻井課長 様

この度は旧鶴舞藩家老伏谷如水の墓所案内板の刷新に関しご配慮賜り誠にありがとうございました。この件については案内板刷新のお願いにあがるなど再三にわたり行政を煩わせたにもかかわらず、地域住民の切望にお応え頂いたことに深く感謝申し上げます。

令和6年6月2日に千葉市民会館で「伏谷如水と清水次郎長」と題する講演会を開催したこともあり、当墓地を訪ねる人も多くなっております。当会としてもこれを機に更に史跡の保存に努める所存であります。

令和6年12月26日

鶴舞藩を知る会

会長 塚原茂

事務局 角田幸紀



なお、鶴舞藩の歴史を伝承する組織「鶴舞藩を知る会」は 令和6年11月に体制を一新し、会長は元事務局長の塚原茂、事務局は角田幸紀が担当することになりました。短命藩のため忘れ去られ兼ねない藩の歴史を伝承することに努めます。



「伏谷如水」墓所案内板刷新  
2024(令和6年)12月25日 角田事務長と塚原会長

鶴舞藩家老

伏谷又左衛門(如水)墓所

伏谷又左衛門(如水)は文政元年(一八一八年)生まれで、遠州浜松藩の家老を務めていました。

慶応四年(一八六八年)、新政府軍と幕府軍が争った戊辰戦争では藩主井上正直が江戸勤めで不在であったため、城代の井上織部と伏谷如水の決断で新政府軍に属しています。

如水は新政府軍先鋒を浜松に迎え入れ、藩兵を率い、その警護を務めています。その後、如水は駿府差配を務めながら、裁判所判事も兼任し、駿府の司法行政を統括しました。

また、この時期、山本長五郎(清水次郎長)と親交があったことも知られています。

しかし、藩主の上総転封にともない、市原郡石川村の地内(後の鶴舞)に移住し、明治二十二年(一八八九年)六月二十九日に没しました。七十二歳でした。

市原市教育委員会

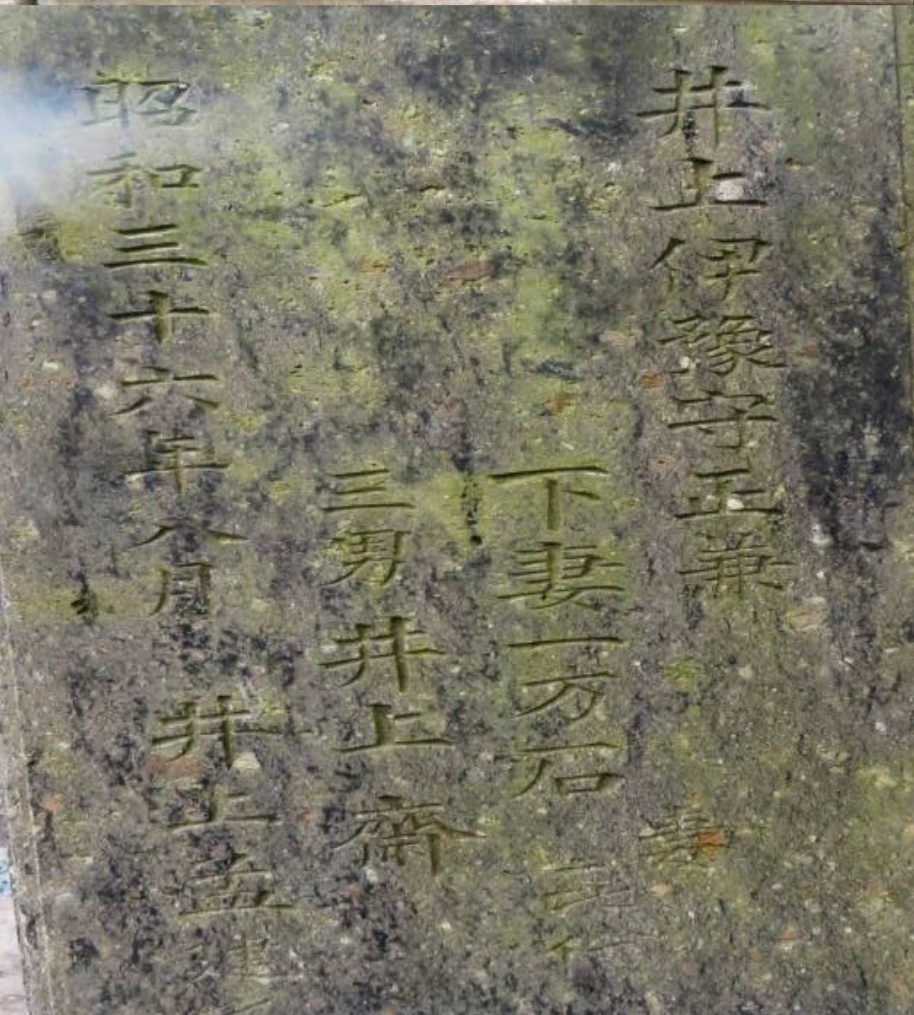


令和七年 一月二十七日



井上 齋先生

◎鶴舞藩出身 君津郡 現君津市)小糸町立西小学校初代校長の井上齋先生を追って茂原市の藻原寺墓地へ。此処は以前、平成十四年六月二十九日に藩主 正直公姫達 濱姫と昌姫)の墓碑を発見し、市原市北国分寺台にお住まいだった故井上正寿氏夫人の經子さんを伴い、墓地所有者で東茂原の井上光子さん 齋先生子孫)や内藤会長と訪ねた場所である。目的は井上齋先生の墓石の確認であった。



井上 齋墓石

常陸下妻一万石 井上正兼三男  
正兼は浜松城主井上正甫の八男

井上分家

井上初代正就の弟 井上政重を祖：下総国高岡藩一万五千石

井上四代正岑の弟 井上正長を祖：常陸国下妻藩一万石

齋先生を追ったきつかけは 昭和三十八年十一月二十三日付の君津郡小糸町立西小学校創立九十周年記念実行委員会」の冊子で千葉県市原郡鶴舞町長角田幸吉氏交付の井上家史料。

これは濱姫 昌姫墓石発見に伴い君津市立中小学校 旧西小学校(事務職員坂井さん 女性)に平成十四年七月一日、塚原より資料請求、送付頂いたものである。





令和七年 三月二十日  
二〇二五

◎中房総ゴールデンバイクライン実行委員会 会長 佐久間隆義  
と加茂地区農業振興協議会 会長 三原茂（共催の日高サンフラ  
ワーファーム開所式典が加茂運動広場側でテープカットを行い、  
地域産業発展の場としてスタートした。





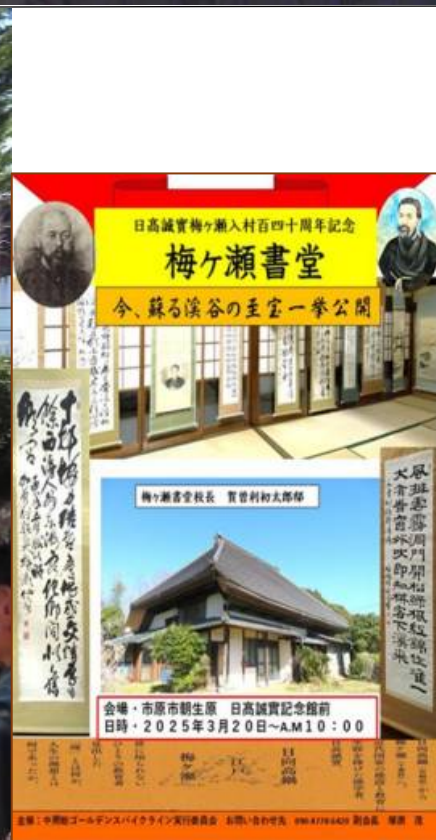
令和七年 三月二十日  
二〇二五



佐藤孝氏旧蔵の駕籠等展示



引き続き同十時から一行は、養老溪谷朝生原 日高誠實記念館  
前の梅ヶ瀬書堂の開講式典」を開催。多くの参加者が旧賀曾利  
邸内の漢詩掛け軸や絵画を、関谷実行委員長の説明後、前庭で開  
かれた袖ヶ浦市林 御園豊氏の野点に満喫した様子であった。



2025. 03. 20 (令和7年)



令和七年六月 四日  
二〇二五



## 市原高校創立百周年同窓生主催第2回歴史講演会

市原が生んだ浪曲界の大御所

### 春日井 梅鶯物語



初代

三代

二代

年月日 令和7年6月4日(水) (会費2,000円)  
会場 千葉市中央区要町1-1 千葉市市民会館小ホール  
時間 開場12:30 開演13:00 閉会16:00

#### 第1部 春日井梅鶯父娘 浪曲人生物語

講師「鶴舞藩を知る会」事務局長 塚原茂 (市原市在住)

#### 第2部 春日井梅鶯口演とトークショー

「赤城の子守唄」  
「天野屋利兵衛」

主催 市原高校同窓生 発起人・苅込勝美(代表) 角田幸紀 桐谷やゑ子  
事務局 市原市原田・本佛寺 木村乾行 電話 0436-92-1116

◎「春日井梅鶯物語」市原が生んだ浪曲界の大御所の公演会が市原高校同窓生主催により千葉市市民会館で行われた。これは木村乾行実行委員長、角田幸紀「鶴舞藩を知る会」事務局長や桐谷やゑ子さんらが発起人、苅込勝美代表を通して、塚原に講師依頼があり、又、三代春日井梅鶯の口演にまで至ったものである。会場は、来賓の前、市原市長佐久間隆義氏や市原同窓生他、浪曲を懐かしむ年代の百五十名余の参加者を得て盛況であった。





令和七年七月二十七日

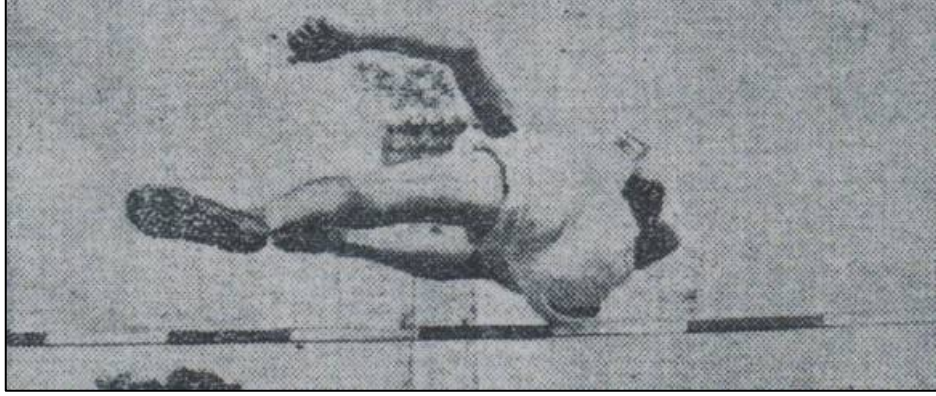
二〇二五

市中走り高跳び内藤幸哲君を偲ぶ

市原高校令和七年度同窓会総会が修道館で開催された。総会終了後の講演会でテーマは走り高跳び内藤幸哲選手」。市原中学校時代彗星の如く現れ、全国にその名を知られた陸上界の星とまでいわれた活躍振りを当時の新聞記事や写真を紹介、間もなく母校市高創立百周年記念祭を迎えるにふさわしい講演会となったとか聞く。昭和三十年卒業生の塚原茂講師。



内藤幸哲(ゆきのり)君の雄姿



# 五年ぶり熱戦復活

## 未来のオリンピック選手集つ

選手振りに復活した全国米80▲走高跳の長沢(沼津商)A  
中倉達校陸上競技選手権米02の福原(安房中)⑧島田(龍  
大矢第二日は快晴に恵ま

### 全国中等陸上

市原中(米70)の大島(前橋中)の芝  
先(前橋中)の島田(前橋中)の芝

### 走高跳・内藤選手(市原中)の見事なフオーム

全国中等学校陸上競技選手権  
昭和22年8月3日 京都スタジアム





千葉日報 二十四日付



◎ 日高誠實會孫 秀美氏招き  
高滝湖畔

日高サンフラワーファームに於いて大収穫祭  
元官房長官松野博一、岡島一正先生、元知事堂本曉子氏 九十三歳）や伊豆倉雄太県議、地元市会議員 大曾根友三氏他多数の来賓を迎え盛大に行われた。主催は 中房総ゴルフデンス、バイクライン実行委員会」会長 佐久間隆義、実行委員長は関谷正夫）



日高 秀實氏



堂本曉子元千葉県知事



佐藤 孝氏

松野博一元官房長官



# 南総戸田地区の歴史と人物

## ① 上高根出身力士 小柳常吉 ペリー黒船艦隊提督と親善

ペリーが帰国後に著した「ペリ提督日本遠征記」の第20章で、唯一「KOYANAGI」と紹介されたと墓碑にも記されているように、日本人力士のしこ名が海外で紹介されたのは「小柳常吉」が第1号である。1817（文化14年）市原郡上高根、高石家に生まれる。幼名は桂司、子供の頃から超肥満体であったため、母まづは一人前になってもらおうと阿武松部屋に入門させたが、甘え育った桂司は厳しい相撲界に我慢出来ず故郷に帰ってしまっただけで、11歳の時である。その後、実家の手伝いで農業をするも力仕事は人並みはずれてこなせるが、田植え、草取りしごとは腹が出すぎてこむことができない。桂司にはとてもつらかった。自分には相撲しかないと一念発起し、再び阿武松部屋の門を叩いたのは18歳の時である。その結果、9年後の1843（天保14年）場所最高の成績で初優勝を飾り、二年後、小結昇進、この頃、全盛期の中核。1852（嘉永5年）大関昇進、嘉永7年（安政元）ペリー再来航時、親善相撲等で怪力を発揮。1856（安政3年）阿武松を襲名。安政5年3月23日没。42歳。幕内32場所 131勝47敗 優勝5回。

## ② 馬立沢辺出身 松山好徳 万延元年、遣米使節団随員

万延元年（1860）1月、日米修好条約批准書交換のため、江戸幕府は正使に外国奉行新見豊前守正興、副使に神奈川奉行村垣淡路守範正以下77名の大使節団を編制し、アメリカの軍艦ポーハタン号に乗せてワシントンに送った。アメリカ側でも驚く大人数の派遣は使節の権威を高く見せようとしたのと、外国の様子や文化を少しでも多く吸収したかったからだと思われる。又、使節がアメリカの軍艦に乗船するので、その護衛として幕府所有の軍艦、咸臨丸を随行させた。これも日本人による初の太平洋横断航海でした。日本初の遣米使節で、見るのも聞くのも初めての経験をこまめに日記をつけた人も多くいた。今回紹介する「亜墨利加合衆国航海記」の筆者の松山好徳もその一人で馬立村沢辺の代々名主をつとめる牧野源兵衛宣秋の次男で、江戸の松山家の養子となり武道を良くし道場を開いていたという。副使村垣淡路守範正の護衛役で随員したといわれている。

## ③ 上高根出身 八代国治 長慶天皇在位説研究発表

八代国治は1873（明治6年）1月2日、市原郡上高根、鈴木吉蔵の次男として生まれる。1895年、上京し国学院に入学、卒業後、東京帝国大学文化大学史料編纂掛に入り、鎌倉時代史料の研究にあたる。1901年2月、八代房吉の婿養子に入り八代姓を名乗った。1908年には最初の日本史辞典である「国史大辞典」の編纂を行った。1911年1月、国学院大学の講師となり、「国史学会」の創設に参画する。1915年には吉野朝時代の編纂主任となり、一貫して中世史の研究にあたった。1916年11月に「長慶天皇御即位に就ての研究」を発表して長慶天皇の在位説を論じ、1920年には一連の成果をまとめた「長慶天皇御即位の研究」を刊行、後の同天皇の歴代天皇追加（第98代）に決定的な役目を果たす。本書で、1924年、帝国学士院恩賜賞を受賞した。また、1919年より宮内省の依頼を受けて皇室領（荘園）に関する調査・研究にもあたった。1922年6月より国学院大学の教授を兼任する。1922年11月に文学博士の学位を得る。1924年（大正13年）、アチノミコーゼ（放線菌症）のため51歳で死去した。勲六等瑞宝章が追贈される。（資料 塚原茂）

# 南総戸田地区の歴史と人物

- ① 上高根出身力士 小柳常吉、ペリー黒船艦隊提督と親善
- ② 馬立 沢辺出身 松山好徳、万延元年、遣米使節団随員
- ③ 上高根出身 八代国治、長慶天皇 在位説研究発表



## NHK大河ドラマ 2027年・反逆の幕臣 ～ 2028年・「ジョン・万」を見よう。

万延元年（1860）、江戸幕府が日米修好通商条約の批准書交換のために派遣した77名から成る使節団には米国が用意したポーハタン号に南総馬立出身の松山好徳が乗船していた。この時、護衛艦として幕府軍艦「咸臨丸」が随行、勝海舟や福沢諭吉、通訳にジョン万次郎も乗船していた。ポーハタン号乗船の小栗忠順と咸臨丸乗船の万次郎が主役の大河ドラマが来年から連年予定され、今、中房総養老川ゴールドenspライン歴史探訪が注目の的。

## 次回講座予定 令和8年4月 23日 「外部田周辺の今昔」

高滝神社社務所 2F

- // 5月 19日 「南総戸田地区の歴史と人物」
- // 5月 27日 「南総戸田地区の歴史と人物」
- // 6月 6日 「南総戸田地区の歴史と人物」

南総公民館  
千葉市民会館  
戸田コミュニティセンター



追憶

## 第一のふるさと 父秋山熊三郎 母はる

自分の誕生したのは昭和十一年六月二十日で、今年卒寿の九十歳である。  
生誕地は市原郡牛久町西国吉枝村一、六三二番地 現在の市原市西国吉である。現  
今の少子化と異なり、大家族の中で四男として育ち、両親とともに忘れられない兄弟姉  
妹、特に長兄秋山太郎 平成七年七月九日歿 行年七十三歳 法名 玉泉院篤信太清  
居士の回忌法要の際のものが当時を物語っている。

## 記

君の名は太郎。父熊三郎、母はるの十人兄弟の長男として大正十一年三月四日に生  
まれる。長じて二十歳の青春を迎えて待ち受けていた国民皆兵、軍国一色の時代に勇躍  
志願、昭和十七年二月一日歩兵第二百十二連隊北支派遣隊第四二五六部隊第三機  
関銃中隊に配属、皇軍兵士として出征。終始野戦部隊として大陸の戦野に奮戦中、己ん  
ぬる哉、病を得て終戦直前に内地へ帰還。広島原爆被災時は東京世田谷へ間一髪、  
故郷の地を再び踏む。

戦後の復興と食糧難時代には十三人という大家族を抱え、田畑に鋤を振るい酪農に  
精を出し、その乳で一家を守りきった。かかる献身的な家族愛は正に秋山家長兄としての  
面目躍如にして感謝大なり。

玉泉院十三回忌法要に当たり我ら妹弟並びに親族一同当時を回顧し、その足跡と  
報恩に對し靈の安らかなるを願ひ、子々孫々に至るまで末永く、往時の語り草とならむ  
事を祈念する者也。

平成十九年七月八日

合掌

撰文 塚原茂



長兄 秋山太郎



坂の上のふるさと

秋山家

もう一度 訪ねたきは ふるさとの  
木漏れ日踏みし 坂の道





## 第二の故郷は市原市敷である。

「住めば都」とはよく言ったものである。見渡せば平凡な山川であるけれどもその自然の中で喜びも悲しみも味わいながら、かけがえのない人生を過ごせたことに心から感謝し、あらためて「ふるさとの山はありがたきかな」の想いである。

この地の塚原喜美と昭和三十八年に結婚。二人の男児は既に社会人であり、今後、世の中がどう変わろうと逞しく生きて行つて欲しいものである。





## 改訂版発行にあたり

N T Tを平成九年三月に定年退職。残りの人生をどう過ごすかという思いに至り、いつの間にか郷愁にも似た過ぎ去った郷土の歴史に興味を持つようになった。市原の幕末維新を経た六十八年後に生まれた自分が、その後の時代の変わり様の中で生き、何を見て、何を遺したかつかを書き残すことにした。

振り返つてこれまでの道中で対面した場面、特に鶴舞の地に歴史の証明として伏谷如水清水次郎長ノ碑」や点字の父 石川倉次先生之像」又鶴舞藩と縁ある福島県いわき市、静岡市の清水区などに「天田愚庵歌碑」や次郎長の顕彰碑」建立など牛久の原地石材店の協力を得て実現したことは施主の高石鶴子さんにとつても、又、自分にとつてもこのことに関われたということに幸いな事であった。

又、この動きの中で静岡市の次郎長翁を知る会」やいわき市の愚庵会」、東京谷中の全生庵で繋がった山岡鉄舟会等々と地元 鶴舞の歴史」が、広く各地域と「衣帯水」の関係であったことが再認識でき、それを通して市原市の鶴舞の歴史」の存在が藩主井上正直「伏谷如水と清水ノ次郎長」等を媒介として周知でき、遅まきながら仲間入りができたかなという点では自己満足している。

思いつくままに羅列して略記してみたのが本書であり、鶴舞藩を知る会」等の今日までの大まかな活動を記録したものであり、卒寿を迎え、今後の活動については、後輩に期待し、鶴舞の歴史と文化」が今後、永く語り伝えられることを願う一人であります。

奇しくもこの大宇宙の中で、永いようで短かつた月日ではありましたが、昭和、平成、令和」といつ時代を、縁でお会いし、お世話になりました多くの方々、心からの感謝と御礼を申し上げ、忘れ得ぬ楽しかった日々の思い出とともに、又の再会を楽しみにご挨拶に代える次第です。

令和八年六月 吉日

鶴舞藩を知る会」

二代会長

塚原 茂



卒寿直前の筆者



参考資料 (表紙の写真は鶴舞台上からの風景)

市原市史 大多喜町史 大多喜町の歴史と史跡 佐倉市史 木更津市史 東金市史  
 茂原市史 長南町史 山武町史 小櫃村史 袖ヶ浦町史 酒々井町史 習志野市史  
 三百藩家臣人名事典 大森鍾一と山県有朋 次郎長の経済学(竹内宏・田口英爾著)  
 絵で見る次郎長一代記 清水次郎長と明治維新(田口英爾著) 房総の仙客・日高誠実  
 創立百年・牛久小学校昭和六十二年 落日の宴・勘定奉行川路聖謨(吉村昭著)  
 ふるさと漫筆(小幡重康著) 千葉県史料近代編 千葉県の歴史 高山彦九郎・北行日記  
 森蔵寺ものがたり(編集人・小林将) 南総里見八犬伝 二十四孝物語 市原のあゆみ  
 春日井梅鶯一代記(本傳寺発行・洗心 発行人・木村乾行) 会報・次郎長 千葉県議会史  
 松山好徳・垂墨利加合衆国航海記(南総郷土文化研究会双書第八巻) 小学国語読本  
 加藤実之吉遺歌集冬翠(冬のみどり) 古川哲史編 岡崎市・新海眞二蔵史料 市原郡誌  
 足助久佳歌集篋(たかむら) 歌僧天田愚庵「巡礼日記」を詠む(松尾心空)  
 次郎長生家史料沙羅の木(愚庵会々報) 寛政重修諸家譜 一握の砂鶴岡久芝  
 鈴木良知家史料 望嶽亭・藤屋と清水次郎長(若杉昌敬編著) 房総の仙客・日高誠実  
 井上御殿様仮御本堂中井二霸舞表御引遷後御用留 関宏夫著かくれみの街道をゆく  
 文芸もばら第二十九号関寛斎を探索し著した川崎巳三郎・乾浩文章 南総公民館資料

改訂

新・房総の夜明け

伏谷如水と清水次郎長の生きた時代」とその後

「鶴舞藩を知る会の足跡」

発行人 鶴舞藩を知る会

二代会長 塚原茂

住所 市原市藪二七五の一

電話 0436920149

携帯 09087786420

初版年月日 令和三年八月吉日

改訂再版 令和八年六月吉日

印刷 千代田印刷有限会社

市原市玉前一三二二

0436210093